

# 第40期 決算・運用状況のご報告

第40期資産運用報告  
自 2023年6月1日 至 2023年11月30日

## サステナビリティサイトについて

本投資法人と本資産運用会社のESG課題解決に向けた様々な取組みは、サステナビリティサイトにおいて開示しております。

本投資法人ホームページ



本資産運用会社ホームページ



**サステナビリティサイト**

環境、社会及び経済における課題解決、新しい価値の創造への取り組みを通じて、持続可能な多様性と包摂性のある社会の実現を目指します。

ユナイテッド・アーバン投資法人（UUR）とその資産運用会社である丸紅リートアドバイザーズ株式会社（MRA）におけるESGへの取り組みをまとめています。

**CRREM1.5°C/パスウェイ（日本）**  
スコープ1-スコープ2-スコア<sup>1)</sup>

— 絶対削減シナリオ — 蓄エネ+再エネ導入シナリオ — 1.5°Cシナリオ

GHG排出量削減率 (t-CO<sub>2</sub>/m<sup>2</sup>)

2021 2025 2030 2035 2040 2045 2050

ESGに関する取り組み（環境）  
ESGに関する取り組み（社会）  
ESGに関する取り組み（ガバナンス）

上のQRコードから詳細をご覧ください。



ユナイテッド・アーバン投資法人  
United Urban Investment Corporation

2003 - 2023

## Contents

- 24 I 資産運用報告
- 56 II 貸借対照表
- 58 III 損益計算書
- 59 IV 投資主資本等変動計算書
- 61 V 注記表
- 74 VI 金銭の分配に係る計算書
- 76 VII 監査報告書
- 78 VIII キャッシュ・フロー計算書(参考情報)

## ご挨拶

投資主の皆様におかれましては、平素よりユナイテッド・アーバン投資法人に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本投資法人は2024年1月19日に第40期(2023年11月期)の決算を公表しました。

本投資法人は総合型投資方針の下、当期は商業施設、ホテル開発用地各1物件、計2物件(取得価格計4,500百万円)を取得しました。一方、不動産売買市況と保有物件の将来性等を総合的に勘案し、住居1物件(譲渡価格1,450百万円)を譲渡し、ポートフォリオの収益力向上、築年数の若返り等の質的改善を図りました。

地政学リスクの顕在化による世界的なエネルギー及び原材料価格高騰の長期化懸念、欧米におけるインフレ率の高止まりによる景気減速の可能性等、不安定な状況が継続したものの、訪日外国人数の増加及び不動産賃貸市場における需要の堅調さを好機として各用途・分野における収益向上策に取組んだこと等により、当期決算は営業収益25,356百万円(対前期比+304百万円)、当期純利益10,369百万円(同+440百万円)を計上いたしました。その結果、1口当たり分配金は3,371円(同+142円)とさせていただきます。

投資主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本投資法人の資産運用委託先であるジャパン・リート・アドバイザーズ株式会社は、スポンサーであります丸紅グループとの連携を一層深めるべく、2023年12月1日付で丸紅リートアドバイザーズ株式会社に商号変更しました。今後も丸紅リートアドバイザーズ株式会社と共に、本投資法人の一層の付加価値向上を視野に入れ、中長期安定運用に注力してまいります。



ユナイテッド・アーバン投資法人  
執行役員

朝谷 健民(左)

丸紅リートアドバイザーズ株式会社  
代表取締役 社長執行役員

馬躰 純一(右)



資産規模(第40期末時点)

6,918億円

投資物件数(第40期末時点)

141物件

## 決算ハイライト

第40期 1口当たり分配金  
(2023年6月1日~2023年11月30日)

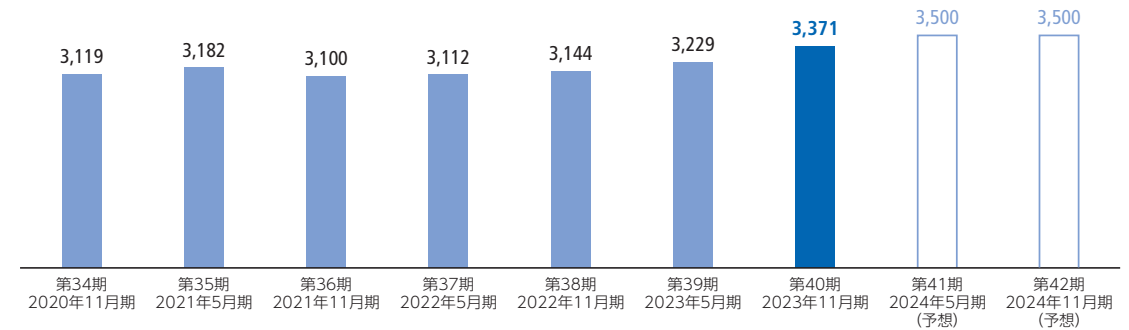
3,371円

第41期 予想1口当たり分配金(注)  
(2023年12月1日~2024年5月31日) 3,500円

第42期 予想1口当たり分配金(注)  
(2024年6月1日~2024年11月30日) 3,500円

(注) 予想1口当たり分配金は、一定の前提条件の下に算出した2024年1月19日時点のものとあり、今後の不動産等の取得又は譲渡、不動産市場等の推移、本投資法人を取り巻くその他の状況の変化等により、実際の1口当たり分配金は変動する可能性があります。また、本予想は分配金の額を保証するものではありません。最新の業績予想等の情報は、本投資法人のホームページをご参照ください。

1口当たり分配金(円)



決算・財務指標

		第38期 2022年11月期	第39期 2023年5月期	第40期 2023年11月期	第41期 2024年5月期 (予想)	第42期 2024年11月期 (予想)
営業収益	(百万円)	24,433	25,052	25,356	25,702	26,372
営業利益	(百万円)	10,627	10,903	11,408	11,897	11,913
経常利益	(百万円)	9,666	9,930	10,370	10,768	10,768
当期純利益	(百万円)	9,666	9,929	10,369	10,768	10,768
分配金総額	(百万円)	9,741	10,005	10,445	10,845	10,845
1口当たり分配金	(円)	3,144	3,229	3,371	3,500	3,500
総資産額	(百万円)	714,899	723,202	727,227	—	—
純資産額	(百万円)	360,338	360,480	360,800	—	—
1口当たり純資産額	(円)	116,291	116,336	116,400	—	—

格付の状況(2023年12月31日時点)

株式会社日本格付研究所(JCR)  
(長期発行体格付) 見通し: 安定的 AA

内部留保(注)額合計(第40期末時点)

9,825百万円

ポートフォリオ稼働率(第40期末時点)

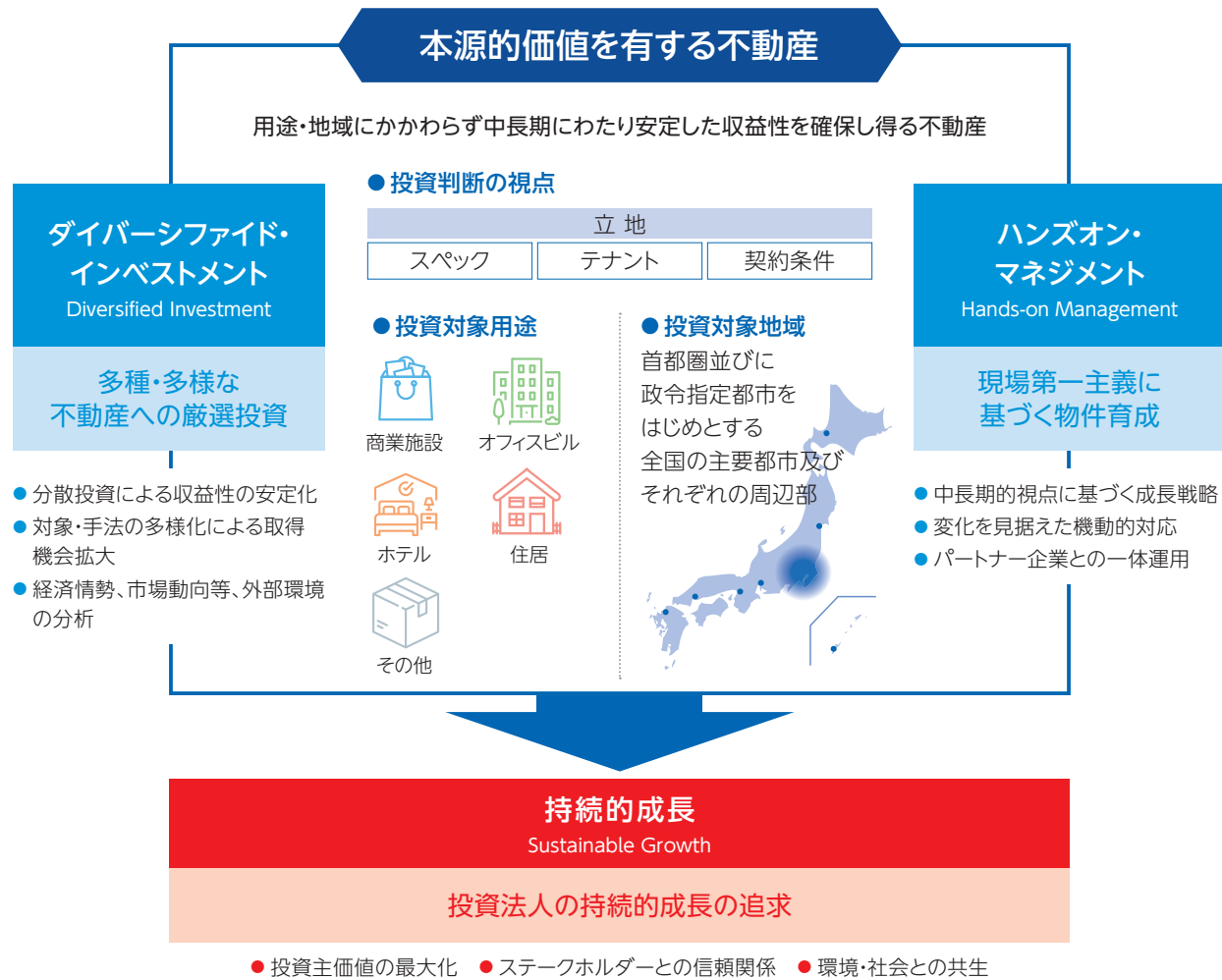
99.0%

総資産LTV(第40期末時点)

44.5%

(注) 一時差異等調整積立金及び配当準備積立金。

本源的価値を有する不動産を見極め、**持続的成長**を追求するREITです



## ダイバーシファイド・インベストメントとは

- 特定の用途・投資地域に捉われることなく、幅広い投資対象物件の中から高い「本源的価値」を有する不動産の取得を図ることにより、優良物件取得の機会が広がるものと見込まれます。
- また、用途・投資地域の競争状況等を注視しつつ、その時点で最も有利と考えられる物件に投資することにより、物件取得競争が厳しい中であっても、収益目標を堅持しつつ、適正な価格で継続的な物件取得が可能となります。

## ハンズオン・マネジメントとは

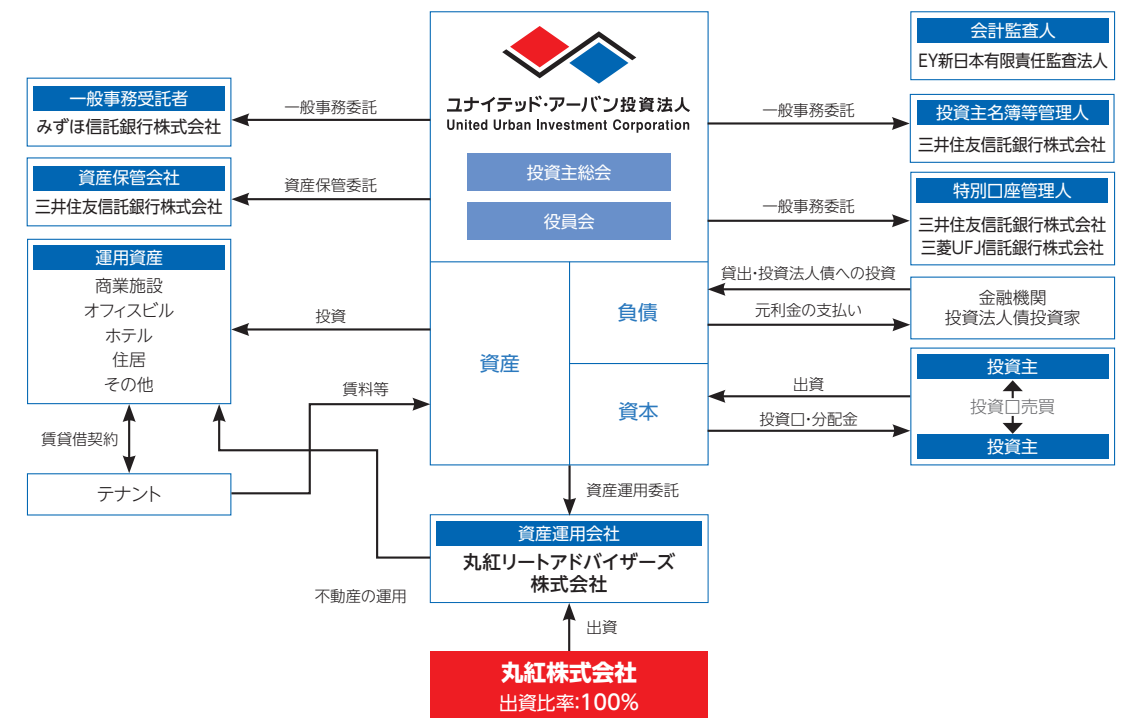
- 個々の物件ポテンシャルを最大限に活かすべく、現場第一主義に基づき、テナント・戦略的パートナーとの対話を重視し、将来的展望に立った顧客ニーズや市況動向に物件を適合させるための大規模改修工事や増築等の戦略的投資により、物件価値の維持・向上に取組みます。
- また、主体的なりテナントや運営コスト削減を実施することにより、物件収益性の向上を目指します。

## 概要

投資法人名	ユナイテッド・アーバン投資法人 略称：UUR (英文名称：United Urban Investment Corporation)
役員	執行役員：朝谷 健民 監督役員：岡村 憲一郎 監督役員：関根 久美子
本店所在地	東京都港区虎ノ門四丁目3番1号 城山トラストタワー18階
上場日	2003年12月22日 東京証券取引所不動産投資信託証券市場 銘柄コード：8960
資産運用会社	丸紅リートアドバイザーズ株式会社



## ユナイテッド・アーバン投資法人の仕組み



名称	業務内容
投資法人	規約に基づき、投資主より払込みを受けた資金等を主として不動産を主とした運用資産に投資することにより運用を行います。
資産運用会社	投資信託及び投資法人に関する法律(投信法)上の資産運用会社として、資産運用委託契約に基づき、資産の運用に係る業務を行います。
一般事務受託者	投信法上の一般事務受託者として、投資法人の機関の運営に関する事務の一部、並びに計算及び会計帳簿の作成に関する事務等を行います(但し、投資法人債に係る業務を除きます。)
資産保管会社	投信法上の資産保管会社として、投資法人の資産保管業務を行います。

# 投資法人の持続的成長

## スポンサーである総合商社・丸紅とのシナジー

大手総合商社の丸紅株式会社は、本投資法人の資産運用会社である丸紅リートアドバイザーズ株式会社の100%株主です。同社を中心とする丸紅グループの有する機能、情報ネットワークやサポートを最大限に活用し、物件取得・売却、テナントリーシング、コスト低減などに取組み、中長期にわたり安定的なポートフォリオの構築・運営を目指します。



丸紅都市開発株式会社 丸紅リアルエステートマネジメント株式会社 丸紅アセットマネジメント株式会社  
みずほ丸紅リース株式会社 丸紅新電力株式会社 丸紅セーフネット株式会社 丸紅ネットワークソリューションズ株式会社

### ダイバーシファイド・インベストメント

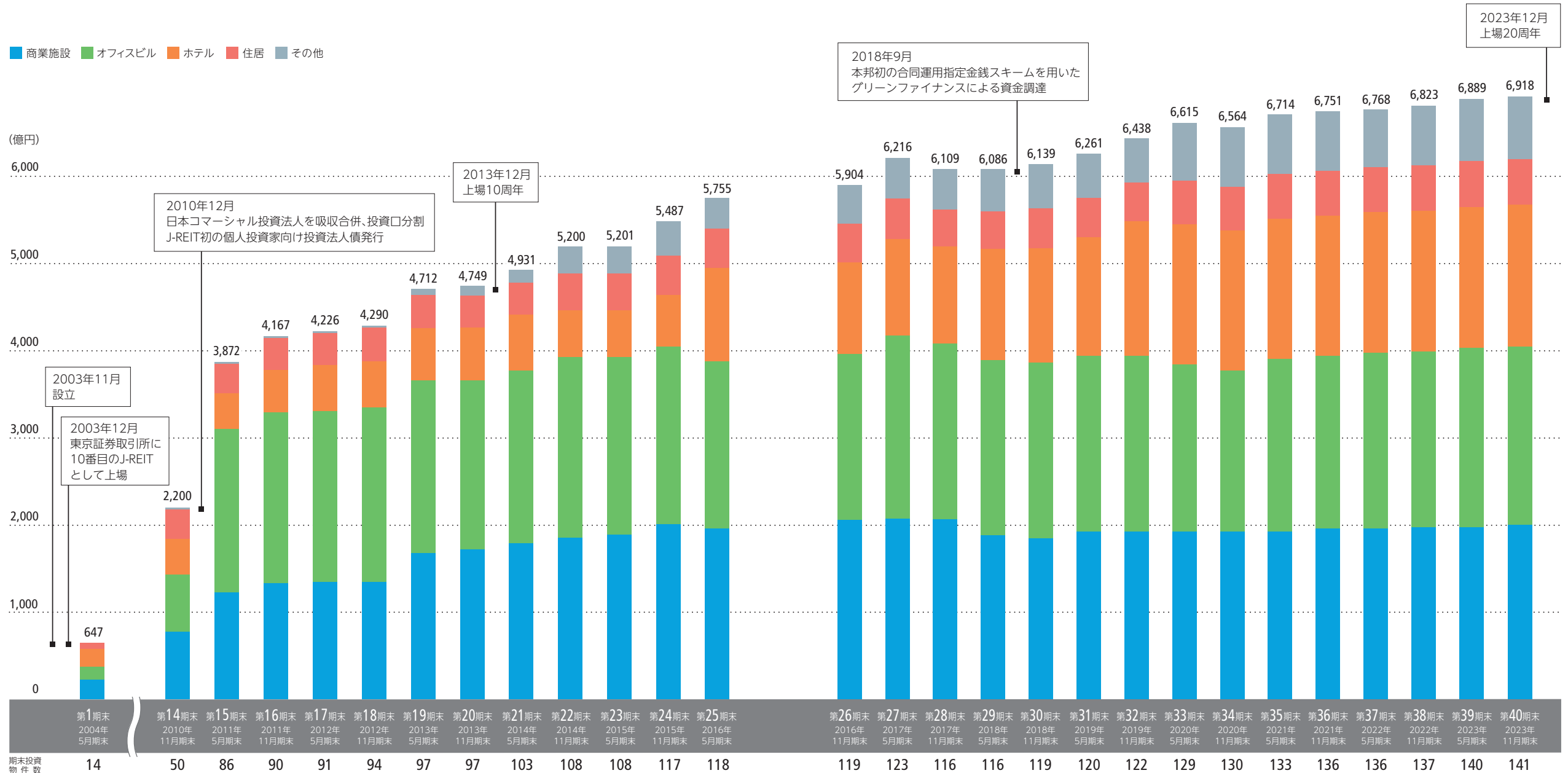
不動産開発／プロジェクト・マネジメント  
ウェアハウジング(先行／代行保有)  
不動産仲介 アセット・マネジメント(私募リート／ファンド)

### ハンズオン・マネジメント

不動産管理・運営 電力供給  
保険サービス DXコンサルティング

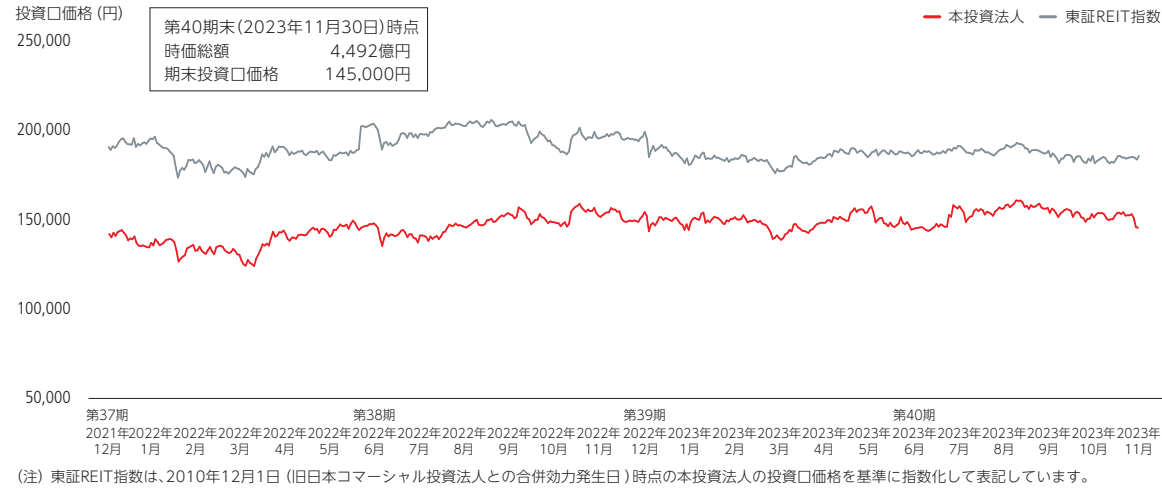


## 資産規模の推移

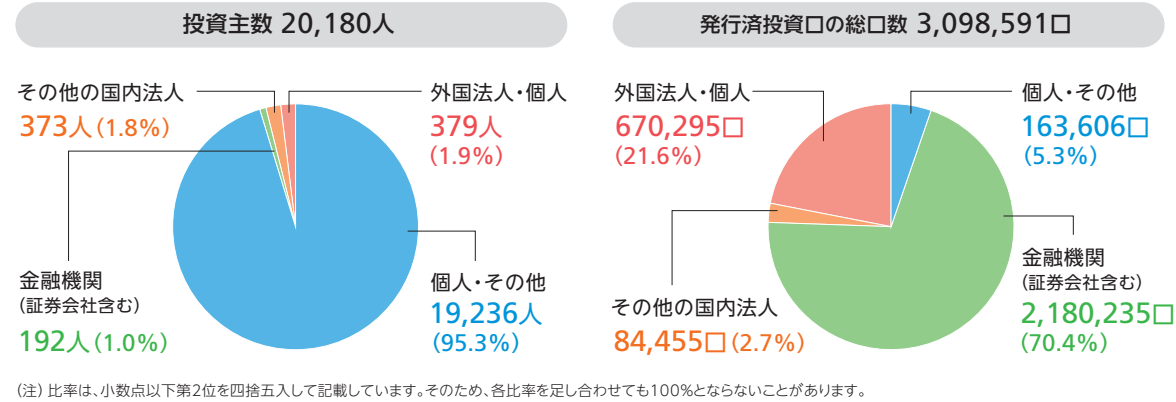


# 投資口の状況

## 投資口価格の推移



## 所有者別投資主・投資口数 (第40期末時点)



## 内部留保(注)の活用方針

分配金水準に留意しつつ、内部留保も活用し、中長期的な投資主価値の向上を目指します。

- 機動的な資本調達を通じた外部成長の促進**  
新投資口の発行等による一時的な分配金の希薄化を緩和しつつ、経済情勢や市況に応じた機動的な資本調達と、外部成長の促進を図ります。
- 中長期的観点に立ったポートフォリオ運営**  
物件売却による損失発生時や大口テナント退去等による一時的な賃料減少発生時等においても、内部留保の活用により分配金への悪影響を緩和しつつ、中長期的に見て最適と考えられるポートフォリオの構築、物件運営を目指します。
- 税会不一致への対応**  
減損損失等税会不一致を招来する懸念がある場合、内部留保を分配金に加算して、多額の法人税が課される事態を回避し、分配金減少リスクの軽減を図ります。
- 緊急事態への対応**  
不測の事態が発生し、不動産運用状況が大きく影響を受けることが見込まれる場合、方針を明示して内部留保の活用を行い、分配金の安定を図ります。

(注) 一時差異等調整積立金及び配当準備積立金。

# 物件取得・売却の状況

## 第40期新規取得物件

A45 東松戸ショッピングセンター
RETAIL PROPERTIES

所在地	千葉県松戸市
構造・規模	レジデンス棟：RC 19F モール棟：S 1F
建築時期	2018年1月
取得日	2023年6月1日
取得価格	2,200百万円

- スーパーマーケットを核テナントに、ドラッグストアやクリニック等、生活利便性の高いテナント構成。
- 千葉県松戸市「東松戸」駅から徒歩2分の角地に所在。JR、私鉄を含む3路線の利用が可能。
- 徒歩圏内に公園、保育園のほか、図書館等が併設された公共施設が位置する住環境の良いエリア。

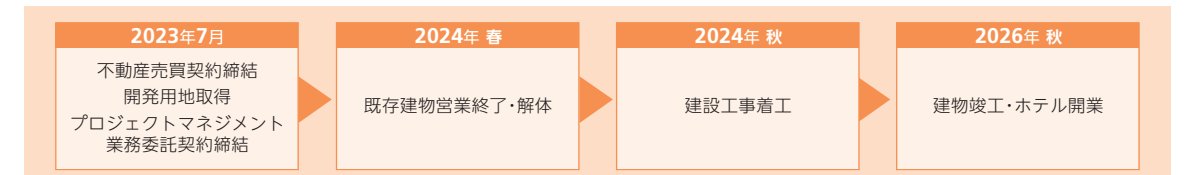
C22 博多祇園開発用地 (ホテル開発プロジェクト)
HOTELS

所在地	福岡県福岡市
交通	福岡市営地下鉄 七隈線「榊原神社前」駅徒歩1分・空港線「祇園」駅徒歩5分 JR「博多」駅徒歩8分
面積	690.66m <sup>2</sup> (注1)
所有形態	所有権
取得日	2023年7月31日
取得価格	2,300百万円(注2)

- 福岡市の博多祇園エリアで開発用地を取得。
- 九州地方の周遊拠点「博多」駅から徒歩8分。九州最大級の商業エリア「天神・中洲」至近に立地。
- 福岡空港まで電車で10分。2025年に増設滑走路が供用開始予定。ビジネス・観光両面で更なる宿泊需要増に期待。

(注1) 2023年12月18日付で土地の合筆及び地積更正登記を実施。取得時の土地面積から変更となっています。  
(注2) 土地の取得価格であり、今後開発予定の建物等の取得価格は、2024年1月19日現在未定です。

## 開発スケジュール(予定)



## 第40期売却物件

### D16 グランルージュ栄

RESIDENTIAL 




所在地	愛知県名古屋市	譲渡日	2023年6月1日
建築時期	2006年3月	譲渡価格	1,450百万円
取得日	2006年11月30日	帳簿価額 <sup>(注2)</sup>	1,121百万円
取得価格	1,570百万円	売却益	+310百万円
鑑定評価額 <sup>(注1)</sup>	1,430百万円		

(注1) 2023年5月31日時点。  
(注2) 譲渡日時点。

- 2006年に新築で取得し、取得時より安定稼働を維持。
- 将来の設備投資負担、不動産マーケットの動向等を踏まえて譲渡を判断。
- 本物件売却により得られた資金は、第40期の物件取得に充当。

## ハンズオン・マネジメント

首都圏において堅調なテナントニーズを捉え、解約予告期間における機動的なリーシングによりダウンタイムを抑えたスムーズなリテナントを実施


 OFFICE **B4**

麴町センタープレイス

5区画 592m<sup>2</sup>

- 都心6区(千代田区)所在
- リテナントまでのダウンタイム平均10日間
- 入替前と比べ賃料は**+6.8%**増額




 OFFICE **B22**

パシフィックマークス新横浜

3区画 736m<sup>2</sup>

- 首都圏(横浜市)所在
- リテナントまでのダウンタイム平均19日間
- 入替前と比べ賃料は**+25.9%**増額



 OFFICE **B38**

湯島ファーストビル

1区画 573m<sup>2</sup>

- 東京23区(文京区)所在
- リテナントまでのダウンタイムなし
- 入替前と比べ賃料は**+8.9%**増額



## 物件紹介

右のQRコードから本投資法人の保有物件概要をご覧いただくことができます。



## 主な保有物件 (第40期末時点)

 商業施設  オフィスビル  ホテル  住居  その他

 RETAIL PROPERTIES **A15**

心齋橋OPA本館

 RETAIL PROPERTIES **A29**

ヨドバシカメラ マルチメディア吉祥寺

 RETAIL PROPERTIES **A37**

UUR天神西通りビル

 RETAIL PROPERTIES **A40**

くるる

 RETAIL PROPERTIES **A42**

Luz武蔵小杉

 RETAIL PROPERTIES **A43**

LEVENおたかの森

メイン棟

アネックス



OFFICE **B6**

新大阪セントラルタワー



OFFICE **B37**

アリーナタワー



OFFICE **B44**

SS30



HOTELS **C1**

新宿ワシントンホテル本館



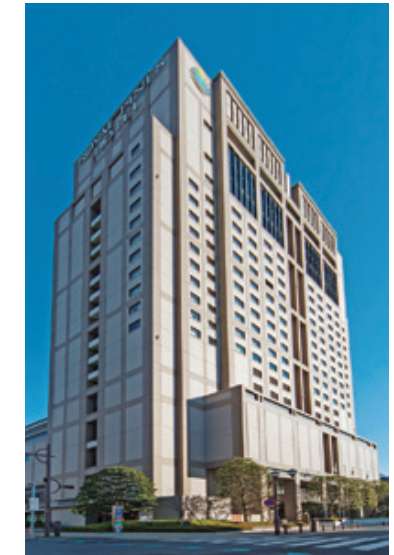
HOTELS **C13**

ロワジールホテル&  
スパタワー那覇



HOTELS **C14**

ロイヤルパインズホテル浦和



OFFICE **B46**

虎ノ門ヒルズ 森タワー



OFFICE **B48**

UUR京橋イーストビル



OFFICE **B49**

飯田橋プラノー



HOTELS **C15**

リーガロイヤルホテル小倉・  
あるあるCity



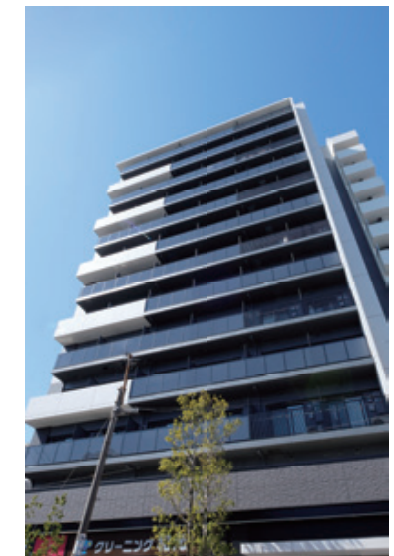
RESIDENTIAL **D26**

グレンパーク梅田北



RESIDENTIAL **D31**

パークアクシス赤塚



右のQRコードから本投資法人の保有物件概要を  
ご覧いただくことができます。



## 財務運営の状況

RESIDENTIAL **D34**

UURコート茨木東中条

RESIDENTIAL **D36**

グランルージュ城東

OTHERS **E4**

ザ プレイス オブ トウキョウ

OTHERS **E5**

ロジスティクス東扇島

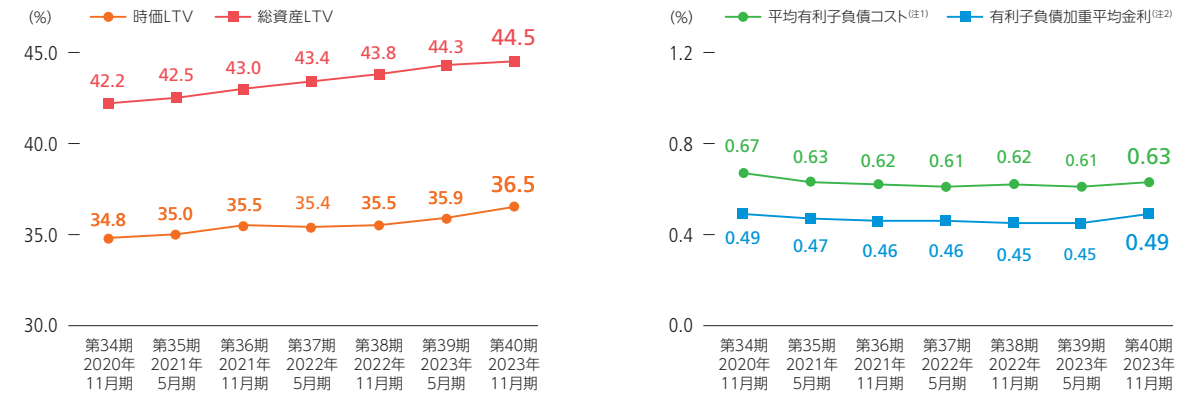
OTHERS **E6**

第1・第2MT有明センタービル

OTHERS **E20**

グランダ宮の森

### LTV(各期末時点)及び平均有利子負債コスト等の推移

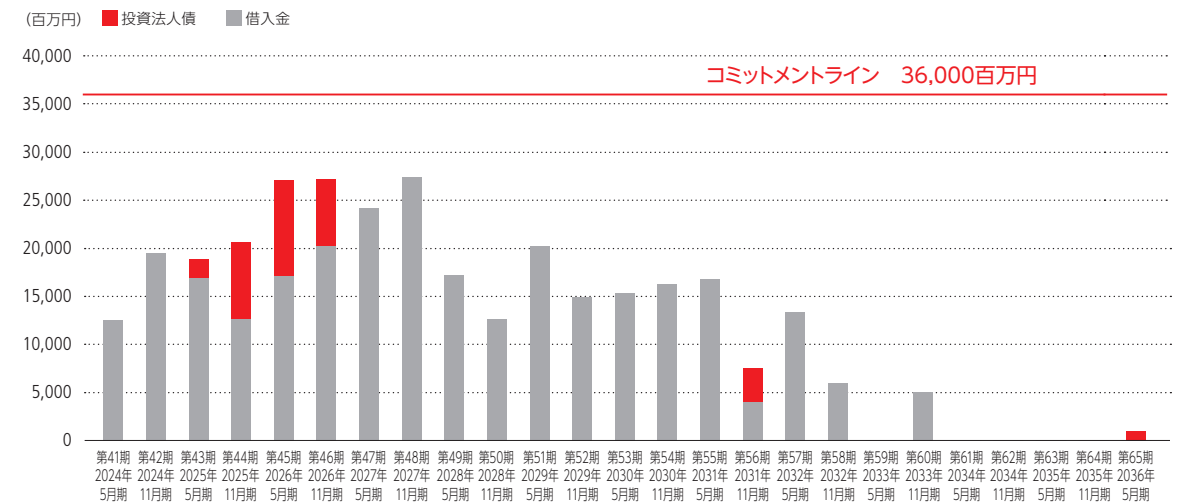


(注1) 平均有利子負債コストは「(支払利息+融資関連費用+投資法人債利息+投資法人債発行費等)÷各期末有利子負債残高×365÷運用日数」により算出しています。  
(注2) 加重平均金利とは各期末時点の有利子負債全額の融資関連費用等を含まない表面金利(利率)の加重平均値です。

### 財務指標の推移

	第39期末(2023年5月31日)	第40期末(2023年11月30日)
有利子負債総額	3,204億円	3,238億円
借入金	2,859億円	2,923億円
投資法人債	345億円	315億円
加重平均残存期間	4.0年	4.1年
加重平均金利	0.45%	0.49%
長期有利子負債比率(契約ベース)	99.7%	98.8%
固定金利比率	88.0%	85.1%
コミットメントライン	360億円(借入実績なし)	
総資産LTV	44.3%	44.5%
(ご参考) サステナビリティファイナンス	380億円	490億円

### 有利子負債の返済(償還)期限の分散状況(第40期末時点)









## ポートフォリオ一覧(第40期末時点)

用途	物件 番号	物件名称	地域 (注1)	所在地	取得価格 (百万円)	取得期	取得日
	A2	ジョイパーク泉ヶ丘	地方	大阪府堺市	6,770	1期	2003年12月22日
	A4	Luz船橋	首都圏	千葉県船橋市	5,200	2期	2004年 9月17日
	A6	天神ルーチェ	地方	福岡県福岡市	6,500	5期	2006年 4月14日
	A7	テックランド堺本店	地方	大阪府堺市	3,210	5期	2006年 4月28日
	A8	宮前ショッピングセンター	首都圏	神奈川県川崎市	5,312	7期	2007年 2月19日
	A9	コナミスポーツクラブ香里ヶ丘	地方	大阪府枚方市	2,040	8期	2007年 6月29日
	A10	アクティオーレ南池袋	23区	東京都豊島区	3,760	8期	2007年 9月27日
	A11	Tip's町田ビル	首都圏	東京都町田市	4,100	9期	2007年12月27日
	A12	ダイエー宝塚中山店	地方	兵庫県宝塚市	4,284	9期	2008年 1月30日
	A13	maricom-ISOGO・システムプラザ横浜(敷地) <sup>(注2)</sup>	首都圏	神奈川県横浜市	11,904	9期	2008年 2月18日
	A14	アクティオーレ関内	首都圏	神奈川県横浜市	2,410	10期	2008年 6月30日
	A15	心斎橋OPA本館	地方	大阪府大阪市	22,800	15期	2010年12月 1日
	A19	アルポーレ神宮前	6区	東京都渋谷区	1,580	15期	2010年12月 1日
	A20	アルポーレ仙台	地方	宮城県仙台市	2,590	15期	2010年12月 1日
	A21	モラーージュ柏	首都圏	千葉県柏市	7,040	15期	2010年12月 1日
	A23	イトーヨーカドー尾張旭店	地方	愛知県尾張旭市	4,840	15期	2010年12月 1日
	A24	横浜狩場ショッピングセンター	首都圏	神奈川県横浜市	2,500	15期	2010年12月 1日
商業施設	A25	Luz自由が丘	23区	東京都目黒区	5,090	16期	2011年 6月15日
	A26	アクティオーレ市川	首都圏	千葉県市川市	3,350	16期	2011年 6月15日
	A27	横浜青葉ショッピングセンター(敷地)	首都圏	神奈川県横浜市	2,600	16期	2011年10月31日
	A28	ヤマダ電機テックランド青葉店(敷地)	首都圏	神奈川県横浜市	2,150	17期	2012年 5月18日
	A29	ヨドバシカメラマルチメディア吉祥寺	首都圏	東京都武蔵野市	28,000	19期	2013年 3月18日
	A30	家電住みえる館YAMADA松戸本店	首都圏	千葉県松戸市	5,150	19期	2013年 3月18日
	A31	Luz福岡天神	地方	福岡県福岡市	4,350	20期	2013年11月29日
	A32	鳴海ショッピングセンター(敷地)	地方	愛知県名古屋市中区	6,460	21期	2014年 4月 8日
	A33	ブラッシングウェーブ江の島	首都圏	神奈川県藤沢市	1,800	22期	2014年 8月29日
	A34	ライフ西九条店(敷地)	地方	大阪府大阪市	1,760	23期	2015年 3月 2日
	A35	ライフ玉造店(敷地)	地方	大阪府大阪市	1,880	23期	2015年 3月 2日
	A36	グランベル銀座ビル	6区	東京都中央区	2,621	24期	2015年 6月30日
	A37	UUR天神西通りビル	地方	福岡県福岡市	5,500	24期	2015年 7月15日
	A38	Luz湘南辻堂	首都圏	神奈川県藤沢市	3,938	24期	2015年 9月30日
	A39	アクティオーレ上野	23区	東京都台東区	3,000	25期	2015年12月 4日
	A40	くるる	首都圏	東京都府中市	9,285	26期	2016年 9月 1日
	A41	ケーズデンキ名古屋北店	地方	愛知県西春日井郡	1,750	27期	2016年12月 1日
	A42	Luz武蔵小杉	首都圏	神奈川県川崎市	12,151	31期	2018年12月28日
	A43	LEVENおたかの森	首都圏	千葉県流山市	3,800	36期	2021年 6月30日
	A44	ガリバー八王子みなみ野店	首都圏	東京都八王子市	1,500	38期	2022年 6月30日
New	A45	東松戸ショッピングセンター	首都圏	千葉県松戸市	2,200	40期	2023年 6月 1日

用途	物件 番号	物件名称	地域 (注1)	所在地	取得価格 (百万円)	取得期	取得日
	B1	T&G浜松町ビル	6区	東京都港区	2,257	1期	2003年12月26日
	B3	福岡アーセオンビル	地方	福岡県福岡市	2,080	1期	2003年12月26日
	B4	麹町センタープレイス	6区	東京都千代田区	2,350	1期	2004年 3月29日
	B6	新大阪セントラルタワー <sup>(注2)</sup>	地方	大阪府大阪市	24,000	3期	2004年12月 2日
	B7	川崎東芝ビル	首都圏	神奈川県川崎市	19,200	3期	2004年12月20日
	B8	UUR東陽町ビル	23区	東京都江東区	8,500	10期	2008年 6月30日
	B9	フォーシーズンビル	6区	東京都新宿区	4,200	13期	2009年12月25日
	B11	パシフィックマークス新宿パークサイド	6区	東京都新宿区	12,100	15期	2010年12月 1日
	B13	パシフィックマークス月島	6区	東京都中央区	6,080	15期	2010年12月 1日
	B14	パシフィックマークス横浜イースト	首都圏	神奈川県横浜市	7,050	15期	2010年12月 1日
	B17	赤坂氷川ビル	6区	東京都港区	3,290	15期	2010年12月 1日
	B18	パシフィックマークス渋谷公園通	6区	東京都渋谷区	2,570	15期	2010年12月 1日
	B20	パシフィックマークス赤坂見附	6区	東京都港区	2,210	15期	2010年12月 1日
	B22	パシフィックマークス新横浜	首都圏	神奈川県横浜市	1,710	15期	2010年12月 1日
	B25	パシフィックマークス川崎	首都圏	神奈川県川崎市	9,890	15期	2010年12月 1日
	B26	浜松町262ビル <sup>(注3)</sup>	6区	東京都港区	6,840	15期	2010年12月 1日
	B27	リーラヒジリザカ	6区	東京都港区	2,750	15期	2010年12月 1日
	B29	大塚HTビル	23区	東京都豊島区	1,160	15期	2010年12月 1日
	B30	パシフィックマークス新宿サウスゲート	6区	東京都新宿区	2,460	15期	2010年12月 1日
	B31	パシフィックマークス西梅田	地方	大阪府大阪市	6,860	15期	2010年12月 1日
	B32	パシフィックマークス肥後橋	地方	大阪府大阪市	4,570	15期	2010年12月 1日
	B35	パシフィックマークス札幌北一条	地方	北海道札幌市	1,790	15期	2010年12月 1日
	B36	新札幌センタービル	地方	北海道札幌市	987	15期	2010年12月 1日
	B37	アリーナタワー	首都圏	神奈川県横浜市	9,500	16期	2011年 6月16日
	B38	湯島ファーストビル	23区	東京都文京区	2,100	18期	2012年 8月29日
	B39	道玄坂スクエア	6区	東京都渋谷区	2,300	18期	2012年11月22日
	B40	グランスクエア新栄	地方	愛知県名古屋市中区	1,480	21期	2014年 2月28日
	B41	グランスクエア名駅南	地方	愛知県名古屋市中区	1,220	21期	2014年 2月28日
	B42	芝520ビル	6区	東京都港区	2,100	21期	2014年 3月28日
	B43	広瀬通SEビル	地方	宮城県仙台市	3,600	22期	2014年 6月13日
	B44	SS30 <sup>(注2)</sup>	地方	宮城県仙台市	18,200	27期	2017年 3月30日
	B45	LOOP-X・M	6区	東京都港区	11,200	27期	2017年 4月26日
	B46	虎ノ門ヒルズ 森タワー	6区	東京都港区	10,000	35期	2020年12月 1日
	B47	虎ノ門PFビル	6区	東京都港区	3,435	35期	2020年12月 1日
	B48	UUR京橋イーストビル	6区	東京都中央区	7,280	35期	2021年 3月31日
	B49	飯田橋プラーノ <sup>(注3)</sup>	6区	東京都千代田区	5,950	37期	2022年 3月31日
	B50	大阪ベイタワー	地方	大阪府大阪市	2,637	39期	2023年 3月20日

オフィスビル

右のQRコードから本投資法人の保有物件概要を  
ご覧いただくことができます。



ポートフォリオ一覧(第40期末時点)

用途	物件 番号	物件名称	地域 (注1)	所在地	取得価格 (百万円)	取得期	取得日
ホテル	C1	新宿ワシントンホテル本館 <sup>(注3)</sup>	6区	東京都新宿区	21,140	1期	2003年12月22日
	C2	東横イン川駅高輪口	6区	東京都港区	1,884	3期	2005年 2月18日
	C3	MZビル	首都圏	東京都八王子市	3,800	9期	2008年 4月10日
	C4	ホテルルートイン横浜馬車道	首都圏	神奈川県横浜市	4,720	10期	2008年 6月30日
	C5	ホテルJALシティ那覇 <sup>(注3)</sup>	地方	沖縄県那覇市	7,666	16期	2011年10月25日
	C6	UUR四谷三丁目ビル	6区	東京都新宿区	4,200	17期	2011年12月26日
	C7	四谷213ビル	6区	東京都新宿区	5,020	19期	2013年 3月18日
	C9	コンフォートイン東京六本木 <sup>(注3)</sup>	6区	東京都港区	4,488	21期	2014年 5月 1日
	C10	東横イン川崎駅前市役所通	首都圏	神奈川県川崎市	2,655	24期	2015年 8月31日
	C11	東横イン広島平和大通	地方	広島県広島市	2,113	24期	2015年 8月31日
	C12	東横イン那覇国際通り美栄橋駅	地方	沖縄県那覇市	745	24期	2015年 8月31日
	C13	ロワジュールホテル&スパタワー那覇	地方	沖縄県那覇市	20,000	25期	2016年 2月 5日
	C14	ロイヤルパインズホテル浦和	首都圏	埼玉県さいたま市	17,500	25期	2016年 4月 1日
	C15	リーガロイヤルホテル小倉・あるあるCity	地方	福岡県北九州市	16,600	29期	2018年 1月26日
	C16	コンフォートイン福岡天神	地方	福岡県福岡市	3,000	30期	2018年 9月27日
	C17	変なホテル東京 浜松町	6区	東京都港区	4,456	31期	2019年 5月15日
	C18	ホテルヒューイット甲子園	地方	兵庫県西宮市	13,520	32期	2019年 6月25日
	C19	スマイルホテルプレミアム札幌すすきの	地方	北海道札幌市	4,233	32期	2019年 6月28日
	C20	ザ・スクエアホテル金沢	地方	石川県金沢市	4,802	33期	2019年12月 3日
	New	C21	リーガプレイス京都四条烏丸	地方	京都府京都市	2,010	33期
C22		博多祇園開発用地	地方	福岡県福岡市	2,300	40期	2023年 7月31日
D1		T&G東池袋マンション	23区	東京都豊島区	2,021	1期	2003年12月26日
D4		駒沢コート	23区	東京都世田谷区	1,680	1期	2003年12月26日
D6		UURコート芝大門	6区	東京都港区	1,175	2期	2004年10月15日
D9		アプリーレ新青木一番館	地方	兵庫県神戸市	3,031	3期	2005年 4月13日
D10		UURコート札幌北三条	地方	北海道札幌市	1,278	5期	2006年 3月16日
D15		クリオ文京小石川	23区	東京都文京区	3,170	5期	2006年 4月28日
住居	D17	グランルージュ栄II	地方	愛知県名古屋市	1,300	9期	2007年12月26日
	D18	MA仙台ビル	地方	宮城県仙台市	3,440	10期	2008年 9月24日
	D19	UURコート名古屋名駅	地方	愛知県名古屋市	1,473	10期	2008年 9月30日
	D21	パークサイト泉	地方	愛知県名古屋市	900	10期	2008年11月21日
	D22	UURコート大阪十三本町	地方	大阪府大阪市	1,570	11期	2009年 2月26日
	D23	UURコート錦糸町	23区	東京都江東区	2,900	16期	2011年 6月15日
	D24	UURコート札幌南三条プレミアタワー	地方	北海道札幌市	2,050	18期	2012年 6月28日
	D25	グランルージュ中之島南	地方	大阪府大阪市	1,380	20期	2013年 6月25日
	D26	グレンパーク梅田北	地方	大阪府大阪市	5,150	22期	2014年 8月29日
	D27	UURコート志木	首都圏	埼玉県志木市	2,730	24期	2015年 9月18日
	D28	グランルージュ谷町六丁目	地方	大阪府大阪市	1,300	27期	2016年12月 1日

用途	物件 番号	物件名称	地域 (注1)	所在地	取得価格 (百万円)	取得期	取得日
住居	D29	シャトレ大手町S棟・N棟	地方	福岡県北九州市	3,398	30期	2018年 7月 3日
	D30	グランフォンテ	23区	東京都練馬区	2,700	31期	2019年 4月 1日
	D31	パークアクシス赤塚	23区	東京都板橋区	1,980	33期	2020年 3月30日
	D32	UURコート白鷺	23区	東京都中野区	1,442	33期	2020年 3月31日
	D33	コートプランシェAP	6区	東京都品川区	1,270	33期	2020年 3月31日
	D34	UURコート茨木東中条	地方	大阪府茨木市	1,665	35期	2020年12月 1日
D35	アムール横浜	首都圏	神奈川県横浜市	1,570	38期	2022年10月31日	
D36	グランルージュ城東	地方	大阪府大阪市	1,755	39期	2022年12月22日	
その他	E1	リリカラ東北支店	地方	宮城県仙台市	2,050	5期	2006年 5月29日
	E2	府中ビル	首都圏	東京都府中市	2,863	19期	2013年 5月16日
	E3	壺川スクエアビル	地方	沖縄県那覇市	4,150	20期	2013年11月 1日
	E4	ザ プレイス オブ トウキョウ	6区	東京都港区	3,500	21期	2014年 5月 1日
	E5	ロジスティクス東扇島 <sup>(注3)</sup>	首都圏	神奈川県川崎市	9,525	22期	2014年10月 2日
	E6	第1・第2MT有明センタービル	23区	東京都江東区	8,000	22期	2014年11月25日
	E8	新習志野物流センター	首都圏	千葉県習志野市	2,555	24期	2015年 8月 7日
	E9	川越物流センター	首都圏	埼玉県川越市	7,550	26期	2016年 6月17日
	E11	新習志野物流センターII	首都圏	千葉県習志野市	2,590	27期	2017年 1月31日
	E12	吉川物流センター	首都圏	埼玉県吉川市	1,960	28期	2017年 7月27日
	E13	武蔵村山物流センター	首都圏	東京都武蔵村山市	1,800	30期	2018年10月30日
	E14	千葉みなと物流センター(敷地)	首都圏	千葉県千葉市	6,600	33期	2020年 2月28日
	E15	枚方長尾物流センター	地方	大阪府枚方市	2,550	33期	2020年 3月31日
	E16	神戸速矢浜物流センター	地方	兵庫県神戸市	1,300	33期	2020年 4月17日
	E17	レッドウッド成田ディストリビューションセンター	首都圏	千葉県山武郡	2,345	34期	2020年 6月30日
	E18	加須物流センターI・II	首都圏	埼玉県加須市	3,259	36期	2021年 6月30日
E19	神戸西神物流センター	地方	兵庫県神戸市	1,923	36期	2021年 8月 6日	
E20	グランド宮の森 <sup>(注4)</sup>	地方	北海道札幌市	1,423	36期	2021年 9月30日	
E21	KIC狭山日高ディストリビューションセンター	首都圏	埼玉県日高市	4,450	38期	2022年 6月30日	
E22	札幌米里物流センター	地方	北海道札幌市	1,177	39期	2022年12月22日	
ポートフォリオ全体					691,831		

(注1) 「6区」、「23区」、「首都圏」及び「地方」はそれぞれ、15ページ「ポートフォリオの状況」の注釈に記載の「東京都心6区」、「東京23区」、「首都圏地域」及び「地方」を指します。  
(注2) A13「maricom-ISOGO・システムプラザ横浜(敷地)」は商業施設部分とオフィスビル部分を、B6「新大阪セントラルタワー」及びB44「SS30」はオフィスビル部分とホテル部分を、それぞれ含んでいます。  
(注3) B26「浜松町262ビル」、B49「飯田橋プラザ」、C1「新宿ワシントンホテル本館」、C5「ホテルJALシティ那覇」、C9「コンフォートイン東京六本木」、E5「ロジスティクス東扇島」は追加取得を行っています。それぞれ、取得日は初回の取得日を、取得価格は追加取得分を含めた合計を記載しています。  
(注4) 2021年9月30日に土地を取得、2023年5月31日に建物を取得しています。取得日は土地の取得日を、取得価格は土地と建物の合計を記載しています。



## 重要課題(マテリアリティ)への対応

本投資法人では、ESGに関する様々な課題の中で、SDGs(持続可能な開発目標)の考え方にに基づき、不動産投資信託として検討すべき課題を抽出し、特に取り組みを強化すべき課題を「重要課題(マテリアリティ)」として特定しています。

### ▶2024年の重要課題と関連するSDGs

重要課題	関連するSDGs	行動計画・目標
エネルギー消費・管理、再生可能エネルギーの活用	11 持続可能な都市とコミュニティ、13 気候変動への対応	<b>長期目標:</b> ①2030年までにポートフォリオのスコープ1及びスコープ2のGHG総排出量を42%削減(2021年対比) ②2050年までにバリューチェーン(スコープ3)を含むGHG総排出量をネットゼロにする
環境パフォーマンスの認証・評価取得	7 持続可能なエネルギー、11 持続可能な都市とコミュニティ、13 気候変動への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>CASBEE-不動産、BELS等、環境に関する外部認証の取得</li> <li>2024年までに環境認証取得カバー率80%(延床面積ベース)</li> </ul>
テナントとの環境配慮における協働	11 持続可能な都市とコミュニティ、13 気候変動への対応、17 パートナーシップ:持続可能な開発のための	<b>長期目標:</b> 2030年までにグリーンリース契約対応100%(一棟貸しを含む。住宅は除く)
従業員の働きがい・ウェルネスの推進	8 真実な働き方、17 パートナーシップ:持続可能な開発のための	<ul style="list-style-type: none"> <li>制度設計、インフラ整備又はITサービス導入を通じた就業環境の更なる向上</li> <li>従業員エンゲージメント調査の評価向上</li> </ul>
多様性と機会均等	5 ジェンダー平等	<ul style="list-style-type: none"> <li>男性従業員の育児休暇の取得率を30%以上とする</li> <li>女性管理職・女性管理職候補者の増加に向け女性従業員及び全管理職を対象とした意識醸成研修の実施</li> </ul>
従業員のパフォーマンスとキャリア開発	8 真実な働き方、17 パートナーシップ:持続可能な開発のための	<ul style="list-style-type: none"> <li>等級別研修等の研修制度、研修プログラムを通じた従業員一人ひとりの資質・能力の向上</li> <li>資格取得や外部研修受講の奨励によるテクニカルスキル、知識・知見の習得の推進</li> </ul>
地域コミュニティ・地域行政への貢献	11 持続可能な都市とコミュニティ、12 持続可能な消費と生産、17 パートナーシップ:持続可能な開発のための	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の防災対策や活性化、環境美化への貢献</li> <li>商業施設のプロパティマネージャー常駐型運営管理物件における住民参加型プログラムの年一回以上の実施(2023年12月1日時点/対象5物件)</li> </ul>
建物利用者の満足度、健康と快適性	8 真実な働き方、17 パートナーシップ:持続可能な開発のための	テナント満足度調査の実施と評価向上
情報の管理と活用	9 産業、中小企業とイノベーション	不動産運用管理システムを活用した管理・運用体制強化
投資家・投資主への情報開示	17 パートナーシップ:持続可能な開発のための	ESG関連を中心とした非財務情報の積極開示の更なる推進(外部評価の向上)

## 賛同しているイニシアティブ

### 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)

●本資産運用会社:2022年1月に賛同



TCFDに基づく本投資法人の情報開示の詳細は上のQRコードよりご覧ください。

### 責任投資原則(PRI)

●本資産運用会社:2018年11月に署名

Signatory of:



モジュール名	評価結果
Policy governance strategy ポリシー、ガバナンス、戦略	★★★★☆
Direct-real Estate 不動産	★★★★☆
Confidence building measures 信頼醸成措置	★★★★☆

(2023年12月時点)

### 国連グローバル・コンパクト

●本資産運用会社:2022年3月に署名



スポンサーと連結署名

### 国連UNHCRのサポート

●本資産運用会社:2020年より複数保有物件で開始

## 外部評価・保証

### GRESBリアルエステイト評価



**GRESB**  
★★★★☆ 2023  
**Green Star**  
9年連続  
**4 Stars**

### GRESB開示評価



**GRESB**  
Public Disclosure 2023  
**Aレベル**  
最上位6年連続

### MSCI ESG格付け

MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数の選定基準となる格付け評価



RATING ACTION DATE: July 07, 2023  
LAST REPORT UPDATE: July 26, 2023

## E(環境)

### 環境に関する取り組みの信頼性・客観性の向上

#### 環境マネジメントシステム「エコアクション21(注)」の第三者認証の取得

本投資法人の環境に関する取り組みの信頼性向上を企図し、環境経営のために本投資法人が構築・運用している仕組みについて第三者認証を取得。2024年中を目途に、ポートフォリオ全体へ認証範囲拡大予定。

認証取得物件 計31物件

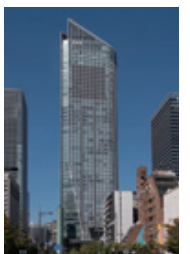
- オフィスビル 16物件
- 住居 15物件

(2023年11月末時点の底地物件を除く全運用物件134物件)



環境省  
**エコアクション21**  
認識番号 0014068

(注)事業者の環境への取り組み、環境経営のために構築・運用・維持している仕組み、環境コミュニケーションについて、環境省が策定した環境マネジメントシステムに適合している場合、第三者機関より認証を受けられる制度。



虎ノ門ヒルズ 森タワー

### ZEB Ready評価の取得

環境性能に関する客観性・信頼性を高め、テナント誘致競争力・物件価値向上を企図し、基準一次エネルギー消費量(注1)から50%以上の一次エネルギー消費量(注2)削減を実現した物件について、ZEB Ready評価を取得。

#### 一次エネルギー消費量削減率

神戸速矢浜物流センター

**66%削減**

KIC狭山日高ディストリビューションセンター

**59%削減**

吉川物流センター

**56%削減**

(注1) 基準一次エネルギー消費量:設備毎、地域毎、室用途毎により定められる基準となる標準的なエネルギー消費量。  
(注2) 一次エネルギー消費量:建築物を利用・使用する時に建物全体で消費するエネルギーを熱換算したもの。



神戸速矢浜物流センター

**ZEBとは...**Net Zero Energy Building(ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)の略称。快適な室内環境を実現しながら、建物で消費する年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロにすることを目指した建物。  
**ZEB Readyとは...**ZEBを見据えた先進建築物として、外皮の高断熱化及び高効率な省エネルギー設備を備えた建物。再生可能エネルギーを除き、「基準一次エネルギー消費量」から「一次エネルギー消費量」の削減を50%以上実現している建物。

右のQRコードから本投資法人のサステナビリティサイトをご覧ください。



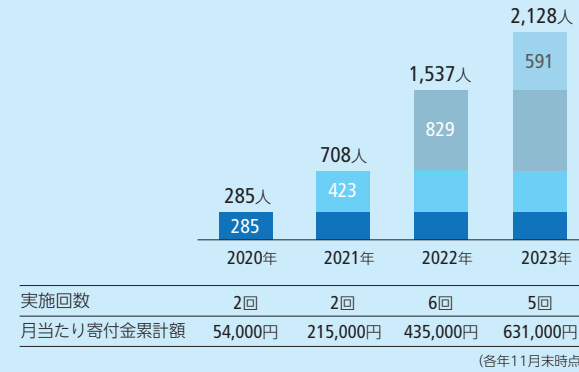
## S (社会)

### 地域コミュニティ・地域行政への貢献

#### UNHCR活動支援

- 2020年より本投資法人運用物件で国連UNHCR協会の募金活動の実施をサポートしています。
- 国連UNHCR協会は、国連の難民支援機関であるUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)の活動を支える日本の公式支援窓口です。
- 社会の一員として、2024年も本取組みを継続します。

募金活動ブースにお立ち寄りいただいた延べ来館者数



募金活動が実施された本投資法人運用物件(2023年11月末時点)

- Luz船橋
- モラージュ柏
- Luz湘南辻堂
- Luz福岡天神
- くるる
- LEVENおおたかの森
- 新宿ワシントンホテル本館 New



募金活動について説明する国連UNHCR協会職員  
新宿ワシントンホテル本館(2023年7月)

### 地域イベントへの協力

- 地域コミュニティの一員として、本投資法人運用物件をイベント会場として無償貸与しています。
- 地域コミュニティの発展に繋がるイベント(住民参加型プログラム)を企画・開催し、施設を含む近隣の賑わい創出と地域との共生に努めています。

#### A4 Luz船橋(注)

秋のお客様感謝祭  
2023年9月



子供縁日

#### A38 Luz湘南辻堂(注)

TSUJI FES  
2023年10月



協力大学によるワークショップ・地域物産品販売

#### A21 モラージュ柏(注)

スポーツカーニバル  
2023年11月



ラグビー体験

(注) プロパティマネージャー常駐型運営管理物件

## 資産運用会社の概要

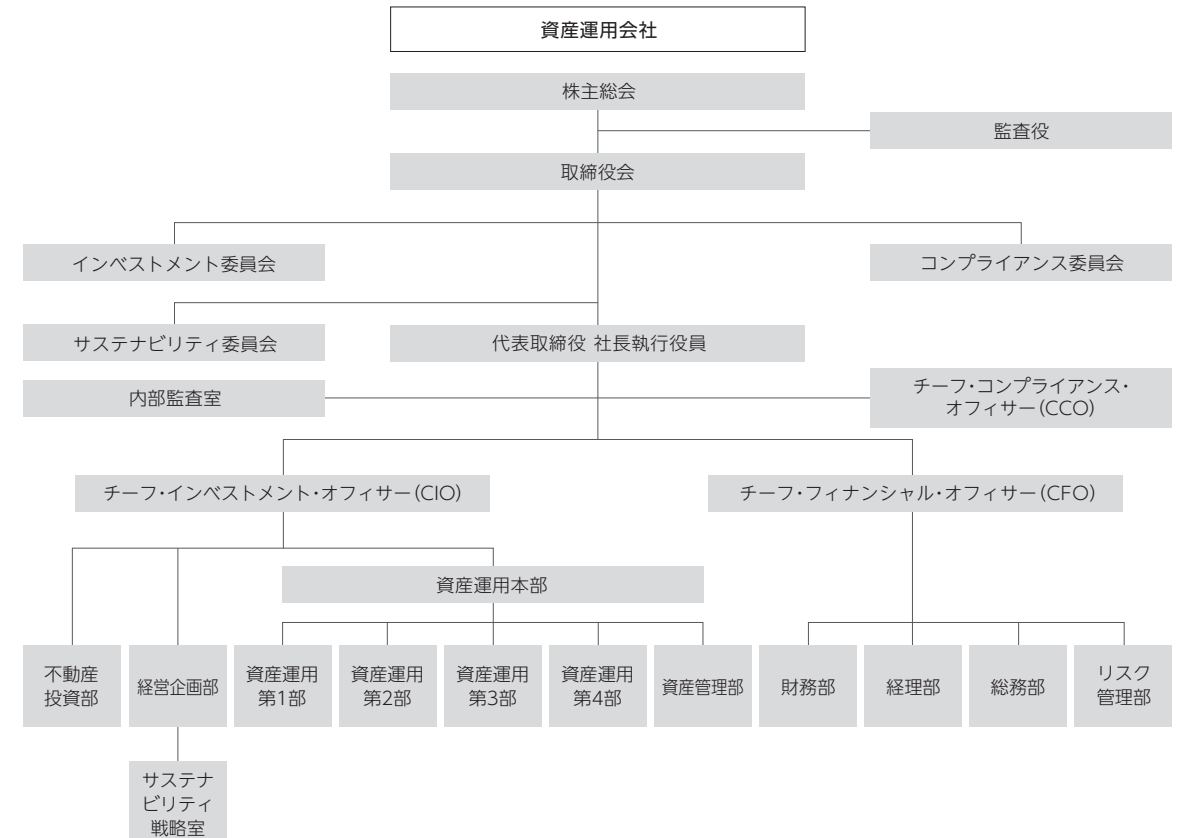
### ▶会社概要

(第40期末時点)

社名	丸紅リートアドバイザーズ株式会社 Marubeni REIT Advisors Co., Ltd.
本店所在地	東京都港区虎ノ門四丁目3番1号 城山トラストタワー18階
設立	2001年12月4日
資本金	425百万円
株主構成	丸紅株式会社(100%)
代表者	代表取締役 社長執行役員 馬舩 純一
事業内容	金融商品取引法第28条第4項に基づく投資運用業
免許・認可	宅地建物取引業者免許(免許番号 東京都知事(5)第80442号) 宅地建物取引業法上の取引一任代理等の認可(認可番号 国土交通大臣認可第15号) 投資法人資産運用業の認可(認可番号 内閣総理大臣第24号) 金融商品取引業者登録(登録番号 関東財務局長(金商)第336号)
加入協会	一般社団法人 投資信託協会 一般社団法人 不動産証券化協会

### ▶組織図

丸紅リートアドバイザーズ株式会社の組織図は、以下のとおりです。



# I 資産運用報告

## 1 資産運用の概況

### (1) 投資法人の運用状況等の推移

期別		第36期	第37期	第38期	第39期	第40期
計算期間		自2021年6月1日 至2021年11月30日	自2021年12月1日 至2022年5月31日	自2022年6月1日 至2022年11月30日	自2022年12月1日 至2023年5月31日	自2023年6月1日 至2023年11月30日
営業収益	百万円	22,806	24,184	24,433	25,052	25,356
(うち不動産賃貸事業収益)	百万円	(22,806)	(23,212)	(23,984)	(25,052)	(25,042)
営業費用	百万円	14,550	13,630	13,806	14,149	13,948
(うち不動産賃貸事業費用)	百万円	(11,032)	(11,244)	(11,467)	(11,778)	(11,507)
営業利益	百万円	8,256	10,553	10,627	10,903	11,408
経常利益	百万円	7,326	9,628	9,666	9,930	10,370
当期純利益	(a) 百万円	7,326	9,628	9,666	9,929	10,369
総資産額	(b) 百万円	707,548 (対前期比+0.5%)	715,568 (対前期比+1.1%)	714,899 (対前期比△0.1%)	723,202 (対前期比+1.2%)	727,227 (対前期比+0.6%)
純資産額	(c) 百万円	363,257 (対前期比△0.7%)	363,291 (対前期比+0.0%)	360,338 (対前期比△0.8%)	360,480 (対前期比+0.0%)	360,800 (対前期比+0.1%)
出資総額	百万円	319,973 (対前期比 -)	319,973 (対前期比 -)	319,973 (対前期比 -)	319,973 (対前期比 -)	319,973 (対前期比 -)
発行済投資口の総口数	(d) 口	3,118,337	3,118,337	3,098,591	3,098,591	3,098,591
1口当たり純資産額	(c)/(d) 円	116,490	116,501	116,291	116,336	116,440
分配金総額	(e) 百万円	9,666	9,704	9,741	10,005	10,445
1口当たり当期純利益	(注1) 円	2,349	3,087	3,103	3,204	3,346
1口当たり分配金額	(e)/(d) 円	3,100	3,112	3,144	3,229	3,371
(うち1口当たり利益分配金額)	円	(3,100)	(3,112)	(3,144)	(3,229)	(3,371)
(うち1口当たり利益超過分配金額)	円	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
総資産経常利益率	(注2) %	1.0 (2.1)	1.4 (2.7)	1.4 (2.7)	1.4 (2.8)	1.4 (2.9)
自己資本当期純利益率	(注2) %	2.0 (4.0)	2.7 (5.3)	2.7 (5.3)	2.8 (5.5)	2.9 (5.7)
期末自己資本比率	(c)/(b) %	51.3 (対前期増減△0.6)	50.8 (対前期増減△0.6)	50.4 (対前期増減△0.4)	49.8 (対前期増減△0.6)	49.6 (対前期増減△0.2)
配当性向	(注2) %	131.9	100.8	101.3	100.7	100.7
【その他参考情報】						
期末投資物件数	件	136	136	137	140	141
期末総賃貸可能面積	m <sup>2</sup>	1,566,349.17	1,556,492.03	1,574,218.12	1,632,781.16	1,633,673.46
期末テナント数	件	2,772	2,803	2,850	3,069	3,019
期末稼働率	%	97.8	98.6	98.9	98.4	99.0
減価償却費	百万円	4,098	4,102	4,068	4,067	4,069
資本的支出額	百万円	2,450	2,184	1,950	2,443	3,233
賃貸NOI(Net Operating Income) (注2)	百万円	15,872	16,069	16,585	17,341	17,604
1口当たりFFO(Funds from Operations) (注2)	円	4,033	4,115	4,289	4,519	4,560
FFO倍率	(注2) 倍	18.0	17.4	18.0	16.3	15.9
デット・サービス・カバレッジ・レシオ (注2)	倍	14.4	15.7	15.3	15.6	15.3
金利償却前当期純利益	(注2) 百万円	13,505	14,742	14,699	14,963	15,459
支払利息及び投資法人債利息	百万円	937	937	958	960	1,012
有利子負債額	(注2) 百万円	304,433	310,703	313,403	320,403	323,853
期末総資産有利子負債比率 (注2)	%	43.0	43.4	43.8	44.3	44.5
運用日数	日	183	182	183	182	183

(注1) 1口当たり当期純利益は、次の期中平均投資口数により算出しています。

	第36期	第37期	第38期	第39期	第40期
期中平均投資口数	3,118,337口	3,118,337口	3,114,668口	3,098,591口	3,098,591口

(注2) 記載した指標は以下の方法により算出しています。なお、括弧内は各期の運用日数により年換算した数値をそれぞれ記載しています。

総資産経常利益率	経常利益÷(期首総資産額+期末総資産額)÷2×100
自己資本当期純利益率	当期純利益÷(期首純資産額+期末純資産額)÷2×100
配当性向	1口当たり分配金額÷1口当たり当期純利益×100 (小数点以下第2位切捨て)
賃貸NOI	不動産賃貸事業損益(不動産賃貸事業収益-不動産賃貸事業費用)+減価償却費
1口当たりFFO	FFO÷発行済投資口の総口数(FFO=当期純利益+減価償却費+繰延資産償却費-不動産等売却損益+減損損失)
FFO倍率	期末投資口価格÷年換算後1口当たりFFO
デット・サービス・カバレッジ・レシオ	金利償却前当期純利益÷支払利息及び投資法人債利息
金利償却前当期純利益	当期純利益+減価償却費+繰延資産償却費+支払利息及び投資法人債利息+減損損失
有利子負債額	短期借入金+1年内償還予定の投資法人債+1年内返済予定の長期借入金+投資法人債+長期借入金
期末総資産有利子負債比率	期末有利子負債額÷期末総資産額×100 (小数点以下第2位切捨て)

(注3) 本書において特に記載のない限り、単位未満の数値について、金額は切捨て、比率及び倍率は四捨五入により記載しています。

### (2) 当期の資産の運用の経過

本投資法人は、投資信託及び投資法人に関する法律(昭和26年法律第198号、その後の改正を含みます。以下「投信法」といいます。)に基づき、2003年11月4日に設立され、2003年12月22日に東京証券取引所不動産投資信託証券市場(J-REIT市場)に上場しました(銘柄コード8960)。

本投資法人では、中長期にわたり安定した収益性を確保しうる不動産を、「本源的価値」を有する不動産と定義しており、「用途」と「投資地域」(注)を限定しない、分散が図られた総合型ポートフォリオを目指すという投資方針の総合型J-REITとして、幅広い投資対象の中から個別不動産の「本源的価値」を見極めつつ厳選した物件に投資することにより、中長期的に安定した収益の確保を図ってきました。

また、2010年12月1日には本投資法人が合併存続法人となって日本コマーシャル投資法人(以下「NCI」といいます。)と合併(以下「本合併」といいます。)を行い、本合併後も借入金や公募増資による資金調達を活用し、継続して資産取得を行った結果、資産規模(取得価格ベース)においてJ-REIT市場でも有数の規模となっています。

本投資法人は、これまで第1期(2004年5月期)より第39期(2023年5月期)まで毎期継続して金銭の分配を行ってきました。当期(第40期:2023年11月期)においても、1口当たり3,371円の金銭の分配を行います。

(注)「用途」:商業施設、オフィスビル、ホテル、住居及びその他  
「投資地域」:主として、首都圏並びに政令指定都市をはじめとする日本全国の主要都市及びそれぞれの周辺部

### a. 投資環境と運用実績

#### (i) 投資環境

当期の日本経済は、全体的に回復基調で推移しました。しかし、ウクライナに加え、中東での地政学リスクの顕在化による世界的なエネルギー及び原材料価格高騰の長期化懸念、欧米でのインフレ率の高止まりによる景気減速の可能性等、不安定な状況には引き続き注視が必要です。

不動産売買市場では、インフレ抑制に向けた欧米の引き締めの金融政策、日本銀行による長短金利操作(YCC)の運用柔軟化等の投資家マインドへの影響はあるものの、国内投資家を中心に投資意欲は依然旺盛で厳しい取得環境が続いています。

不動産賃貸市場については、当期も全体としては概ね堅調に推移しました。

商業施設では、物価上昇の影響はあるものの、円安を追い風とする訪日外国人数及び消費額の増加により、売上は上昇傾向にあります。

ホテルについては、国内需要の拡大や訪日外国人数の増加により、客室稼働率、客室単価いずれも回復傾向が続いており、一部のホテルでは客室単価がコロナ禍前の2019年の水準を上回る状況にあります。

オフィスビルでは、海外で課題となっている従業員のオフィス離れによる需要減は日本ではみられず、特に東京では大量供給による空室率の大幅上昇が懸念されたものの、面積拡張や立地改善を目的とした移転需要は底堅く推移しています。賃料については、東京ビジネス地区等でやや弱含みの傾向が続いています。

住宅では、いずれの地域においても引き続き需要は底堅く、稼働率及び賃料は安定的に推移しています。

物流施設については、首都圏をはじめ全国の主要都市周辺部で供給が続いており、稼働率は弱含みの傾向にあるものの、賃料は横ばいで推移しています。

# I 資産運用報告

## (ii) 物件の取得及び譲渡

本投資法人は、当期において下表記載の2物件を取得しました。

物件番号	物件名称	種類 (注1)	所在地	取得価格 (百万円)(注2)	取得日
A45	東松戸ショッピングセンター	店舗	千葉県松戸市	2,200	2023年6月1日
C22	博多祇園開発用地	—	福岡県福岡市	2,300	2023年7月31日
合 計				4,500	

その一方で、本投資法人は、当期において下表記載の物件を譲渡しました。

物件番号	物件名称	種類 (注1)	所在地	譲渡価格 (百万円)(注2)	譲渡日
D16	グランルージュ栄	共同住宅	愛知県名古屋	1,450	2023年6月1日

(注1) 登記簿上に表示される用途の種類のうち主要なものを記載しています。以下、同じです。

(注2) 取得価格及び譲渡価格は、取得又は譲渡に係る売買契約等にそれぞれ記載された売買価格に基づき記載しています。なお、取得価格については単位未満を四捨五入しています。また、金額には取得又は譲渡に要した諸費用及び消費税等を含みません。以下、同じです。

## (iii) ポートフォリオの概要

前記(ii)記載の物件取得及び譲渡の結果、当期末時点において、本投資法人が保有する物件は、商業施設37件、オフィスビル35件、商業施設とオフィスビルの複合施設1件、ホテル21件、オフィスビルとホテルの複合施設2件、住居25件及びその他20件の合計141件(取得価格の総額691,831百万円)であり、また、総賃貸可能面積は1,633,673.46㎡(494,186.22坪)、テナント総数は3,019となりました。

本投資法人は、稼働率の維持に努め、当期中における各月末時点のポートフォリオ全体の稼働率は、98.4%から99.0%の間で推移し、当期末時点では99.0%となっています。

## (iv) サステナビリティに関する取組

本投資法人及び本資産運用会社は、持続可能な開発目標(SDGs)を支持しており、環境、社会及び経済における課題解決及び新しい価値の創造への取組(以下「サステナビリティ推進活動」といいます。)を通じて、持続可能で多様性と包摂性のある社会を実現することを目指しています。

気候変動に関する取組では、本投資法人が保有する不動産の環境認証を2024年までに延床面積ベース(底地物件を除きます。)で80%取得すること(ご参考:2023年11月末時点77.4%)を中期目標に掲げています。また、温室効果ガス(GHG)排出量の削減目標に関して、これまでオフィスポートフォリオのみを対象範囲としていましたが、2023年6月に対象範囲をポートフォリオ全体に拡大し、併せて(i)2030年までにポートフォリオのスコープ1及びスコープ2のGHG総排出量を42%削減(2021年対比)すること、及び(ii)2050年までにバリューチェーン(スコープ3)を含むGHG総排出量をネットゼロにすること、という新たな削減目標を設定しました。その他、サステナビリティ推進活動の結果、本投資法人はESG配慮を測る国際的なベンチマーク評価であるGRESBリアルエステイト評価の2023年調査において、5段階で格付されるGRESBレーティングで最上位から2つ目の「4 Stars」を、またGRESB開示評価においては最上位の「Aレベル」をそれぞれ取得しています。

本資産運用会社は2022年1月に「TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言」への賛同を表明しています。本資産運用会社各部署の代表メンバーによる社内横断チームにおいて、本投資法人のポートフォリオにおけるTCFD提言に沿った気候関連リスク・機会に関するシナリオ分析を行い、分析結果をサステナビリティサイト(<https://uur-sustainability.com/sustainability/>)上で開示しています。

## b. 資金調達の概要

本投資法人は、当期において、特定資産の取得及び有利子負債の返済のため、一定の資金調達を行いました。

前期末及び当期末時点における有利子負債の状況は以下のとおりです。(単位:百万円)

	前期末時点	当期末時点	増 減
短期借入金	1,000	4,000	+3,000
長期借入金 (うち、1年内返済予定分)	284,903 (31,600)	288,353 (28,050)	+3,450 (△3,550)
借入金合計	285,903	292,353	+6,450
投資法人債 (うち、1年内償還予定分)	34,500 (10,000)	31,500 (—)	△3,000 (△10,000)
有利子負債合計	320,403	323,853	+3,450

また、2023年12月31日時点における本投資法人の格付の状況は以下のとおりです。

信用格付業者	格付内容	
株式会社日本格付研究所	長期発行体格付:AA	見通し:安定的

## c. 当期の業績及び分配の概要

当期の業績は、営業収益25,356百万円(前期比1.2%増)、不動産賃貸事業利益13,535百万円(前期比2.0%増)、営業利益11,408百万円(前期比4.6%増)、経常利益10,370百万円(前期比4.4%増)、当期純利益10,369百万円(前期比4.4%増)となりました。

分配金については、投資法人の計算に関する規則及び一般社団法人投資信託協会の定める不動産投資信託及び不動産投資法人に関する規則に則った一時差異等調整積立金取崩額77百万円を当期末処分利益10,369百万円に加算した金額を分配することとしました。この結果、投資口1口当たりの分配金は3,371円、分配金の総額は10,445百万円となりました。

## (3) 増資等の状況

当期において増資等は行っておらず、発行済投資口の総口数及び出資総額の異動はありません。なお、最近5年間における発行済投資口の総口数及び出資総額の増減は、以下のとおりです。

年 月 日	摘 要	発行済投資口の総口数(口)		出資総額(百万円)		備考
		増減	残高	増減	残高	
2019年6月19日	公募増資	55,000	3,110,087	9,363	318,568	(注1)
2019年7月11日	第三者割当増資	8,250	3,118,337	1,404	319,973	(注2)
2022年10月28日	消却	△19,746	3,098,591	—	319,973	(注3)

(注1) 1口当たり175,616円(引受価額170,240円)にて、新規物件の取得資金に充当することを目的として公募により新投資口を発行しました。

(注2) 1口当たり170,240円にて、物件取得に伴い減少した手元資金への充当を目的として第三者割当により新投資口を発行しました。

(注3) 2022年9月16日から2022年9月30日にかけて、自己投資口取得に係る証券会社との取引一任契約に基づく東京証券取引所における市場買付けにより、自己投資口の取得を行いました。取得した自己投資口(19,746口)については、2022年10月20日に開催された本投資法人役員会における決議に基づき、そのすべてを2022年10月28日に消却しました。なお、自己投資口取得に係る取得資金については出資剰余金から控除した結果、出資総額に変更はありません。

## (投資口の取引所価格の推移)

本投資法人の投資口が上場する東京証券取引所不動産投資信託証券市場における期別の最高・最低価格(終値)は以下のとおりです。

期 別	第36期	第37期	第38期	第39期	第40期
決算年月	2021年11月	2022年5月	2022年11月	2023年5月	2023年11月
最 高	169,200円	149,000円	158,400円	156,900円	160,300円
最 低	135,800円	123,700円	135,000円	138,300円	143,300円

# I 資産運用報告

## (4) 分配金等の実績

当期におきましては、投資法人の計算に関する規則及び一般社団法人投資信託協会の定める不動産投資信託及び不動産投資法人に関する規則に則った一時差異等調整積立金取崩額77百万円を当期末処分利益10,369百万円に加算した金額を分配することとしました。この結果、投資口1口当たりの分配金は3,371円、分配金の総額は10,445百万円となりました。

期 別	単 位	第36期	第37期	第38期	第39期	第40期
		自 2021年 6月 1日 至 2021年 11月 30日	自 2021年 12月 1日 至 2022年 5月 31日	自 2022年 6月 1日 至 2022年 11月 30日	自 2022年 12月 1日 至 2023年 5月 31日	自 2023年 6月 1日 至 2023年 11月 30日
当期末処分利益総額	千円	7,326,291	9,628,227	9,666,272	9,929,741	10,369,952
利益留保額(注)	千円	10,128,669	10,052,632	9,976,935	9,901,326	9,825,929
金銭の分配金総額 (1口当たり分配金)	千円 (円)	9,666,844 (3,100)	9,704,264 (3,112)	9,741,970 (3,144)	10,005,350 (3,229)	10,445,350 (3,371)
うち利益分配金総額 (1口当たり利益分配金)	千円 (円)	9,666,844 (3,100)	9,704,264 (3,112)	9,741,970 (3,144)	10,005,350 (3,229)	10,445,350 (3,371)
うち出資払戻総額 (1口当たり出資払戻額)	千円 (円)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
出資払戻総額のうち一時差異等 調整引当額からの分配金総額 (1口当たり出資払戻額のうち 1口当たり一時差異等調整引当額 分配金)	千円 (円)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
出資払戻総額のうち税法上の 出資等減少分配からの分配 金総額 (1口当たり出資払戻額のうち 税法上の1口当たり出資 等減少分配からの分配金)	千円 (円)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)

(注) 利益留保額には、一時差異等調整積立金、配当準備積立金及び圧縮積立金等の任意積立金残高並びに次期繰越利益の合計を記載しています。

## (5) 今後の運用方針及び対処すべき課題

我が国を取り巻く政治や経済は不透明な状況が続くものの、国内景気は緩やかな回復基調が続くと見込まれ、当期に続き次期の不動産売買及び賃貸市場も全体として共に堅調に推移することが予想されます。

本投資法人のポートフォリオは特定の資産タイプに偏ることなく構成されており、分散投資による収益力の安定化が図られています。不透明な状況が続く中でも不動産売買及び賃貸市場の動向を見極めつつ、社会変化に適応し得る不動産の安定運用に取り組みながら、ポートフォリオ全体の安定性を確かなものとしていくことが肝要であると考えています。

このような環境認識の下、本投資法人は今後の不動産売買市場の動向を注視しながら、多種・多様な不動産への投資機会を積極的に捉え、様々な取得手法を駆使した厳選投資と併せて、ポートフォリオの質的改善に資する資産入替を継続していきます。既存物件においては、稼働率の維持・向上、賃料増加や収益寄与と安定を目的とする各種条件改定、事業費用の削減等を通じて、安定運用に引き続き注力していきます。その上で、適宜、内部留保を有効に活用しながら分配金の安定を図ります。

財務運営においては、LTVコントロール、金融費用の抑制、有利子負債の返済期限の分散、流動性の確保等、強固で安定的な財務体質の構築に努めています。

また、本投資法人の持続的成長、すなわち投資主価値の最大化、ステークホルダーとの信頼関係、環境・社会との共生を追求していく観点から、財務的視点のみならず、ESG(環境・社会・ガバナンス)、SDGs(持続可能な開発目標)といった非財務分野の課題への対応にも一層注力していきます。

## (6) 決算後に生じた重要な事実及びその他重要な事象

該当事項はありません。

なお、参考情報は、以下のとおりです。

### a. 返済資金の借入れ

本投資法人は、2023年12月20日に返済期限が到来した借入金(総額2,000百万円)の返済を目的として、2023年12月20日付で以下のとおり資金の借入れを行いました。

名 称	借入先	借入金額 (百万円)	利率	借入実行日	返済期限	摘要
タームローン91C	株式会社足利銀行	1,000	0.75446%	2023年 12月20日	2028年 6月20日	無担保 無保証
タームローン92C	株式会社千葉銀行	1,000	基準金利 (全銀協3ヶ月 日本円TIBOR) +0.20%			
合 計		2,000				

### b. コミットメントラインの設定

本投資法人は、2023年12月27日付で以下のとおりコミットメントラインの設定を行いました。  
(コミットメントラインの概要)

参加金融機関	株式会社三井住友銀行、株式会社三菱UFJ銀行、みずほ信託銀行株式会社、株式会社りそな銀行
借入極度額	12,000百万円
契約締結日	2023年12月27日
契約期間	2023年12月28日～2024年12月27日
摘 要	無担保・無保証



# I 資産運用報告

## 2 投資法人の概況

### (1) 出資の状況

期別	第36期 2021年11月30日	第37期 2022年5月31日	第38期 2022年11月30日	第39期 2023年5月31日	第40期 2023年11月30日
発行可能投資口総口数 (口)	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000	10,000,000
発行済投資口の総口数 (口)	3,118,337	3,118,337	3,098,591	3,098,591	3,098,591
出資総額 (百万円)	319,973	319,973	319,973	319,973	319,973
投資主数 (人)	21,366	21,182	20,738	20,284	20,180

### (2) 投資口に関する事項

当期末時点における発行済投資口の総口数に対する、保有する投資口数の比率が高い上位10名は以下のとおりです。

氏名又は名称	所有投資口数(口)	発行済投資口の 総口数に対する 所有口数の割合(%)
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	953,044	30.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	564,054	18.2
野村信託銀行株式会社(投信口)	156,316	5.0
SMBC日興証券株式会社	96,327	3.1
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	44,930	1.5
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	40,386	1.3
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	39,824	1.3
みずほ証券株式会社	39,055	1.3
JP MORGAN CHASE BANK 385771	31,721	1.0
日本証券金融株式会社	23,450	0.8
合計	1,989,107	64.2

### (3) 役員等に関する事項

a. 本投資法人の役員等は以下のとおりです。

役職名	役員等の氏名又は名称	主な兼職等	当該営業期間における 役職毎の報酬の総額 (千円)
執行役員 (注1)(注2)	朝谷 健民	—	2,000
	衛門 利明	—	3,000
監督役員 (注2)(注3)	岡村 憲一郎	かえで会計アドバイザー株式会社 代表取締役 かえで税理士法人 代表社員(注4) CYBERDYNE株式会社 社外監査役 SGホールディングス株式会社 社外監査役	2,100
	関根 久美子	田辺総合法律事務所 パートナー	2,100
会計監査人 (注5)	EY新日本有限責任監査法人	—	21,300
合計			30,500

(注1) 衛門利明は、2023年8月31日付で本投資法人の執行役員を退任しており、朝谷健民が2023年9月1日付で新たな執行役員に就任しています。

(注2) 執行役員及び監督役員は、いずれも本投資法人の投資口を自己又は他人の名義で所有していません。

(注3) 監督役員は、上記記載以外の法人の役員である場合がありますが、上記を含めていずれも本投資法人との利害関係はありません。

(注4) 監督役員岡村憲一郎は、2023年12月8日付でかえで税理士法人の代表社員を退任しています。

(注5) 会計監査人の報酬には、投資法人債発行に係るコンフォートレター作成業務報酬(3,300千円)が含まれています。なお、会計監査人と同一のネットワークに属する者に対する非監査業務に係る報酬は6,450千円です。

### b. 会計監査人の解任及び不再任の決定の方針

会計監査人の解任については、投信法の定めに従い、また、不再任については、監査の品質、監査報酬額等その他諸般の事情を総合的に勘案して、本投資法人の役員会において検討します。

### c. 役員等と投資法人との間の補償契約に関する事項

該当事項はありません。

### (4) 役員等賠償責任保険契約に関する事項

本投資法人が締結する役員等賠償責任保険契約は以下のとおりです。

被保険者の範囲	契約内容の概要
全ての執行役員及び監督役員	<p>〈填補の対象とされる保険事故の概要〉 被保険者が本投資法人の役員としての業務につき行った行為に起因して損害賠償請求を受けたことにより負担することになる損害賠償金及び争訟費用等の損害を、一定の範囲で当該保険契約により填補することとしています。</p> <p>〈保険料の負担割合〉 保険料の全額を本投資法人が負担しています。</p> <p>〈職務の執行の適正性が損なわれないようにするための措置〉 犯罪行為又は法令に違反することを認識しながら行った行為等によって被保険者が被った被害等は、補償の対象外となっています。</p>

### (5) 資産運用会社、資産保管会社及び一般事務受託者

当期末時点における資産運用会社、資産保管会社及び一般事務受託者は以下のとおりです。

委託区分	名称
資産運用会社	丸紅リートアドバイザーズ株式会社(注)
資産保管会社	三井住友信託銀行株式会社
一般事務受託者(投資主名簿等管理人(投資主名簿))	三井住友信託銀行株式会社
一般事務受託者(特別口座管理機関)	三井住友信託銀行株式会社、三菱UFJ信託銀行株式会社
一般事務受託者(経理等)	みずほ信託銀行株式会社
一般事務受託者(投資法人債に関する事務)	三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ銀行

(注) 資産運用会社は、2023年12月1日付で「ジャパン・リート・アドバイザーズ株式会社」から「丸紅リートアドバイザーズ株式会社」に商号変更しています。以下、同じです。

# I 資産運用報告

## 3 投資法人の運用資産の状況

### (1) 不動産投資法人の資産の構成

資産の種類	用途	地域	第39期 2023年5月31日		第40期 2023年11月30日		
			保有総額 (千円) (注1)	対総資産 比率(%)	保有総額 (千円) (注1)	対総資産 比率(%)	
不動産	商業施設	首都圏 (注2)	東京都心6区(注3)	—	—	—	—
			東京23区(注4)	—	—	—	—
			首都圏地域(注5)	7,209,102	1.0	7,198,823	1.0
		地方(注6)	13,284,617	1.8	13,228,938	1.8	
	オフィスビル	首都圏	東京都心6区	22,833,648	3.2	22,759,845	3.1
			東京23区	9,281,845	1.3	9,236,885	1.3
			首都圏地域	8,711,619	1.2	8,686,413	1.2
		地方	—	—	—	—	
	ホテル	首都圏	東京都心6区	1,558,486	0.2	1,551,888	0.2
			東京23区	—	—	—	—
			首都圏地域	3,620,946	0.5	3,598,145	0.5
		地方	—	—	2,416,616	0.3	
	住居	首都圏	東京都心6区	—	—	—	—
			東京23区	4,727,904	0.7	4,721,954	0.6
			首都圏地域	1,678,406	0.2	1,678,482	0.2
		地方	3,558,917	0.5	3,536,743	0.5	
	その他	首都圏	東京都心6区	—	—	—	—
			東京23区	—	—	—	—
			首都圏地域	6,934,188	1.0	6,934,188	1.0
		地方	1,645,551	0.2	1,635,524	0.2	
	小計	85,045,233	11.8	87,184,451	12.0		
信託 不動産	商業施設	首都圏	東京都心6区	4,209,177	0.6	4,202,298	0.6
			東京23区	11,395,244	1.6	11,348,930	1.6
			首都圏地域	95,668,528	13.2	97,486,035	13.4
		地方	56,128,737	7.8	56,417,936	7.8	
	オフィスビル	首都圏	東京都心6区	65,236,510	9.0	65,050,100	8.9
			東京23区	1,955,635	0.3	1,943,855	0.3
			首都圏地域	38,440,664	5.3	38,078,536	5.2
		地方	48,099,168	6.7	48,076,359	6.6	
	ホテル	首都圏	東京都心6区	39,886,006	5.5	39,688,988	5.5
			東京23区	—	—	—	—
首都圏地域			22,907,876	3.2	22,776,819	3.1	
	地方	90,906,158	12.6	90,878,915	12.5		
住居	首都圏	東京都心6区	2,287,021	0.3	2,278,468	0.3	
		東京23区	9,647,962	1.3	9,652,142	1.3	
		首都圏地域	2,776,886	0.4	2,761,534	0.4	
	地方	23,009,807	3.2	21,709,639	3.0		
その他	首都圏	東京都心6区	3,220,500	0.4	3,609,918	0.5	
		東京23区	7,869,838	1.1	7,854,528	1.1	
		首都圏地域	37,944,720	5.2	37,858,966	5.2	
	地方	11,991,717	1.7	11,920,272	1.6		
	小計	573,582,165	79.3	573,594,247	78.9		
	預金等のその他資産	64,575,045	8.9	66,449,072	9.1		
	資産総額計	723,202,444	100.0	727,227,771	100.0		

(注1) 「保有総額」は、各決算日時点における貸借対照表計上額(不動産及び信託不動産については、減価償却後の帳簿価額)によります。なお、不動産を主な信託財産とする信託受益権には信託財産内の預金は含まれていません。  
(注2) 「首都圏」とは、1都7県(東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、群馬県、栃木県及び山梨県)を指します。  
(注3) 「東京都心6区」とは、千代田区、港区、中央区、新宿区、渋谷区及び品川区を指します。  
(注4) 「東京23区」とは、東京都内23区から東京都心6区を除いた地域を指します。  
(注5) 「首都圏地域」とは、首都圏から東京都内23区を除いた地域を指します。  
(注6) 「地方」とは、政令指定都市(首都圏所在のものを除きます。)をはじめとする日本全国の主要都市(周辺部を含みます。)を指します。

### (2) 主要な保有資産

当期末時点において本投資法人が保有する主要な資産(帳簿価額上位10物件)の概要は以下のとおりです。

不動産等の名称	帳簿価額 (百万円)	賃貸可能面積 (㎡) (注1)	賃貸契約面積 (㎡) (注1)(注2)	稼働率 (%) (注1)	期末月額 契約賃料 比率(%) (注3)	主たる用途	担保 設定 の有無
ヨドバシカメラマルチメディア吉祥寺	25,828	37,932.95	37,932.95	100.0	(注4)	商業施設	無
新大阪セントラルタワー	22,854	45,951.31	44,455.87	96.7	4.0	オフィスビル/ホテル	無
心斎橋OPA本館	21,739	27,025.42	27,025.42	100.0	3.1	商業施設	無
新宿ワシントンホテル本館	21,464	53,326.92	52,194.66	97.9	3.3	ホテル	無
ロワジュールホテル&スパタワー那覇	19,655	45,731.16	45,731.16	100.0	(注4)	ホテル	無
SS30	19,065	67,681.45	67,150.16	99.2	4.4	オフィスビル/ホテル	無
川崎東芝ビル	17,936	36,142.30	36,142.30	100.0	3.7	オフィスビル	無
リーガロイヤルホテル小倉あるあるCity	17,774	81,370.41	81,029.82	99.6	2.8	ホテル	無
ロイヤルパインズホテル浦和	17,336	31,129.86	31,129.86	100.0	(注4)	ホテル	無
ホテルヒューイット甲子園	13,852	36,104.06	36,104.06	100.0	(注4)	ホテル	無
合計	197,507	462,395.84	458,896.26	99.2	29.8		

(注1) 「賃貸可能面積」、「賃貸契約面積」及び「稼働率」は、2023年11月30日時点のデータに基づき記載しています。「賃貸可能面積」は個々の不動産又は信託不動産の本投資法人の所有部分における賃貸可能な面積の合計を意味し、「賃貸契約面積」は賃貸可能面積のうち、実際に賃貸借契約が締結され賃貸が行われている面積の合計を意味します(なお、「賃貸可能面積」及び「賃貸契約面積」の数値は、原則として各契約書、プロパティマネジメント会社作成の管理運営報告書又は月次報告書の数値であり、各契約書記載の数値は、建物の延床面積相当の数値、登記簿記載の床面積相当の数値、専有面積相当の数値、施工床面積相当の数値又はプロパティマネジメント会社作成の管理運営報告書若しくは月次報告書に記載されている数値等を根拠としています。本書において、以下、同じです。)。なお、第三者との間で保有資産を共有している共有物件については、本投資法人以外の者と共有している部分についても、当該部分全体の面積を用いて「賃貸可能面積」及び「賃貸契約面積」を算出しています。また、「稼働率」は「賃貸契約面積」÷「賃貸可能面積」の式で求めた百分率によります。  
(注2) 「賃貸契約面積」は、原則としてエンドテナントの賃貸契約面積を記載しています。ただし、マスターリース契約のうち、パススルー型に該当しない契約の賃貸契約面積については、マスターリース契約の面積又はプロパティマネジメント会社作成の管理運営報告書若しくは月次報告書における面積を記載しています。  
(注3) 「期末月額契約賃料比率」は、2023年11月30日時点で有効な契約上の月額賃料(貸室賃料及び共益費合計)に基づき算出しています。なお、一定期間賃料が免除されているテナントについては、当該免除期間は考慮しておらず、また、期間に応じて賃料が段階的に増額される旨の定めがある場合には、2023年11月30日時点で適用される金額を用いています。また、変動賃料は含まれていません。  
(注4) 賃貸借契約(予約賃貸借契約も含みます。)を締結したテナントより賃料収入等を開示することにつき同意を得られていないことから、やむを得ない事情により開示できない場合として記載していません。

### (3) 不動産等組入資産明細

当期末時点における本投資法人の保有資産の概要は以下のとおりです。

不動産等の名称	所在地(住居表示)(注1)	所有形態 (注2)	賃貸可能面積 (㎡)	期末算定価額 (百万円) (注3)	帳簿価額 (百万円)
ジョイパーク泉ヶ丘	大阪府堺市南区三原台一丁目1番3号	信託受益権	12,977.80	4,150	4,869
Luz船橋	千葉県船橋市藤原七丁目2番2号	信託受益権	12,955.48	6,350	3,996
天神ルーチェ	福岡県福岡市中央区天神二丁目3番24号	信託受益権	4,256.57	6,880	6,215
テックランド堺本店	大阪府堺市東区八下町一丁目5番1号	不動産	8,637.63	3,930	2,621
宮前ショッピングセンター	神奈川県川崎市宮前区犬蔵三丁目9番12号	信託受益権	10,487.92	5,270	4,682
コナミスポーツクラブ香里ヶ丘	大阪府枚方市香里ヶ丘三丁目3番1号	信託受益権	8,627.58	2,020	1,318
アクティオーレ南池袋	東京都豊島区南池袋二丁目26番10号	信託受益権	2,081.50	3,460	3,525
Tip's町田ビル	東京都町田市原町田六丁目7番8号	信託受益権	6,616.32	5,260	4,156
ダイエー宝塚中山店	兵庫県宝塚市売布東の町21番22号	信託受益権	16,729.60	3,950	2,941 (注4)
maricom-ISOGO ・システムプラザ横浜(敷地)	神奈川県横浜市磯子区磯子一丁目1番1他	信託受益権	52,668.38	11,500	12,456
アクティオーレ関内	神奈川県横浜市中区真砂町三丁目31番	不動産	1,938.56	1,940	2,187
心斎橋OPA本館	大阪府大阪市中央区西心斎橋一丁目4番3号	信託受益権	27,025.42	25,000	21,739

# I 資産運用報告

不動産等の名称	所在地(住居表示)(注1)	所有形態(注2)	賃貸可能面積(m <sup>2</sup> )	期末算定価額(百万円)(注3)	帳簿価額(百万円)
アルポーレ神宮前	東京都渋谷区神宮前五丁目27番7号	信託受益権	776.91	2,840	1,528
アルポーレ仙台	宮城県仙台市青葉区中央二丁目4番5号	信託受益権	3,182.13	3,120	2,276
モラージュ柏	千葉県柏市大山台二丁目3番地1他	信託受益権	41,749.24	9,200	6,683
イトーヨーカドー尾張旭店	愛知県尾張旭市南原山町石原116番地4他	不動産	54,606.34	4,940	3,756
横浜狩場ショッピングセンター	神奈川県横浜市保土ヶ谷区狩場町164番地1他	信託受益権	11,345.09	2,410	1,959
Luz自由が丘	東京都目黒区自由が丘二丁目9番6号	信託受益権	2,283.47	5,910	4,630
アクティオーレ市川	千葉県市川市市川一丁目4番17号	信託受益権	3,931.56	4,170	2,629
横浜青葉ショッピングセンター(敷地)	神奈川県横浜市青葉区もえぎ野1番2他	不動産	9,193.00	3,400	2,740
ヤマダ電機テックランド青葉店(敷地)	神奈川県横浜市青葉区もえぎ野2番3他	不動産	7,650.63	2,900	2,270
ヨドバシカメラマルチメディア吉祥寺	東京都武蔵野市吉祥寺本町一丁目19番1号	信託受益権	37,932.95	35,300	25,828
家電住まいる館YAMADA松戸本店	千葉県松戸市松戸字岩瀬境2289番地3他	信託受益権	17,561.23	7,040	4,472
Luz福岡天神(注7)	福岡県福岡市中央区渡辺通四丁目9番25号	信託受益権	7,973.34	5,860	5,441
鳴海ショッピングセンター(敷地)	愛知県名古屋市長区鳴海町字伝治山3番2他	不動産	60,419.26	7,170	6,850
ブラッシングウェーブ江の島	神奈川県藤沢市鵠沼海岸一丁目3番16号	信託受益権	2,885.94	1,600	1,874
ライフ西九条店(敷地)	大阪府大阪市此花区西九条六丁目41番6	信託受益権	3,252.76	2,090	1,842
ライフ玉造店(敷地)	大阪府大阪市東成区中道三丁目12番1	信託受益権	2,391.44	2,170	1,967
グランベル銀座ビル	東京都中央区銀座二丁目8番18号	信託受益権	1,352.35	2,750	2,673
UUR天神通リビル	福岡県福岡市中央区天神二丁目5番21号	信託受益権	1,053.10	3,810	6,012
Luz湘南辻堂	神奈川県藤沢市辻堂神台一丁目2番12号	信託受益権	10,373.71	4,690	4,229
アクティオーレ上野	東京都台東区上野四丁目5番5号	信託受益権	1,163.44	2,720	3,193
くるる	東京都府中市宮町一丁目50番地	信託受益権	12,810.05	8,990	9,939
ケーズデンキ名古屋北店	愛知県西春日井郡豊山町大字豊場字流川3番地1	信託受益権	4,733.74	1,870	1,792
Luz武蔵小杉	神奈川県川崎市中原区新丸子東三丁目1100番地4他	信託受益権	8,272.58	11,700	12,196
LEVENおおたかの森	千葉県流山市おおたかの森南三丁目8番地	信託受益権	5,984.28	3,850	3,827
ガリバー八王子みなみ野店	東京都八王子市みなみ野六丁目20番1号	信託受益権	8,278.27	1,640	1,582
東松戸ショッピングセンター	千葉県松戸市東松戸二丁目5番地1	信託受益権	4,320.36	2,340	2,224
T&G浜松町ビル	東京都港区芝大門二丁目12番10号	信託受益権	2,261.97	2,920	2,069
福岡アーセオンビル	福岡県福岡市博多区博多駅東三丁目6番3号	信託受益権	4,934.40	3,360	1,428
麹町センタープレイス	東京都千代田区麹町三丁目3番地8	信託受益権	2,578.09	2,970	2,371
新大阪セントラルタワー	大阪府大阪市淀川区西中島五丁目5番15号	信託受益権	45,951.31	30,000	22,854
川崎東芝ビル	神奈川県川崎市幸区堀川町580番地1他	信託受益権	36,142.30	18,500	17,936
UUR東陽町ビル	東京都江東区東陽二丁目4番18号	不動産	7,571.20	6,730	8,210
フォーシーズンビル	東京都新宿区新宿二丁目4番3号	信託受益権	5,000.54	6,380	3,913
パシフィックマークス新宿パークサイド	東京都新宿区西新宿四丁目15番7号	信託受益権	10,947.34	15,000	11,338
パシフィックマークス月島	東京都中央区月島一丁目15番7号	不動産	9,335.19	7,140	5,633

不動産等の名称	所在地(住居表示)(注1)	所有形態(注2)	賃貸可能面積(m <sup>2</sup> )	期末算定価額(百万円)(注3)	帳簿価額(百万円)
パシフィックマークス横浜イースト	神奈川県横浜市神奈川区栄町3番地4他	信託受益権	11,197.57	8,040	6,183
赤坂氷川ビル	東京都港区赤坂六丁目18番3号	信託受益権	3,438.20	4,150	3,112
パシフィックマークス渋谷公園通	東京都渋谷区神南一丁目6番3号	信託受益権	1,972.43	3,470	2,396
パシフィックマークス赤坂見附	東京都港区赤坂三丁目20番6号	不動産	1,675.13	2,660	2,117
パシフィックマークス新横浜	神奈川県横浜市港北区新横浜三丁目18番地20他	信託受益権	3,031.76	1,650	1,446
パシフィックマークス川崎	神奈川県川崎市川崎区駅前本町11番地1他	不動産	7,395.48	12,900	8,686
浜松町262ビル	東京都港区浜松町二丁目6番2号	信託受益権	6,149.77	8,130	6,212
リーラビジリザカ	東京都港区三田三丁目4番9号他	不動産	4,255.02	3,670	2,582
大塚HTビル	東京都豊島区南大塚三丁目43番1号	不動産	1,774.56	1,300	1,026
パシフィックマークス新宿サウスゲート	東京都新宿区新宿四丁目2番16号	不動産	1,727.48	4,050	2,428
パシフィックマークス西梅田	大阪府大阪市北区梅田二丁目6番20号	信託受益権	10,990.99	8,250	6,508
パシフィックマークス肥後橋	大阪府大阪市西区江戸堀一丁目10番8号	信託受益権	7,622.04	5,770	4,263
パシフィックマークス札幌北一条	北海道札幌市中央区北一条西七丁目4番地4他	信託受益権	4,671.41	2,490	1,618
新札幌センタービル	北海道札幌市厚別区厚別中央一条六丁目2番15号	信託受益権	2,797.23	860	807
アリーナタワー	神奈川県横浜市港北区新横浜三丁目1番地9他	信託受益権	17,967.46	12,600	7,257
湯島ファーストビル	東京都文京区湯島三丁目19番11号	信託受益権	4,554.23	3,180	1,943
道玄坂スクエア	東京都渋谷区円山町5番18号	信託受益権	2,234.21	3,270	2,199
グランスクエア新栄	愛知県名古屋市中区新栄二丁目19番6号他	信託受益権	4,578.93	1,980	1,175
グランスクエア名駅南	愛知県名古屋市中村区名駅南一丁目12番9号	信託受益権	4,003.05	2,690	1,006
芝520ビル	東京都港区芝五丁目20番6号	信託受益権	2,831.93	3,930	2,091
広瀬通SEビル	宮城県仙台市宮城野区名掛丁205番地1	信託受益権	8,235.87	5,720	2,820
SS30	宮城県仙台市青葉区中央四丁目6番1号	信託受益権	67,681.45	22,900	19,065
LOOP-X・M	東京都港区海岸三丁目9番15号他	信託受益権	21,589.27	13,000	12,208
虎ノ門ヒルズ 森タワー	東京都港区虎ノ門一丁目23番1号	不動産	3,273.51	11,600	9,997
虎ノ門PFビル	東京都港区虎ノ門三丁目10番11号	信託受益権	3,603.09	4,680	3,462
UUR京橋イーストビル	東京都中央区八丁堀四丁目2番2号	信託受益権	3,642.18	8,160	7,523
飯田橋プラザ	東京都千代田区富士見二丁目7番2号	信託受益権	4,370.23	7,210	6,149
大阪ベイタワー	大阪府大阪市港区弁天一丁目2番1号	信託受益権	44,255.11	2,760	2,774
新宿ワシントンホテル本館	東京都新宿区西新宿三丁目2番9号	信託受益権	53,326.92	27,200	21,464
東横イン品川駅高輪口	東京都港区高輪四丁目23番2号	不動産	3,088.85	2,630	1,551
MZビル	東京都八王子市明神町二丁目26番9号	信託受益権	6,660.20	3,890	2,891
ホテルルートイン横浜馬車道	神奈川県横浜市中区弁天通四丁目53番1号	不動産	7,139.44	4,960	3,598
ホテルJALシティ那覇	沖縄県那覇市牧志一丁目3番70号	信託受益権	13,701.80	10,700	6,716
UUR四谷三丁目ビル	東京都新宿区四谷三丁目14番地1他	信託受益権	7,854.86	7,450	4,327
四谷213ビル	東京都新宿区四谷二丁目1番地3	信託受益権	7,544.42	7,200	4,867

# I 資産運用報告

不動産等の名称	所在地(住居表示)(注1)	所有形態(注2)	賃貸可能面積(m <sup>2</sup> )	期末算定価額(百万円)(注3)	帳簿価額(百万円)
コンフォートイン東京六本木	東京都港区六本木三丁目9番8号	信託受益権	3,708.47	3,630	4,679
東横イン川崎駅前市役所通	神奈川県川崎市川崎区砂子二丁目11番地14他	信託受益権	4,874.28	3,240	2,549
東横イン広島平和大通	広島県広島市中区田中町5番15号	信託受益権	4,357.75	2,690	1,974
東横イン那覇国際通り美栄橋駅	沖縄県那覇市牧志一丁目20番1号	信託受益権	1,529.47	900	695
ロワジュールホテル&スパタワー那覇	沖縄県那覇市西三丁目2番1号	信託受益権	45,731.16	22,100	19,655
ロイヤルパインズホテル浦和	埼玉県さいたま市浦和区仲町二丁目5番1号	信託受益権	31,129.86	17,100	17,336
リーガロイヤルホテル小倉・あるあるCity	福岡県北九州市小倉北区浅野二丁目14番2号他	信託受益権	81,370.41	15,900	17,774
コンフォートイン福岡天神	福岡県福岡市中央区天神一丁目2番1号	信託受益権	3,567.22	3,450	3,009
変なホテル東京 浜松町	東京都港区浜松町一丁目24番11号	信託受益権	2,293.64	4,780	4,349
ホテルヒューイット甲子園	兵庫県西宮市甲子園高潮町3番30号	信託受益権	36,104.06	13,800	13,852
スマイルホテルプレミアム札幌すすきの	北海道札幌市中央区南四条西一丁目13番地1	信託受益権	8,332.04	5,250	4,083
ザ・スクエアホテル金沢	石川県金沢市下堤町10	信託受益権	6,333.36	5,950	4,806
リーガブレイス京都四条烏丸(注8)	京都府京都市下京区室町通高辻上る山王町551番地	信託受益権	2,358.25	2,570	2,063
博多祇園開発用地	福岡県福岡市博多区祇園町404番他	不動産	(注5)	2,480	2,416
T&G東池袋マンション	東京都豊島区東池袋三丁目8番8号	信託受益権	2,665.59	2,840	1,352
駒沢コート	東京都世田谷区駒沢二丁目37番1号	信託受益権	3,741.17	2,520	1,433
UURコート芝大門	東京都港区芝大門一丁目2番3号	信託受益権	1,486.38	1,710	936
アブリーレ新青木一番館	兵庫県神戸市東灘区北青木二丁目10番6号	信託受益権	12,700.44	4,020	2,237
UURコート札幌北三条	北海道札幌市中央区北三条東三丁目1番地28	信託受益権	4,790.50	1,760	875
クリオ文京小石川	東京都文京区小石川一丁目13番9号	信託受益権	4,097.51	4,090	2,461
グランルージュ栄II	愛知県名古屋市中区栄五丁目21番37号	信託受益権	2,579.89	1,260	916
MA仙台ビル	宮城県仙台市青葉区木町通一丁目3番7号	信託受益権	11,525.36	4,780	2,208
UURコート名古屋名駅	愛知県名古屋市中区名駅二丁目5番4号	信託受益権	2,958.45	1,720	1,043
パークサイト泉	愛知県名古屋市中区泉一丁目14番6号	信託受益権	2,067.95	771	783
UURコート大阪十三本町	大阪府大阪市淀川区十三本町三丁目4番15号	信託受益権	3,650.00	1,950	1,115
UURコート錦糸町	東京都江東区亀戸一丁目7番5号	不動産	5,460.39	3,940	2,690
UURコート札幌南三条プレミアタワー	北海道札幌市中央区南三条西一丁目2番地3他	信託受益権	7,763.18	3,560	1,626
グランルージュ中島南	大阪府大阪市西区江戸堀一丁目25番27号	信託受益権	3,090.36	1,790	1,127
グレンパーク梅田北	大阪府大阪市北区中崎三丁目4番22号	信託受益権	12,730.60	7,410	4,808
UURコート志木	埼玉県志木市幸町一丁目6番5号	信託受益権	9,288.00	3,320	2,761
グランルージュ谷町六丁目	大阪府大阪市中央区十二軒町3番22号	信託受益権	2,792.81	1,650	1,343
シャトレ大手町S棟・N棟	福岡県北九州市小倉北区大手町10番20号他	不動産	12,040.28	4,030	3,536
グランフォンテ	東京都練馬区東大泉六丁目49番2号	信託受益権	6,268.24	3,870	2,869
パークアクシス赤塚	東京都板橋区赤塚二丁目2番18号	不動産	4,370.31	2,400	2,031

不動産等の名称	所在地(住居表示)(注1)	所有形態(注2)	賃貸可能面積(m <sup>2</sup> )	期末算定価額(百万円)(注3)	帳簿価額(百万円)
UURコート白鷺	東京都中野区白鷺一丁目13番17号	信託受益権	2,815.30	1,880	1,535
コートブランシェAP	東京都品川区中延五丁目8番2号	信託受益権	1,480.17	1,540	1,341
UURコート茨木東中条	大阪府茨木市東中条町12番11号	信託受益権	3,783.25	1,870	1,755
アムール横浜	神奈川県横浜市西区浅間町二丁目105番地1	不動産	2,271.24	1,580	1,678
グランルージュ城東	大阪府大阪市城東区成育二丁目12番12号	信託受益権	3,304.90	1,860	1,866
リリカラ東北支店	宮城県仙台市宮城野区岡田西町3番10号	信託受益権	9,271.16	2,420	1,224
府中ビル(注6)	東京都府中市日鋼町1番39他	信託受益権	5,479.15	1,910	1,938
壺川スクエアビル	沖縄県那覇市壺川三丁目3番地5	信託受益権	10,571.31	6,860	3,428
ザ プレイス オプトウキョウ	東京都港区芝公園三丁目5番4号	信託受益権	3,212.21	5,130	3,609
ロジスティクス東扇島	神奈川県川崎市川崎区東扇島6番地4他	信託受益権	42,113.83	12,400	9,199
第1・第2MT有明センタービル	東京都江東区有明一丁目2番41号他	信託受益権	23,856.74	15,800	7,854
新習志野物流センター	千葉県習志野市茜浜二丁目3番6号	信託受益権	12,909.90	3,330	2,606
川越物流センター	埼玉県川越市大字下赤坂(元南大塚分)字大バケ上1822番地1	信託受益権	40,060.76	10,700	7,334
新習志野物流センターII	千葉県習志野市芝園二丁目5番2号	信託受益権	12,598.46	3,010	2,712
吉川物流センター	埼玉県吉川市旭1番地1	信託受益権	11,096.70	2,020	1,908
武蔵村山物流センター	東京都武蔵村山市伊奈平二丁目93番地1他	信託受益権	9,237.87	2,120	1,839
千葉みなと物流センター(敷地)	千葉県千葉市美浜区新港43番5他	不動産	24,467.78	8,550	6,934
枚方長尾物流センター	大阪府枚方市長尾谷町一丁目72番地1他	信託受益権	11,874.51	3,040	2,596
神戸遠矢浜物流センター	兵庫県神戸市兵庫区遠矢浜町5番35号	信託受益権	9,402.93	1,980	1,434
レッドウッド成田ディストリビューションセンター	千葉県山武郡芝山町香山新田字三堀33番地1他	信託受益権	21,445.46	2,610	2,396
加須物流センターI・II	埼玉県加須市大桑一丁目13番地他	信託受益権	12,777.19	3,610	3,323
神戸西神物流センター	兵庫県神戸市須磨区弥栄台二丁目5番地1	信託受益権	9,533.88	2,150	2,008
グランダ宮の森(注9)	北海道札幌市中央区宮の森二条六丁目3番13号	不動産	3,810.47	1,670	1,635
KIC狭山日高ディストリビューションセンター	埼玉県日高市大字田木字新上原482番地	信託受益権	15,113.07	4,670	4,598
札幌米里物流センター	北海道札幌市白石区米里三条三丁目5番15号	信託受益権	7,389.49	1,310	1,226
合計			1,633,673.46	819,541	660,778

(注1) 「所在地」は、原則として住居表示を記載していますが、住居表示のない物件については建物の登記簿上表示されている所在地を記載しています。また、土地(敷地)のみを保有する物件については土地の所在地(地番)を記載しています。

(注2) 「信託受益権」とは不動産を主な信託財産とする信託受益権を、「不動産」とは現物の不動産をそれぞれ表しています。

(注3) 「期末算定価額」は、決算期末日を調査の時点として本投資法人の規約及び投資法人の計算に関する規則(平成18年内閣府令第47号)に基づき、不動産鑑定評価額又は不動産鑑定士による鑑定評価と同様の手法を用いて行われる価格調査による価格を記載しています。

(注4) 指定調査機関による本件土地に係る2007年1月の土壌環境調査報告書においては、ダイエー宝塚中山店に係る土地のほぼ全地点より鉛溶出量、砒素溶出量、ふっ素溶出量が指基準を超過する濃度で確認されるもの、当該敷地内について直接的な健康被害の可能性はないと考えられる旨記載されています。本投資法人は、将来土壌改良の必要が生じる場合に備え前所有者において将来の土壌改良に係る必要コストとして追加信託した630百万円(以下「土壌改良積立金」といいます。)を、本物件を取得するに当たり信託受益権譲渡契約において承継しており、当該信託受益権の期末帳簿価額は、かかる追加信託の金額を反映しています。なお、土壌改良の必要性が当面の間限りなく低いと思われること、及び資金効率向上の観点に鑑み、信託受益権者から土壌改良積立金の交付を受けています。

(注5) 本投資法人は、ホテル開発プロジェクトの開発事業用地として、2023年7月31日付で本物件を取得しました。賃貸用不動産(建物部分)の竣工は2026年9月を予定しており、当期末時点において記載すべき事項はありません。

(注6) 府中ビルについては、2022年3月31日付で建物部分を譲渡しており、当期末時点において、本投資法人は本物件の土地部分のみを保有しています。なお、2024年1月31日付で土地部分の譲渡を予定しています。以下、同じです。

(注7) 2023年4月1日付で「天神ロフトビル」から「Luz福岡天神」に名称を変更しています。以下、同じです。

(注8) 2023年4月1日付で「ネストホテル京都四條烏丸」から「リーガブレイス京都四條烏丸」に名称を変更しています。以下、同じです。

(注9) 2023年5月31日付で「宮の森二条開発用地」から「グランダ宮の森」に名称を変更しています。以下、同じです。

# I 資産運用報告

本投資法人が投資する不動産の賃貸状況は以下のとおりです。

不動産等の名称	第39期 自 2022年12月1日 至 2023年 5月31日				第40期 自 2023年 6月1日 至 2023年11月30日			
	テナント総数 期末時点 (注1)	稼働率 期末時点 (注2)	不動産賃貸事業 収益(期間中) (百万円)	対不動産賃貸 事業収益比率 (%)	テナント総数 期末時点 (注1)	稼働率 期末時点 (注2)	不動産賃貸事業 収益(期間中) (百万円)	対不動産賃貸 事業収益比率 (%)
	ジョイパーク泉ヶ丘	28	100.0	258	1.0	28	100.0	255
Luz船橋	16	100.0	272	1.1	16	100.0	265	1.1
天神ルーチェ	12	91.8	194	0.8	12	91.8	221	0.9
テックランド堺本店	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
宮前ショッピングセンター	3	100.0	202	0.8	2	95.6	195	0.8
コナミスポーツクラブ香里ヶ丘	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
アクティオーレ南池袋	10	100.0	78	0.3	10	100.0	89	0.4
Tip's町田ビル	10	100.0	192	0.8	10	100.0	184	0.7
ダイエー宝塚中山店	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
maricom-ISOGO ・システムプラザ横浜(敷地)	4	100.0	299	1.2	4	100.0	299	1.2
アクティオーレ関内	7	68.9	38	0.2	6	62.6	39	0.2
心斎橋OPA本館	1	100.0	683	2.7	1	100.0	683	2.7
アルボーレ神宮前	3	100.0	56	0.2	2	100.0	56	0.2
アルボーレ仙台	7	82.9	91	0.4	7	82.9	90	0.4
モラージュ柏	92	99.1	687	2.7	91	98.8	666	2.7
イトーヨーカドー尾張旭店	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
横浜狩場ショッピングセンター	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
Luz自由が丘	21	100.0	147	0.6	21	100.0	153	0.6
アクティオーレ市川	13	100.0	135	0.5	13	100.0	142	0.6
横浜青葉ショッピングセンター(敷地)	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
ヤマダ電機テックランド青葉店(敷地)	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
ヨドバシカメラマルチメディア吉祥寺	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
家電住まいる館YAMADA松戸本店	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
Luz福岡天神	5	32.3	314	1.3	6	98.4	144	0.6
鳴海ショッピングセンター(敷地)	3	100.0	(注3)	(注3)	3	100.0	(注3)	(注3)
ブラッシングウェーブ江の島	7	62.1	43	0.2	7	62.1	42	0.2
ライフ西九条店(敷地)	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
ライフ玉造店(敷地)	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
グランベル銀座ビル	12	100.0	75	0.3	11	100.0	77	0.3
UUR天神西通りビル	3	100.0	89	0.4	3	100.0	90	0.4
Luz湘南辻堂	33	98.0	293	1.2	34	100.0	322	1.3
アクティオーレ上野	9	100.0	71	0.3	9	100.0	70	0.3

不動産等の名称	第39期 自 2022年12月1日 至 2023年 5月31日				第40期 自 2023年 6月1日 至 2023年11月30日			
	テナント総数 期末時点 (注1)	稼働率 期末時点 (注2)	不動産賃貸事業 収益(期間中) (百万円)	対不動産賃貸 事業収益比率 (%)	テナント総数 期末時点 (注1)	稼働率 期末時点 (注2)	不動産賃貸事業 収益(期間中) (百万円)	対不動産賃貸 事業収益比率 (%)
	くるる	26	98.9	505	2.0	26	98.9	445
ケーズデンキ名古屋北店	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
Luz武蔵小杉	2	100.0	324	1.3	2	100.0	335	1.3
LEVENおたかの森	14	100.0	109	0.4	13	100.0	111	0.4
ガリバー八王子みなみ野店	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
東松戸ショッピングセンター					5	100.0	85	0.3
T&G浜松町ビル	7	100.0	79	0.3	7	100.0	84	0.3
福岡アーセオンビル	7	100.0	126	0.5	7	100.0	126	0.5
麹町センタープレイス	15	98.4	96	0.4	18	100.0	83	0.3
新大阪セントラルタワー	63	96.0	1,153	4.6	61	96.7	1,081	4.3
川崎東芝ビル	1	100.0	836	3.3	1	100.0	836	3.3
UUR東陽町ビル	1	100.0	185	0.7	1	100.0	184	0.7
フォーシーズンビル	1	100.0	182	0.7	1	100.0	178	0.7
パシフィックマークス新宿パークサイド	20	100.0	381	1.5	20	100.0	383	1.5
パシフィックマークス月島	45	98.9	263	1.1	47	100.0	273	1.1
パシフィックマークス横浜イースト	28	100.0	276	1.1	27	95.8	276	1.1
赤坂氷川ビル	1	100.0	113	0.5	1	100.0	113	0.5
パシフィックマークス渋谷公園通	1	100.0	84	0.3	1	100.0	84	0.3
パシフィックマークス赤坂見附	8	100.0	69	0.3	8	100.0	69	0.3
パシフィックマークス新横浜	10	100.0	64	0.3	11	100.0	71	0.3
パシフィックマークス川崎	41	98.9	358	1.4	42	100.0	351	1.4
浜松町262ビル	18	95.2	208	0.8	19	100.0	212	0.8
リーラヒジリザカ	13	100.0	114	0.5	12	98.8	126	0.5
大塚HTビル	7	100.0	58	0.2	7	100.0	60	0.2
パシフィックマークス新宿サウスゲート	8	100.0	101	0.4	8	100.0	103	0.4
パシフィックマークス西梅田	29	95.6	288	1.2	29	95.6	284	1.1
パシフィックマークス肥後橋	26	95.6	175	0.7	27	100.0	177	0.7
パシフィックマークス札幌北一条	12	100.0	114	0.5	10	100.0	116	0.5
新札幌センタービル	21	100.0	67	0.3	21	100.0	64	0.3
アリーナタワー	11	92.2	444	1.8	12	94.4	461	1.8
湯島ファーストビル	6	100.0	120	0.5	6	100.0	119	0.5
道玄坂スクエア	27	95.2	99	0.4	27	92.9	96	0.4
グランスクエア新栄	9	100.0	94	0.4	9	100.0	94	0.4

# I 資産運用報告

不動産等の名称	第39期 自 2022年12月1日 至 2023年 5月31日				第40期 自 2023年 6月1日 至 2023年11月30日			
	テナント総数 期末時点 (注1)	稼働率 期末時点 (%) (注2)	不動産賃貸事業 収益(期間中) (百万円)	対不動産賃貸 事業収益比率 (%)	テナント総数 期末時点 (注1)	稼働率 期末時点 (%) (注2)	不動産賃貸事業 収益(期間中) (百万円)	対不動産賃貸 事業収益比率 (%)
グランスクエア名駅南	13	100.0	96	0.4	13	100.0	99	0.4
芝520ビル	5	100.0	110	0.4	5	100.0	124	0.5
広瀬通SEビル	8	100.0	236	0.9	8	100.0	233	0.9
SS30	80	96.8	1,172	4.7	81	99.2	1,165	4.7
LOOP-X・M	116	93.8	491	2.0	113	93.4	501	2.0
虎ノ門ヒルズ 森タワー	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
虎ノ門PFビル	4	100.0	124	0.5	4	100.0	123	0.5
UUR京橋イーストビル	6	100.0	163	0.7	6	100.0	168	0.7
飯田橋ブルーノ	2	100.0	205	0.8	2	100.0	206	0.8
大阪ベイトワー	155	94.1	41	0.2	158	94.5	112	0.4
新宿ワシントンホテル本館	9	97.9	856	3.4	9	97.9	761	3.0
東横イン品川駅高輪口	1	100.0	57	0.2	1	100.0	57	0.2
MZビル	8	97.3	141	0.6	9	100.0	135	0.5
ホテルルートイン横浜馬車道	4	100.0	157	0.6	4	100.0	156	0.6
ホテルJALシティ那覇	1	98.5	(注3)	(注3)	2	100.0	(注3)	(注3)
UUR四谷三丁目ビル	3	100.0	229	0.9	1	94.3	222	0.9
四谷213ビル	4	100.0	197	0.8	4	100.0	195	0.8
コンフォートイン東京六本木	3	100.0	79	0.3	3	100.0	79	0.3
東横イン川崎駅前市役所通	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
東横イン広島平和大通	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
東横イン那覇国際通り美栄橋駅	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
ロワジュールホテル&スパタワー那覇	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
ロイヤルパインズホテル浦和	10	100.0	(注3)	(注3)	10	100.0	(注3)	(注3)
リーガロイヤルホテル小倉 ・あるあるCity	31	99.4	915	3.7	32	99.6	958	3.8
コンフォートイン福岡天神	2	100.0	55	0.2	2	100.0	60	0.2
変なホテル東京 浜松町	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
ホテルヒューイット甲子園	2	100.0	(注3)	(注3)	2	100.0	(注3)	(注3)
スマイルホテルプレミアム札幌すすきの	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
ザ・スクエアホテル金沢	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
リーガブレイス京都四条烏丸	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
博多祇園開発用地					(注4)	(注4)	(注4)	(注4)
T&G東池袋マンション	121	93.2	70	0.3	124	95.5	71	0.3
駒沢コート	1	100.0	55	0.2	1	100.0	55	0.2

不動産等の名称	第39期 自 2022年12月1日 至 2023年 5月31日				第40期 自 2023年 6月1日 至 2023年11月30日			
	テナント総数 期末時点 (注1)	稼働率 期末時点 (%) (注2)	不動産賃貸事業 収益(期間中) (百万円)	対不動産賃貸 事業収益比率 (%)	テナント総数 期末時点 (注1)	稼働率 期末時点 (%) (注2)	不動産賃貸事業 収益(期間中) (百万円)	対不動産賃貸 事業収益比率 (%)
UURコート芝大門	1	100.0	33	0.1	1	100.0	33	0.1
アブリーレ新青木一番館	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
UURコート札幌北三条	1	100.0	53	0.2	1	100.0	53	0.2
クリオ文京小石川	88	96.6	102	0.4	85	93.2	101	0.4
グランルージュ栄(注5)	85	89.1	47	0.2			0	0.0
グランルージュ栄II	1	100.0	35	0.1	1	100.0	35	0.1
MA仙台ビル	141	95.9	178	0.7	152	99.7	178	0.7
UURコート名古屋名駅	1	100.0	46	0.2	1	100.0	46	0.2
パークサイト泉	37	89.3	32	0.1	37	93.4	25	0.1
UURコート大阪十三本町	1	100.0	52	0.2	1	100.0	52	0.2
UURコート錦糸町	195	95.6	117	0.5	199	98.8	120	0.5
UURコート札幌南三条プレミアタワー	137	96.6	111	0.4	132	94.5	108	0.4
グランルージュ中之島南	113	96.0	54	0.2	114	96.8	53	0.2
グレンパーク梅田北	173	94.0	194	0.8	181	99.0	198	0.8
UURコート志木	2	100.0	102	0.4	2	100.0	103	0.4
グランルージュ谷町六丁目	49	95.9	45	0.2	51	100.0	45	0.2
シャトレ大手町S棟・N棟	146	95.3	120	0.5	142	92.6	119	0.5
グランフォンテ	88	96.8	100	0.4	91	100.0	104	0.4
パークアクシス赤塚	153	96.5	52	0.2	155	97.7	51	0.2
UURコート白鷺	45	95.7	40	0.2	45	95.7	39	0.2
コートブランシェAP	38	90.8	32	0.1	40	96.6	34	0.1
UURコート茨木東中条	55	96.6	50	0.2	55	96.6	50	0.2
アムール横浜	35	97.3	39	0.2	35	97.3	38	0.2
グランルージュ城東	68	94.6	44	0.2	71	97.3	51	0.2
リリカラ東北支店	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
府中ビル	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
壺川スクエアビル	5	94.4	283	1.1	6	96.6	303	1.2
ザ プレイス オプトウキョウ	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
ロジスティクス東扇島	2	100.0	(注3)	(注3)	2	100.0	(注3)	(注3)
第1・第2MT有明センタービル	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
新習志野物流センター	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
川越物流センター	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
新習志野物流センターII	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)

# I 資産運用報告

不動産等の名称	第39期 自 2022年12月1日 至 2023年5月31日				第40期 自 2023年6月1日 至 2023年11月30日			
	テナント総数 期末時点 (注1)	稼働率 期末時点 (%) (注2)	不動産賃貸事業 収益(期間中) (百万円)	対不動産賃貸 事業収益比率 (%)	テナント総数 期末時点 (注1)	稼働率 期末時点 (%) (注2)	不動産賃貸事業 収益(期間中) (百万円)	対不動産賃貸 事業収益比率 (%)
吉川物流センター	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
武蔵村山物流センター	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
千葉みなと物流センター(敷地)	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
枚方長尾物流センター	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
神戸遠矢浜物流センター	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
レッドウッド成田ディストリ ビューションセンター	2	100.0	(注3)	(注3)	2	100.0	(注3)	(注3)
加須物流センターI・II	2	100.0	(注3)	(注3)	2	100.0	(注3)	(注3)
神戸西神物流センター	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
グランダ宮の森	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
KIC狭山日高ディストリ ビューションセンター	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
札幌米里物流センター	1	100.0	(注3)	(注3)	1	100.0	(注3)	(注3)
合 計	3,069	98.4	25,052	100.0	3,019	99.0	25,042	100.0

- (注1) 「テナント総数」は、各決算日時点のデータに基づき記載しています。「テナント総数」は、各物件において所有者である本投資法人又は各信託受託者との間で直接賃貸借契約等(貸室の一部又は全部が転賃を目的として一括して賃貸に供され、当該賃貸借契約(マスター・リース契約)における賃借人がエンドテナントに対し当該貸室の転賃を行う契約を含む。)を締結している賃借人を1テナントとして算出しています。ただし、マスター・リース契約における賃借人から受領する賃料が、当該賃借人がエンドテナントから受領する賃料と同額とされているいわゆるパス・スルー型の場合は、エンドテナント数を集計しています。また、1テナントが同一投資不動産において複数の貸室を賃借している場合は1テナントとして、複数物件にわたる場合は複数テナントとして算出しています。ただし、パス・スルー型の住宅物件については、賃貸戸数を記載しています。
- (注2) 「稼働率」は、各決算日時点のデータに基づき記載しています。「稼働率」は「賃貸契約面積」÷「賃貸可能面積」の式で求めた百分率によります。なお、第三者との間で投資不動産を共有している共有物件について、本投資法人以外の者と共有している部分についても、当該部分全体の面積を用いて「賃貸可能面積」及び「賃貸契約面積」を算出しています。
- (注3) 賃貸借契約(予約賃貸借契約も含みます。)を締結したテナントより賃料収入等を開示することにつき同意を得られていないことから、やむを得ない事情により開示できない場合として記載していません。
- (注4) 本投資法人は、ホテル開発プロジェクトの開発事業用地として、2023年7月31日付で本物件を取得しました。賃貸用不動産(建物部分)の竣工は2026年9月を予定しており、当期末時点において記載すべき事項はありません。ただし、本物件上には既存建物があり、本物件の売主から本投資法人が契約上の地位並びに権利及び義務を承継した一時使用土地賃貸借兼建物無償譲渡契約(以下「既存賃貸借兼無償譲渡契約」といいます。)に基づいて、既存建物所有者(借地人)が事業を行っており、本投資法人は借地人より借地料を受領しています。なお、本投資法人は、既存賃貸借兼無償譲渡契約における賃貸借期間満了日である2024年3月31日付で、既存建物の無償譲渡を受ける予定です。
- (注5) グランルージュ柴は、2023年6月1日付で譲渡しました。

## (4) 特定取引の契約額等及び時価の状況表

当期末時点における特定取引の契約額等及び時価の状況は以下のとおりです。

区 分	種 類	契約額等(千円)(注1)		時 価(千円) (注2)(注3)
			うち1年超	
市場取引以外の取引	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	23,500,000	20,500,000	3,068
合 計		23,500,000	20,500,000	3,068

(注1) 金利スワップ取引の契約額等は、想定元本に基づいて記載しています。

(注2) 当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価しています。

(注3) 時価の金額のうち、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)に基づき金利スワップの特例処理を適用する取引については、貸借対照表において時価評価していません。

## (5) その他資産の状況

当期末時点において、本投資法人が保有する不動産信託受益権等については、前記「(3) 不動産等組入資産明細」に一括して記載しています。その他の特定資産の組入れはありません。

## (6) 国及び地域毎の資産保有状況

日本以外の国及び地域について、該当事項はありません。

# I 資産運用報告

## 4 保有不動産の資本的支出

### (1) 資本的支出の予定

本投資法人が運用する投資不動産に関し、当期末時点で計画されている改修等に伴う資本的支出の予定額のうち、主要なものは以下のとおりです。なお、工事予定金額には会計上の費用に区分される部分が含まれています。

不動産等の名称	所在地	目的	予定期間	工事予定金額(百万円)		
				総額	工事金額	既払総額
Luz福岡天神	福岡県福岡市	外構及びサイン工事	自 2023年10月 至 2024年 1月	100	100	—
新大阪セントラルタワー	大阪府大阪市	ホテル部分客用エレベーター 更新工事(第1期)	自 2024年 1月 至 2024年11月	126	126	—
SS30	宮城県仙台市	空調設備更新工事	自 2023年 6月 至 2024年 5月	199	199	—
新宿ワシントンホテル本館	東京都新宿区	防災監視システム更新工事	自 2023年 5月 至 2024年 6月	118	118	—
ロワジュールホテル &スパタワー那覇	沖縄県那覇市	本館 厨房リニューアル工事 (第2期)	自 2023年12月 至 2024年 5月	159	159	—
ロワジュールホテル &スパタワー那覇	沖縄県那覇市	本館 厨房リニューアル工事 (第3期)	自 2024年 5月 至 2024年 7月	108	108	—
ホテルヒューイット甲子園	兵庫県西宮市	エレベーター更新工事	自 2023年10月 至 2024年 3月	108	108	—

### (2) 期中の資本的支出

本投資法人が当期中に投資不動産に対して実施した資本的支出の額は以下のとおりです。当期における資本的支出は3,233百万円であり、当期費用に区分された修繕費1,063百万円と合わせ、4,296百万円の工事を実施しています。

不動産等の名称	所在地	目的	期間	工事金額 (百万円)
Luz福岡天神	福岡県福岡市	外溝及びサイン関連工事	自 2023年 4月 至 2023年11月	727
Luz福岡天神	福岡県福岡市	エレベーター及びエスカレーター更新工事	自 2023年 4月 至 2023年11月	230
新大阪セントラルタワー	大阪府大阪市	受変電設備更新工事	自 2023年10月 至 2023年11月	98
SS30	宮城県仙台市	ホテル棟 地下1階リニューアル工事	自 2023年 7月 至 2023年 7月	356
ロワジュールホテル &スパタワー那覇	沖縄県那覇市	本館 厨房リニューアル工事(第1期)	自 2023年 8月 至 2023年11月	131
リーガロイヤルホテル小倉 ・あるあるCity	福岡県北九州市	商業棟 非常用エレベーター更新工事	自 2023年 8月 至 2023年 9月	38
リーガロイヤルホテル小倉 ・あるあるCity	福岡県北九州市	ホテル棟 客用エレベーター更新工事	自 2023年 6月 至 2023年11月	62
リーガロイヤルホテル小倉 ・あるあるCity	福岡県北九州市	ホテル棟 客室空調設備機器更新工事 (第4期)	自 2023年 1月 至 2023年 9月	35
ザ プレイス オブ トウキョウ	東京都港区	内装リニューアル及び空調機器更新工事	自 2023年 6月 至 2023年11月	441
新習志野物流センターII	千葉県習志野市	トイレ・屋外給排水管改修工事	自 2023年 9月 至 2023年11月	38
神戸遠矢浜物流センター	兵庫県神戸市	エレベーター更新工事	自 2023年 8月 至 2023年 9月	60
その他の資本的支出				1,012
合計				3,233

### (3) 長期修繕計画のために積立てた金銭

本投資法人は、物件毎に策定している長期修繕計画に基づき、期中のキャッシュ・フローの中から、中長期的な将来の大規模修繕等の資金支払いに充当することを目的とした修繕積立金を、以下のとおり積立てています。(単位:百万円)

項目	営業期間	第36期	第37期	第38期	第39期	第40期
		自 2021年 6月 1日 至 2021年11月30日	自 2021年12月 1日 至 2022年 5月31日	自 2022年 6月 1日 至 2022年11月30日	自 2022年12月 1日 至 2023年 5月31日	自 2023年 6月 1日 至 2023年11月30日
当期首積立金残高		1,681	1,703	1,839	1,836	1,898
当期積立額(注)		21	183	0	68	0
当期積立金取崩額		—	47	3	7	5
次期繰越額		1,703	1,839	1,836	1,898	1,893

(注) 信託受益権の売買に伴い、従前の所有者が信託財産内において積立てた積立金の全部又は一部を承継した場合、当該承継額を当期積立額に含めて記載しています。



# I 資産運用報告

## 5 費用・負債の状況

### (1) 運用等に係る費用明細

(単位:千円)

項目	第39期	第40期
	自 2022年12月1日 至 2023年5月31日	自 2023年6月1日 至 2023年11月30日
(a) 資産運用報酬(注)	2,041,826	2,076,179
(b) 資産保管手数料	18,972	19,139
(c) 一般事務委託手数料	67,948	69,774
(d) 役員報酬	10,200	9,200
(e) その他営業費用	231,897	266,880
合計	2,370,846	2,441,173

(注) 資産運用報酬には上記記載金額のほか、個々の投資不動産等の帳簿価額に算入した物件取得に係る報酬(第39期:52,976千円、第40期:36,000千円)、個々の投資不動産等の不動産売却損益から控除した物件譲渡に係る報酬(第40期:11,600千円)があります。

### (2) 借入状況

当期末時点における借入金の状況は以下のとおりです。

	区分	借入日	当期首残高 (百万円) (注1)	当期末残高 (百万円) (注1)	平均利率 (%) (注2)	返済期限	返済方法	使途	摘要
	借入先								
短期借入金	三井住友信託銀行株式会社	2023年1月6日	330	330	0.171	2023年12月20日	期限一括	(注4)	無担保 無保証
	三井住友信託銀行株式会社	2023年5月31日	670	670	0.171	2023年12月20日			
	三井住友信託銀行株式会社	2023年11月22日	—	3,000	0.218	2024年11月20日			
	小計		1,000	4,000					
1年内返済予定の長期借入金	みずほ信託銀行株式会社	2015年8月7日	1,000	—	0.798	2023年6月20日	期限一括	(注6)	無担保 無保証
	株式会社日本政策投資銀行	2016年4月1日	1,500	—	0.372	2023年6月20日			
	株式会社西日本シティ銀行	2016年4月1日	1,000	—	0.395	2023年6月20日			
	株式会社みずほ銀行	2015年7月15日	1,300	—	0.749 (注3)	2023年9月20日			
	株式会社三菱UFJ銀行	2015年7月15日	1,300	—	0.780	2023年9月20日			
	株式会社三井住友銀行	2019年9月20日	4,000	—	0.300	2023年9月20日			
	三井住友信託銀行株式会社(信託口)	2018年9月28日	10,000	—	0.250	2023年9月29日			
	株式会社足利銀行	2018年11月16日	1,000	1,000	0.306	2023年12月20日			
	株式会社三菱UFJ銀行	2015年12月4日	1,000	1,000	0.625 (注3)	2024年3月21日			
	みずほ信託銀行株式会社	2016年3月22日	1,000	1,000	0.331	2024年3月21日			
	株式会社広島銀行	2017年3月21日	1,000	1,000	0.565	2024年3月21日			
	株式会社七十七銀行	2017年3月30日	1,500	1,500	0.401	2024年3月21日			
	株式会社りそな銀行	2019年3月20日	1,000	1,000	0.191 (注3)	2024年3月21日			
	株式会社三井住友銀行	2020年3月23日	1,200	1,200	0.300	2024年3月21日			
	株式会社三井住友銀行	2020年4月17日	1,300	1,300	0.300	2024年3月21日			
	三井住友信託銀行株式会社(信託口)	2019年3月29日	2,500	2,500	0.290	2024年3月29日			
	三井住友信託銀行株式会社	2015年7月15日	—	1,700	0.924	2024年6月20日			
	株式会社みずほ銀行	2016年4月1日	—	2,000	0.523	2024年6月20日			
	農林中央金庫	2017年1月31日	—	2,700	0.401	2024年6月20日			
	株式会社りそな銀行	2017年4月26日	—	1,500	0.281	2024年6月20日			
	株式会社三井住友銀行	2020年6月22日	—	1,650	0.300	2024年6月20日			
	株式会社あおぞら銀行	2020年6月22日	—	1,000	0.336	2024年6月20日			
	株式会社三菱UFJ銀行	2015年12月4日	—	1,000	0.680	2024年9月20日			

	区分	借入日	当期首残高 (百万円) (注1)	当期末残高 (百万円) (注1)	平均利率 (%) (注2)	返済期限	返済方法	使途	摘要
	借入先								
1年内返済予定の長期借入金	株式会社みずほ銀行	2015年12月4日	—	1,000	0.633 (注3)	2024年9月20日	期限一括	(注6)	無担保 無保証
	農林中央金庫	2017年3月30日	—	1,500	0.401	2024年9月20日			
	株式会社日本政策投資銀行	2017年4月26日	—	1,500	0.428	2024年9月20日			
	東京海上日動火災保険株式会社	2019年9月20日	—	1,000	0.320	2024年9月20日			
	小計		31,600	28,050					
長期借入金	三井住友信託銀行株式会社	2015年7月15日	1,700	—	0.924	2024年6月20日	期限一括	(注6)	無担保 無保証
	株式会社みずほ銀行	2016年4月1日	2,000	—	0.523	2024年6月20日			
	農林中央金庫	2017年1月31日	2,700	—	0.401	2024年6月20日			
	株式会社りそな銀行	2017年4月26日	1,500	—	0.281	2024年6月20日			
	株式会社三井住友銀行	2020年6月22日	1,650	—	0.300	2024年6月20日			
	株式会社あおぞら銀行	2020年6月22日	1,000	—	0.336	2024年6月20日			
	株式会社三菱UFJ銀行	2015年12月4日	1,000	—	0.680	2024年9月20日			
	株式会社みずほ銀行	2015年12月4日	1,000	—	0.633 (注3)	2024年9月20日			
	農林中央金庫	2017年3月30日	1,500	—	0.401	2024年9月20日			
	株式会社日本政策投資銀行	2017年4月26日	1,500	—	0.428	2024年9月20日			
	東京海上日動火災保険株式会社	2019年9月20日	1,000	—	0.320	2024年9月20日			
	株式会社福岡銀行	2016年12月1日	1,400	1,400	0.351	2024年12月20日			
	株式会社みずほ銀行	2017年7月4日	3,000	3,000	0.430	2024年12月20日			
	明治安田生命保険相互会社	2016年2月5日	1,000	1,000	0.687	2025年3月21日			
	株式会社三菱UFJ銀行	2016年4月1日	2,000	2,000	0.430	2025年3月21日			
	株式会社三菱UFJ銀行	2017年3月21日	3,500	3,500	0.489	2025年3月21日			
	株式会社SBI新生銀行	2017年3月21日	2,000	2,000	0.639	2025年3月21日			
	株式会社福岡銀行	2017年3月21日	1,000	1,000	0.489	2025年3月21日			
	信金中央金庫	2017年3月30日	1,000	1,000	0.624	2025年3月21日			
	株式会社京都銀行	2017年3月30日	1,000	1,000	0.524	2025年3月21日			
	損害保険ジャパン株式会社	2022年3月22日	1,000	1,000	0.306	2025年3月21日			
	農林中央金庫	2018年6月20日	2,200	2,200	0.423	2025年6月20日			
	株式会社みずほ銀行	2020年6月22日	1,000	1,000	0.364	2025年6月20日			
株式会社あおぞら銀行	2020年6月22日	1,000	1,000	0.398	2025年6月20日				
野村信託銀行株式会社	2021年6月21日	1,000	1,000	0.284	2025年6月20日				
三井住友信託銀行株式会社	2016年4月1日	3,000	3,000	0.391	2025年9月22日				
株式会社日本政策投資銀行	2018年11月16日	1,000	1,000	0.466	2025年9月22日				
信金中央金庫	2018年11月16日	1,000	1,000	0.466	2025年9月22日				
株式会社西日本シティ銀行	2018年11月16日	1,000	1,000	0.466	2025年9月22日				
日本生命保険相互会社	2020年9月23日	1,000	1,000	0.330	2025年9月22日				
株式会社横浜銀行	2020年9月23日	500	500	0.301	2025年9月22日				
三井住友信託銀行株式会社	2016年2月5日	2,000	2,000	0.627	2025年12月22日				
株式会社みずほ銀行	2018年12月28日	4,000	4,000	0.323	2025年12月22日				
東京海上日動火災保険株式会社	2020年12月21日	1,000	1,000	0.300	2025年12月22日				
株式会社三菱UFJ銀行	2017年3月30日	2,000	2,000	0.460	2026年3月23日				
株式会社みずほ銀行	2017年3月30日	4,500	4,500	0.569	2026年3月23日				
農林中央金庫	2019年3月20日	1,600	1,600	0.313	2026年3月23日				
三井住友信託銀行株式会社(信託口)	2019年3月29日	2,000	2,000	0.390	2026年3月31日				
株式会社八十二銀行	2021年8月6日	1,100	1,100	0.290	2026年6月20日				
株式会社みずほ銀行	2017年4月26日	2,400	2,400	0.544	2026年6月22日				
株式会社みずほ銀行	2018年6月20日	3,000	3,000	0.474	2026年6月22日				

# I 資産運用報告

区分	借入先	借入日	当期首残高	当期末残高	平均利率	返済期限	返済方法	用途	摘要
			(百万円) (注1)	(百万円) (注1)	(%) (注2)				
長期借入金	株式会社三菱UFJ銀行	2021年6月21日	1,000	1,000	0.230	2026年6月22日	期限一括	(注7)	無担保 無保証
	三井住友信託銀行株式会社	2021年6月30日	2,000	2,000	0.183	2026年6月22日			
	株式会社第四北越銀行	2021年8月6日	1,000	1,000	0.250	2026年6月22日			
	信金中央金庫	2022年6月20日	1,000	1,000	0.657	2026年6月22日			
	株式会社三菱UFJ銀行	2017年7月4日	1,500	1,500	0.440	2026年9月24日			
	三井住友信託銀行株式会社	2019年12月3日	5,000	5,000	0.238	2026年9月24日			
	株式会社群馬銀行	2021年9月21日	500	500	0.274	2026年9月24日			
	株式会社りそな銀行	2022年10月31日	1,000	1,000	0.223	2026年9月24日			
	株式会社福岡銀行	2022年10月31日	700	700	0.223	2026年9月24日			
	株式会社福岡銀行	2018年11月16日	1,000	1,000	0.495 (注3)	2026年12月21日			
	株式会社埼玉りそな銀行		1,000	1,000					
	野村信託銀行株式会社		1,000	1,000					
	全国信用協同組合連合会	2018年12月28日	1,000	1,000	0.391 (注3)	2026年12月21日			
	三井住友信託銀行株式会社		2,000	2,000					
	全国信用協同組合連合会	2020年12月21日	1,300	1,300	0.309	2026年12月21日			
	みずほ信託銀行株式会社	2017年3月30日	1,000	1,000	0.756	2027年3月23日			
	明治安田生命保険相互会社	2017年3月30日	1,000	1,000	0.656	2027年3月23日			
	太陽生命保険株式会社	2020年3月19日	1,000	1,000	0.390	2027年3月23日			
	株式会社西日本シティ銀行	2020年3月19日	1,000	1,000	0.400	2027年3月23日			
	株式会社七十七銀行	2020年3月19日	1,000	1,000	0.375	2027年3月23日			
	信金中央金庫	2020年3月19日	1,000	1,000	0.295	2027年3月23日			
	株式会社りそな銀行	2020年3月23日	8,900	8,900	0.230	2027年3月23日			
	株式会社三菱UFJ銀行	2023年3月20日	1,000	1,000	0.253	2027年3月23日			
	株式会社足利銀行	2017年3月30日	2,500	2,500	0.361	2027年6月21日			
	三井住友信託銀行株式会社	2018年6月20日	2,800	2,800	0.465	2027年6月21日			
	株式会社三菱UFJ銀行	2018年12月28日	2,000	2,000	0.301	2027年6月21日			
	株式会社三井住友銀行	2020年6月22日	2,000	2,000	0.483	2027年6月21日			
	三井住友信託銀行株式会社	2020年6月22日	500	500	0.533	2027年6月21日			
	みずほ信託銀行株式会社	2020年6月22日	900	900	0.500	2027年6月21日			
	株式会社日本政策投資銀行	2020年6月30日	1,500	1,500	0.396	2027年6月21日			
	農林中央金庫	2020年6月30日	1,000	1,000	0.360	2027年6月21日			
	株式会社三菱UFJ銀行	2022年6月20日	2,000	2,000	0.323	2027年6月21日			
	株式会社みずほ銀行	2022年6月30日	1,000	1,000	0.323	2027年6月21日			
	株式会社横浜銀行	2018年7月3日	3,800	3,800	0.465	2027年9月21日			
	株式会社三菱UFJ銀行	2019年3月20日	3,500	3,500	0.426 (注3)	2027年9月21日			
	株式会社三井住友銀行	2019年9月20日	1,000	1,000	0.414	2027年9月21日			
	株式会社みずほ銀行	2022年9月20日	1,400	1,400	0.323	2027年9月21日			
	三井住友信託銀行株式会社	2022年9月20日	1,500	1,500	0.323	2027年9月21日			
	株式会社SBI新生銀行	2017年4月26日	2,500	2,500	0.391	2027年12月20日			
	三井住友信託銀行株式会社	2020年12月21日	1,000	1,000	0.365	2027年12月20日			
農林中央金庫	2022年12月22日	1,300	1,300	0.273	2027年12月20日				
株式会社SBI新生銀行	2023年6月20日	—	1,000	0.293	2027年12月20日				
みずほ信託銀行株式会社	2023年7月31日	—	1,450	0.310	2027年12月20日				
株式会社三井住友銀行	2023年7月31日	—	1,000	0.310	2027年12月20日				
株式会社みずほ銀行	2020年3月19日	1,500	1,500	0.290	2028年3月21日				
株式会社福岡銀行	2020年3月23日	1,000	1,000	0.344	2028年3月21日				

区分	借入先	借入日	当期首残高	当期末残高	平均利率	返済期限	返済方法	用途	摘要
			(百万円) (注1)	(百万円) (注1)	(%) (注2)				
長期借入金	株式会社三菱UFJ銀行	2021年3月22日	3,000	3,000	0.340	2028年3月21日	期限一括	(注7)	無担保 無保証
	株式会社伊予銀行	2021年3月22日	1,000	1,000	0.393	2028年3月21日			
	三井住友信託銀行株式会社	2023年3月20日	2,500	2,500	0.293	2028年3月21日			
	株式会社西日本シティ銀行	2023年6月20日	—	1,000	0.303	2028年6月20日			
	株式会社三菱UFJ銀行	2018年11月16日	2,000	2,000	0.570	2028年9月20日			
	株式会社SBI新生銀行	2020年9月23日	2,500	2,500	0.391	2028年9月20日			
	株式会社福岡銀行	2020年9月23日	500	500	0.371	2028年9月20日			
	株式会社七十七銀行	2020年9月23日	500	500	0.410	2028年9月20日			
	農林中央金庫	2021年9月21日	1,500	1,500	0.418	2028年9月20日			
	株式会社三菱UFJ銀行	2023年9月20日	—	1,300	0.749	2028年9月20日			
	株式会社みずほ銀行	2023年9月20日	—	1,300	0.320	2028年9月20日			
	株式会社三井住友銀行	2023年9月20日	—	2,000	0.320	2028年9月20日			
	株式会社三菱UFJ銀行	2018年12月28日	3,000	3,000	0.470	2028年12月20日			
	株式会社りそな銀行	2023年3月20日	2,500	2,500	0.643	2029年3月20日			
	株式会社みずほ銀行	2020年2月28日	7,000	7,000	0.405	2029年3月21日			
	株式会社三菱UFJ銀行	2021年3月31日	1,500	1,500	0.420	2029年3月21日			
	株式会社群馬銀行	2022年3月22日	1,000	1,000	0.559	2029年3月21日			
	株式会社あおぞら銀行	2022年3月31日	2,000	2,000	0.674	2029年3月21日			
	みずほ信託銀行株式会社	2022年3月31日	1,200	1,200	0.673	2029年3月21日			
	株式会社埼玉りそな銀行	2023年3月20日	2,000	2,000	0.313	2029年3月21日			
	株式会社日本政策投資銀行	2022年6月20日	1,200	1,200	0.839	2029年6月20日			
	株式会社足利銀行	2023年6月1日	—	1,000	0.682	2029年6月20日			
	株式会社三井住友銀行	2021年3月22日	6,500	6,500	0.536	2029年9月20日			
	株式会社三井住友銀行	2021年3月31日	2,300	2,300	0.496	2029年9月20日			
	三井住友信託銀行株式会社	2022年9月20日	1,400	1,400	0.643	2029年9月20日			
	株式会社広島銀行	2022年9月20日	500	500	0.661	2029年9月20日			
	株式会社山口銀行	2022年9月20日	1,000	1,000	0.761	2029年9月20日			
	日本生命保険相互会社	2022年9月20日	1,000	1,000	0.660	2029年9月20日			
	株式会社三井住友銀行	2021年6月21日	5,000	5,000	0.399	2029年12月20日			
	株式会社みずほ銀行	2022年12月22日	1,000	1,000	0.858	2029年12月20日			
	株式会社常陽銀行	2022年12月22日	900	900	0.890	2029年12月20日			
	株式会社みずほ銀行	2021年3月22日	1,400	1,400	0.524	2030年3月21日			
	三井住友信託銀行株式会社	2021年3月31日	1,500	1,500	0.466	2030年3月21日			
	株式会社みずほ銀行	2021年3月31日	1,500	1,500	0.543	2030年3月21日			
	株式会社第四北越銀行	2022年3月22日	1,000	1,000	0.480	2030年3月21日			
	株式会社三井住友銀行	2022年3月31日	2,500	2,500	0.689	2030年3月21日			
	株式会社三井住友銀行	2022年5月12日	570	570	0.728	2030年3月21日			
	株式会社みずほ銀行	2021年6月21日	1,700	1,700	0.490	2030年6月20日			
	株式会社三井住友銀行	2021年12月20日	2,900	2,900	0.476	2030年6月20日			
	株式会社日本政策投資銀行	2023年6月20日	—	1,500	0.842	2030年6月20日			
三井住友信託銀行株式会社	2020年9月23日	7,783	7,783	0.450	2030年9月20日				
株式会社三井住友銀行	2022年3月22日	2,400	2,400	0.595	2030年9月20日				
株式会社三菱UFJ銀行	2021年12月20日	3,000	3,000	0.470	2030年12月20日				
三井住友信託銀行株式会社	2022年12月20日	3,400	3,400	0.850	2030年12月20日				
三井住友信託銀行株式会社	2021年3月22日	3,400	3,400	0.609	2031年3月20日				
株式会社三菱UFJ銀行	2021年3月22日	2,500	2,500	0.530	2031年3月20日				
三井住友信託銀行株式会社	2023年3月20日	2,500	2,500	0.763	2031年3月20日				
株式会社みずほ銀行	2023年3月20日	2,000	2,000	0.804	2031年3月20日				

# I 資産運用報告

区分	借入先	借入日	当期首残高	当期末残高	平均利率	返済期限	返済方法	用途	摘要
			(百万円) (注1)	(百万円) (注1)	(%) (注2)				
長期借入金	株式会社三井住友銀行	2023年9月20日	—	2,000	1.138	2031年9月22日	期限一括	(注7)	無担保 無保証
	三菱UFJ信託銀行株式会社(信託口)(注9)	2023年5月22日	2,000	2,000	0.433	2031年11月20日		(注5)	
	三井住友信託銀行株式会社	2022年3月22日	2,600	2,600	0.651	2032年3月22日		(注7)	
	株式会社みずほ銀行	2022年3月22日	3,000	3,000	0.686	2032年3月22日		(注7)	
	三井住友信託銀行株式会社	2023年3月20日	5,000	5,000	0.834	2032年3月22日		(注7)	
	株式会社三菱UFJ銀行	2023年3月20日	2,800	2,800	1.010	2032年3月22日		(注6)	
	三井住友信託銀行株式会社	2022年6月20日	1,000	1,000	0.984	2032年6月21日		(注7)	
	三井住友信託銀行株式会社(信託口)	2023年9月29日	—	5,000	1.299 (注3)	2032年9月30日		(注7)	
	三井住友信託銀行株式会社(信託口)	2023年9月29日	—	5,000	1.389 (注3)	2033年9月30日		(注7)	
小計		253,303	260,303						
合計		285,903	292,353						

(注1) 単位未満を切捨てて記載しているため、各項目を足し合わせても小計及び合計と一致しない場合があります。  
(注2) 平均利率は、日数及び借入残高による期中の加重平均を記載しており、小数点以下第4位を四捨五入しています。  
なお、上記借入先に支払われた融資関連手数料は含んでいません。  
(注3) 変動金利借入ですが金利スワップ契約の締結により実質的に金利が固定されているため、固定化後の金利を記載しています。  
(注4) 資金用途は不動産(建物)の開発資金です。  
(注5) 資金用途は投資法人債の償還資金です。  
(注6) 資金用途は不動産又は不動産信託受益権の購入資金及びこれに関連する諸費用です。  
(注7) 資金用途は借入金の借換資金です。  
(注8) 資金用途は借入金の借換資金並びに不動産又は不動産信託受益権の購入資金及びこれに関連する諸費用です。  
(注9) 三菱UFJ信託銀行株式会社の貸付債権は、信託勘定へ帰属が変更されています。

### (3) 投資法人債

当期末時点における発行済投資法人債の状況は以下のとおりです。

銘柄	発行年月日	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	利率 (%)	償還期限	償還方法	用途	摘要
第16回無担保投資法人債	2015年5月29日	2,000	2,000	0.804	2025年5月29日	期限一括	(注1)	無担保 (注8)
第17回無担保投資法人債	2018年5月22日	10,000	—	0.240	2023年11月22日	期限一括	(注2)	無担保 (注8)
第19回無担保投資法人債(グリーンボンド)	2019年5月23日	10,000	10,000	0.448	2026年5月22日	期限一括	(注3)	無担保 (注8)
第20回無担保投資法人債	2020年8月11日	8,000	8,000	0.270	2025年8月8日	期限一括	(注4)	無担保 (注8)
第21回無担保投資法人債	2021年3月23日	1,000	1,000	0.760	2036年3月21日	期限一括	(注5)	無担保 (注8)
第22回無担保投資法人債(サステナビリティボンド)	2021年10月28日	3,500	3,500	0.400	2031年10月28日	期限一括	(注6)	無担保 (注8)
第23回無担保投資法人債(グリーンボンド)	2023年10月17日	—	7,000	0.460	2026年10月16日	期限一括	(注7)	無担保 (注8)
合計		34,500	31,500					

(注1) 資金用途は投資法人債の償還資金です。  
(注2) 資金用途は投資法人債の償還資金及び運転資金への充当です。  
(注3) 資金用途は「グリーン適格資産」に係る借入金の借換資金並びに「グリーン適格資産」である不動産又は不動産信託受益権の購入資金及びこれに関連する諸費用です。  
(注4) 資金用途は既存借入金の返済資金です。  
(注5) 資金用途は不動産又は不動産信託受益権の購入資金及びこれに関連する諸費用です。  
(注6) 資金用途は「グリーン適格資産」に係る投資法人債の償還資金並びに「ソーシャル適格資産」である不動産の購入資金及び開発資金です。  
(注7) 資金用途は「グリーン適格資産」に係る投資法人債の償還資金です。  
(注8) 投資法人債間限定同順位特約付です。

### (4) 短期投資法人債

該当事項はありません。

### (5) 新投資口予約権

該当事項はありません。

# I 資産運用報告

## 6 期中の売買状況

### (1) 不動産等及び資産対応証券等、インフラ資産等及びインフラ関連資産の売買状況等

資産の種類	不動産等の名称	取得		譲渡			
		取得年月日	取得価格(百万円)	譲渡年月日	譲渡価格(百万円)	帳簿価額(百万円)	売却損益(百万円)
不動産信託受益権	東松戸ショッピングセンター	2023年6月1日	2,200	—	—	—	—
不動産	博多祇園開発用地	2023年7月31日	2,300	—	—	—	—
不動産信託受益権	グランルージュ栄	—	—	2023年6月1日	1,450	1,121	314
合計		—	4,500	—	1,450	1,121	314

### (2) その他の資産の売買状況等

前記「(1)不動産等及び資産対応証券等、インフラ資産等及びインフラ関連資産の売買状況等」に記載されている取引以外の主なその他の資産は、概ね銀行預金又は信託財産内の銀行預金です。

### (3) 特定資産の価格等の調査

#### a. 不動産等(注)

取得又は譲渡	資産の種類	不動産等の名称	取引年月日	取得又は譲渡価格(百万円)	鑑定評価額(百万円)	価格時点	不動産鑑定機関
取得	不動産信託受益権	東松戸ショッピングセンター	2023年6月1日	2,200	2,300	2023年4月1日	一般財団法人 日本不動産研究所
取得	不動産	博多祇園開発用地	2023年7月31日	2,300	2,400	2023年7月1日	一般財団法人 日本不動産研究所
譲渡	不動産信託受益権	グランルージュ栄	2023年6月1日	1,450	1,440	2022年11月30日	一般財団法人 日本不動産研究所

(注) 投信法第201条第1項に基づき特定資産に係る不動産等の鑑定評価が必要な取引については、不動産鑑定機関が不動産鑑定評価基準各論第3章「証券化対象不動産の価格に関する鑑定評価」に基づき鑑定評価を実施しており、本投資法人は当該鑑定評価の結果の通知を受けています。

#### b. その他

上記「a. 不動産等」に記載されている取引以外の取引についての調査の委託先及びその概要等は以下のとおりです。

##### (A) 調査を行った者の氏名又は名称

東京共同会計事務所

##### (B) 調査の結果及び方法の概要

当期において行った取引のうち、投信法第201条第2項により価格等の調査が必要とされた取引は、金利スワップ取引2件です。当該取引について、取引の相手方、デリバティブ取引の内容、比較可能な価格等に関して、東京共同会計事務所に調査を委託し、日本公認会計士協会が公表した専門業務実務指針4460「投資信託及び投資法人における特定資産の価格等の調査に係る合意された手続業務に関する実務指針」に基づく調査結果として、合意された手続実施結果報告書の結果の通知を受けています。

### (4) 利害関係人等との取引状況

#### a. 取引状況

利害関係人等との特定資産の売買取引等はありません。

#### b. 支払手数料等の金額

区分	支払手数料等総額(A) (千円)	利害関係人等との取引内訳		総額に対する割合(B/A)(%)
		支払先	支払金額(B) (千円)	
外注委託費	1,855,044	丸紅リアルエステートマネジメント株式会社	602,910	32.5
損害保険料	38,273	丸紅セーフネット株式会社	37,287	97.4
工事監理報酬	35,611	丸紅リアルエステートマネジメント株式会社	15,013	42.2
その他賃貸事業費用	176,693	丸紅リアルエステートマネジメント株式会社	2,620	1.5
		丸紅ネットワークソリューションズ株式会社	1,857	1.1

(注1) 利害関係人等のうち当期に取引実績又は支払手数料等の支払実績のある相手先について上記のとおり記載しています。

(注2) 上記記載の取引及び支払手数料等以外に、当期に利害関係人等へ支払った修繕工事費等は以下のとおりです。

丸紅リアルエステートマネジメント株式会社	51,549千円
丸紅ネットワークソリューションズ株式会社	23,173千円
株式会社つなぐネットワークコミュニケーションズ	21千円

### (5) 資産運用会社が営む兼業業務に係る当該資産運用会社との間の取引の状況等

本投資法人の資産運用会社は、いずれの業務も兼業しておらず、該当事項はありません。

# I 資産運用報告

## 7 経理の状況

### (1) 資産、負債、元本及び損益の状況

後記「II.貸借対照表」、「III.損益計算書」、「IV.投資主資本等変動計算書」、「V.注記表」及び「VI.金銭の分配に係る計算書」をご参照ください。

貸借対照表、損益計算書、投資主資本等変動計算書、注記表及び金銭の分配に関する計算書の前期情報はご参考であり、当期においては投信法第130条の規定に基づく会計監査人の監査対象ではありません。また、キャッシュ・フロー計算書は、同法同条の規定に基づく会計監査人の監査対象ではないため、会計監査人の監査は受けていません。

### (2) 減価償却額の算定方法の変更

該当事項はありません。

### (3) 不動産等及びインフラ資産等の評価方法の変更

該当事項はありません。

### (4) 自社設定投資信託受益証券等に係る開示

本資産運用会社である丸紅リートアドバイザーズ株式会社の本投資法人投資口保有状況は以下のとおりです。

#### a. 取得等の状況

取得年月日	取得口数(口)	処分口数(口)	保有口数(口)	備考
2003年11月4日	13	—	13	(注1)
2003年12月20日	187	—	200	(注2)
2008年6月24日	200	—	400	(注3)
2010年12月1日	2,000	—	2,400	(注4)
2010年12月1日	1	—	2,401	(注5)
2011年6月8日	2,500	—	4,901	(注6)
累計	4,901	—	4,901	

(注1) 本投資法人の設立時に、1口当たり500,000円にて取得しました。

(注2) 本投資法人の公募による新投資口発行時に、1口当たり480,000円にて取得しました。

(注3) 本投資法人の公募による新投資口発行時に、1口当たり461,580円にて取得しました。

(注4) 投資口1口につき6口の割合による投資口分割が行われました。

(注5) 本投資法人とNCIとの合併により、本資産運用会社が保有していたNCIの投資口1口に対して本投資法人投資口1口の割合を受けています。

(注6) 本投資法人の公募による新投資口発行時に、1口当たり91,162円にて取得しました。

#### b. 保有等の状況(当期末を含む過去5年間の各計算期間の状況を記載しています。)

	期末保有口数 (口)	期末保有総額 (千円)(注1)	(ご参考) 期末投資口価格 (円)	発行済投資口の 総口数に対する 比率(%)	(ご参考) 期末発行済 投資口の総口数 (口)
第31期 自2018年12月1日 至2019年5月31日	4,901	877,279	179,000	0.16	3,055,087
第32期 自2019年6月1日 至2019年11月30日	4,901	1,043,913	213,000	0.16	3,118,337
第33期 自2019年12月1日 至2020年5月31日	4,901	559,694	114,200	0.16	3,118,337
第34期 自2020年6月1日 至2020年11月30日	4,901	578,318	118,000	0.16	3,118,337
第35期 自2020年12月1日 至2021年5月31日	4,901	769,457	157,000	0.16	3,118,337
第36期 自2021年6月1日 至2021年11月30日	4,901	708,684	144,600	0.16	3,118,337
第37期 自2021年12月1日 至2022年5月31日	4,901	704,763	143,800	0.16	3,118,337
第38期 自2022年6月1日 至2022年11月30日	4,901	755,734	154,200	0.16	3,098,591 (注2)
第39期 自2022年12月1日 至2023年5月31日	4,901	725,348	148,000	0.16	3,098,591
第40期 自2023年6月1日 至2023年11月30日	4,901	710,645	145,000	0.16	3,098,591

(注1) 期末保有口数に期末投資口価格を乗じて算出しています。

(注2) 2022年9月16日から2022年9月30日にかけて、自己投資口取得に係る証券会社との取引一任契約に基づく東京証券取引所における市場買付けにより、自己投資口の取得を行いました。取得した自己投資口(19,746口)については、2022年10月20日に開催された本投資法人役員会における決議に基づき、そのすべてを2022年10月28日に消却しました。

## 8 その他

### (1) お知らせ

#### a. 投資主総会

2023年8月29日に本投資法人の第12回投資主総会が開催されました。投資主総会で承認された事項のうち主な概要は以下のとおりです。

承認事項	概要
規約一部変更の件	以下の事項につき規約を変更しました。 ①「会社法の一部を改正する法律」(令和元年法律第70号)附則第1条ただし書きに規定する改正規定(これに関連する投信法等の改正規定を含む。)が2022年9月1日に施行されたことに伴い、「会社法の一部を改正する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」(令和元年法律第71号)第10条第9項の定めに基づき、2022年9月1日をもって、本投資法人について、投資主総会参考書類等の内容である情報について、電子提供措置をとる旨の規約変更がなされたものとみなされているが、明確化のため本投資法人の規約においてその旨を確認的に規定するもの。また、電子提供措置の導入に伴い、書面交付請求をした投資主に交付する書面に記載する事項の範囲を限定することができるものとするための規定を追加。 ②上記①の変更による定義語の移動に伴う変更、及び規約の改正の効力発生により不要となった附則の削除。
執行役員1名選任の件	朝谷健民が執行役員に選任されました。
監督役員2名選任の件	岡村憲一郎及び関根久美子の2名が監督役員に選任されました。
補欠執行役員1名選任の件	馬躰純一が補欠執行役員に選任されました。
補欠監督役員1名選任の件	清水扶美(注)が補欠監督役員に選任されました。

(注) 補欠監督役員清水扶美の戸籍上の氏名は、山崎扶美です。

#### b. 投資法人役員会

当期において、本投資法人の役員会で承認された主要な契約の締結・変更はありません。

### (2) 海外不動産保有法人に係る開示

該当事項はありません。

### (3) 海外不動産保有法人が有する不動産に係る開示

該当事項はありません。

## Ⅱ 貸借対照表

(単位:千円)

	前期(ご参考) 2023年5月31日		当期 2023年11月30日	
資産の部				
流動資産				
現金及び預金		34,265,446		36,006,995
信託現金及び信託預金		26,472,549		27,259,953
営業未収入金		527,957		541,954
前払費用		853,729		248,210
その他		42,483		39,667
貸倒引当金		△6,262		△898
流動資産合計		62,155,904		64,095,884
固定資産				
有形固定資産				
建物	※1	26,961,138	※1	26,991,401
減価償却累計額		△9,063,088		△9,386,579
建物(純額)		17,898,050		17,604,821
構築物	※1	217,620	※1	217,620
減価償却累計額		△136,229		△138,464
構築物(純額)		81,390		79,155
機械及び装置		388,427		389,223
減価償却累計額		△275,010		△280,501
機械及び装置(純額)		113,417		108,722
工具、器具及び備品		117,960		145,620
減価償却累計額		△73,524		△79,688
工具、器具及び備品(純額)		44,435		65,932
土地	※1	65,754,857	※1	68,170,902
建設仮勘定		3,726		5,561
信託建物	※3	254,261,754	※3	256,800,518
減価償却累計額		△78,986,361		△81,894,183
信託建物(純額)		175,275,393		174,906,335
信託構築物		2,534,680		2,555,331
減価償却累計額		△1,276,138		△1,313,707
信託構築物(純額)		1,258,541		1,241,623
信託機械及び装置		3,074,288		3,101,627
減価償却累計額		△1,966,008		△1,991,699
信託機械及び装置(純額)		1,108,280		1,109,928
信託工具、器具及び備品		1,989,219		2,116,398
減価償却累計額		△1,162,614		△1,240,864
信託工具、器具及び備品(純額)		826,605		875,534
信託土地		386,358,802		387,183,061
信託建設仮勘定		583,190		106,412
有形固定資産合計		649,306,691		651,457,991
無形固定資産				
ソフトウェア		2,824		11,211
借地権		1,149,355		1,149,355
信託借地権		8,171,352		8,171,352
信託その他無形固定資産		104,784		98,173
無形固定資産合計		9,428,316		9,430,092
投資その他の資産				
差入敷金及び保証金		10,000		10,000
信託差入敷金及び保証金		38,372		38,372
長期前払費用		2,110,617		2,042,230
長期預け金		41,616		60,877
デリバティブ債権		51,799		7,333
投資その他の資産合計		2,252,405		2,158,814
固定資産合計		660,987,413		663,046,898
繰延資産				
投資法人債発行費		59,126		84,989
繰延資産合計		59,126		84,989
資産合計		723,202,444		727,227,771

(単位:千円)

	前期(ご参考) 2023年5月31日		当期 2023年11月30日	
負債の部				
流動負債				
営業未払金		3,242,910		3,106,964
短期借入金		1,000,000		4,000,000
1年内償還予定の投資法人債		10,000,000		—
1年内返済予定の長期借入金		31,600,000		28,050,000
未払費用		894,830		948,526
未払分配金		16,806		16,844
未払法人税等		587		588
未払消費税等		296,664		403,674
前受金		426,334		431,269
信託前受金		3,390,699		3,390,833
預り金		1,767		1,732
信託預り金		307,014		357,292
その他		7,781		167
流動負債合計		51,185,397		40,707,893
固定負債				
投資法人債		24,500,000		31,500,000
長期借入金		253,303,000		260,303,000
預り敷金及び保証金	※1	3,468,777	※1	3,494,796
信託預り敷金及び保証金		30,265,074		30,421,745
固定負債合計		311,536,852		325,719,541
負債合計		362,722,249		366,427,435
純資産の部				
投資主資本				
出資総額		319,973,305		319,973,305
剰余金				
出資剰余金		23,548,287		23,548,287
出資剰余金控除額	※4	△2,999,918	※4	△2,999,918
出資剰余金(純額)		20,548,369		20,548,369
任意積立金				
一時差異等調整積立金	※5	6,830,470	※5	6,752,944
配当準備積立金		3,146,465		3,148,382
任意積立金合計		9,976,935		9,901,326
当期末処分利益又は当期末処理損失(△)		9,929,741		10,369,952
剰余金合計		40,455,046		40,819,648
投資主資本合計		360,428,351		360,792,953
評価・換算差額等				
繰延ヘッジ損益		51,843		7,383
評価・換算差額等合計		51,843		7,383
純資産合計	※6	360,480,195	※6	360,800,336
負債純資産合計		723,202,444		727,227,771

### Ⅲ 損益計算書

(単位:千円)

	前期(ご参考)		当期	
	自 2022年12月 1 日 至 2023年 5 月31日		自 2023年 6 月 1 日 至 2023年11月30日	
営業収益				
賃貸事業収入	※1	22,818,571	※1	23,132,546
その他賃貸事業収入	※1	2,233,947	※1	1,910,008
不動産等売却益		—	※2	314,229
営業収益合計		25,052,518		25,356,784
営業費用				
賃貸事業費用	※1	11,778,376	※1	11,507,116
資産運用報酬		2,041,826		2,076,179
資産保管手数料		18,972		19,139
一般事務委託手数料		67,948		69,774
役員報酬		10,200		9,200
その他営業費用		231,897		266,880
営業費用合計		14,149,222		13,948,290
営業利益		10,903,295		11,408,494
営業外収益				
受取利息		111		109
未払分配金除斥益		1,323		1,686
保険金収入		3,583		3,422
補助金収入		257		—
受取補償金		—		32,566
受取損害賠償金		—		24,500
その他		995		4,889
営業外収益合計		6,271		67,173
営業外費用				
支払利息		893,886		945,475
投資法人債利息		66,424		67,174
投資法人債発行費償却		6,322		7,736
不動産等除却損		9,022		78,688
その他		3,563		6,034
営業外費用合計		979,220		1,105,109
経常利益		9,930,346		10,370,557
税引前当期純利益		9,930,346		10,370,557
法人税、住民税及び事業税		605		605
法人税等合計		605		605
当期純利益		9,929,741		10,369,952
前期繰越利益		—		—
当期末処分利益又は当期末処理損失(△)		9,929,741		10,369,952

### Ⅳ 投資主資本等変動計算書

前期(ご参考)(自 2022年12月 1 日 至 2023年 5 月31日)

(単位:千円)

	投資主資本						
	出資総額	剰余金			任意積立金		
		出資剰余金	出資剰余金 控除額	出資剰余金 (純額)	一時差異等 調整積立金	配当準備 積立金	任意積立金 合計
当期首残高	319,973,305	23,548,287	△2,999,918	20,548,369	6,907,995	3,144,636	10,052,632
当期変動額							
一時差異等調整積立金の取崩				—	△77,525		△77,525
配当準備積立金の積立				—		1,828	1,828
剰余金の分配				—			—
当期純利益				—			—
投資主資本以外の項目の当期変動額(純額)				—			—
当期変動額合計	—	—	—	—	△77,525	1,828	△75,697
当期末残高	※ 319,973,305	23,548,287	△2,999,918	20,548,369	6,830,470	3,146,465	9,976,935

	投資主資本			評価・換算差額等		純資産合計
	当期末処分利益 又は当期末処理 損失(△)	剰余金合計	投資主資本 合計	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	9,666,272	40,267,274	360,240,579	98,041	98,041	360,338,621
当期変動額						
一時差異等調整積立金の取崩	77,525	—	—		—	—
配当準備積立金の積立	△1,828	—	—		—	—
剰余金の分配	△9,741,970	△9,741,970	△9,741,970		—	△9,741,970
当期純利益	9,929,741	9,929,741	9,929,741		—	9,929,741
投資主資本以外の項目の当期変動額(純額)		—	—	△46,198	△46,198	△46,198
当期変動額合計	263,469	187,771	187,771	△46,198	△46,198	141,573
当期末残高	9,929,741	40,455,046	360,428,351	51,843	51,843	360,480,195

## IV 投資主資本等変動計算書

当期(自 2023年 6月 1日 至 2023年11月30日)

(単位:千円)

	投資主資本						
	出資総額	剰余金					
		出資剰余金	出資剰余金 控除額	出資剰余金 (純額)	任意積立金		
				一時差異等 調整積立金	配当準備 積立金	任意積立金 合計	
当期首残高	319,973,305	23,548,287	△2,999,918	20,548,369	6,830,470	3,146,465	9,976,935
当期変動額							
一時差異等調整積立金の取崩				—	△77,525		△77,525
配当準備積立金の積立				—		1,917	1,917
剰余金の分配				—			—
当期純利益				—			—
投資主資本以外の項目の当期変動額(純額)				—			—
当期変動額合計	—	—	—	—	△77,525	1,917	△75,608
当期末残高	※ 319,973,305	23,548,287	△2,999,918	20,548,369	6,752,944	3,148,382	9,901,326

	投資主資本			評価・換算差額等		純資産合計
	剰余金		投資主資本 合計	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
	当期末処分利益 又は当期末処理 損失(△)	剰余金合計				
当期首残高	9,929,741	40,455,046	360,428,351	51,843	51,843	360,480,195
当期変動額						
一時差異等調整積立金の取崩	77,525	—	—		—	—
配当準備積立金の積立	△1,917	—	—		—	—
剰余金の分配	△10,005,350	△10,005,350	△10,005,350		—	△10,005,350
当期純利益	10,369,952	10,369,952	10,369,952		—	10,369,952
投資主資本以外の項目の当期変動額(純額)		—	—	△44,460	△44,460	△44,460
当期変動額合計	440,210	364,602	364,602	△44,460	△44,460	320,141
当期末残高	10,369,952	40,819,648	360,792,953	7,383	7,383	360,800,336

## V 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

	前期(ご参考)	当期
	自 2022年12月 1日 至 2023年 5月31日	自 2023年 6月 1日 至 2023年11月30日
1. 固定資産の減価償却の方法	(1)有形固定資産(信託財産を含む) 定額法を採用しています。 なお、有形固定資産の耐用年数は以下のとおりです。 建物 2年～70年 構築物 2年～53年 機械及び装置 2年～31年 工具、器具及び備品 2年～20年 (2)無形固定資産(信託財産を含む) 定額法を採用しています。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいています。 (3)長期前払費用 定額法を採用しています。	(1)有形固定資産(信託財産を含む) 定額法を採用しています。 なお、有形固定資産の耐用年数は以下のとおりです。 建物 2年～70年 構築物 2年～53年 機械及び装置 2年～31年 工具、器具及び備品 2年～20年 (2)無形固定資産(信託財産を含む) 定額法を採用しています。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいています。 (3)長期前払費用 定額法を採用しています。
2. 引当金の計上基準	貸倒引当金 債権の貸倒損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権について、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。	貸倒引当金 債権の貸倒損失に備えるため、貸倒懸念債権等特定の債権について、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。
3. 繰延資産の処理方法	投資法人債発行費 投資法人債の償還までの期間にわたり定額法により償却しています。	投資法人債発行費 投資法人債の償還までの期間にわたり定額法により償却しています。
4. 収益及び費用の計上基準	(1)収益に関する計上基準 本投資法人の顧客との契約から生じる収益に関する主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点(収益を認識する通常の時点)は以下のとおりです。 ①不動産等の売却 不動産等売却収入については、不動産売却に係る契約に定められた引渡義務を履行することにより、顧客である買主が当該不動産等の支配を獲得した時点で収益計上を行っています。 ②水道光熱費収入(附加使用料) 水道光熱費収入については、不動産等の賃貸借契約及び付随する合意内容に基づき、顧客である賃借人に対する電気、水道等の供給に応じて収益計上を行っています。 水道光熱費収入のうち、本投資法人が代理人に該当すると判断したものについては、他の当事者が供給する電気、ガス等の料金として収受する額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しています。 (2)固定資産税等の処理方法 保有する不動産にかかる固定資産税、都市計画税及び償却資産税等については、賦課決定された税額のうち当期に対応する額を賃貸事業費用として費用処理する方法を採用しています。 なお、不動産又は不動産を信託財産とする信託受益権の取得に伴い、本投資法人が負担すべき初年度の固定資産税等相当額については、費用に計上せず当該不動産等の取得原価に算入しています。当期において不動産等の取得原価に算入した固定資産税等相当額は21,432千円です。	(1)収益に関する計上基準 本投資法人の顧客との契約から生じる収益に関する主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点(収益を認識する通常の時点)は以下のとおりです。 ①不動産等の売却 不動産等売却収入については、不動産売却に係る契約に定められた引渡義務を履行することにより、顧客である買主が当該不動産等の支配を獲得した時点で収益計上を行っています。 ②水道光熱費収入(附加使用料) 水道光熱費収入については、不動産等の賃貸借契約及び付随する合意内容に基づき、顧客である賃借人に対する電気、水道等の供給に応じて収益計上を行っています。 水道光熱費収入のうち、本投資法人が代理人に該当すると判断したものについては、他の当事者が供給する電気、ガス等の料金として収受する額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しています。 (2)固定資産税等の処理方法 保有する不動産にかかる固定資産税、都市計画税及び償却資産税等については、賦課決定された税額のうち当期に対応する額を賃貸事業費用として費用処理する方法を採用しています。 なお、不動産又は不動産を信託財産とする信託受益権の取得に伴い、本投資法人が負担すべき初年度の固定資産税等相当額については、費用に計上せず当該不動産等の取得原価に算入しています。当期において不動産等の取得原価に算入した固定資産税等相当額は6,086千円です。



# V 注記表

	前期(ご参考) 自 2022年12月1日 至 2023年5月31日	当期 自 2023年6月1日 至 2023年11月30日
5. ヘッジ会計の方法	<p>(1)ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっています。</p> <p>(2)ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>①ヘッジ手段 金利キャップ取引 金利スワップ取引</p> <p>②ヘッジ対象 借入金金利</p> <p>(3)ヘッジ方針 本投資法人は財務方針に基づき、規約に規定するリスクをヘッジする目的でデリバティブ取引を行っています。</p> <p>(4)ヘッジの有効性評価の方法 ヘッジ対象の相場変動の累計又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動の累計又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、両者の変動額の比率を検証することにより、ヘッジの有効性を評価しています。 ただし、金利スワップの特例処理の要件を満たしているものについては、有効性の評価を省略しています。 〔LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い〕を適用しているヘッジ関係 上記のヘッジ関係のうち、〔LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い〕(実務対応報告第40号2022年3月17日)の適用範囲に含まれるヘッジ関係のすべてに、当該実務対応報告に定められる特例的な取扱いを適用しています。当該実務対応報告を適用しているヘッジ関係の内容は以下のとおりです。</p> <p>ヘッジ会計の方法 金利スワップの特例処理</p> <p>ヘッジ手段 金利スワップ取引</p> <p>ヘッジ対象 借入金金利</p> <p>ヘッジ取引の種類 キャッシュ・フローを固定するもの</p>	<p>(1)ヘッジ会計の方法 繰延ヘッジ処理によっています。</p> <p>(2)ヘッジ手段とヘッジ対象</p> <p>①ヘッジ手段 金利キャップ取引 金利スワップ取引</p> <p>②ヘッジ対象 借入金金利</p> <p>(3)ヘッジ方針 本投資法人は財務方針に基づき、規約に規定するリスクをヘッジする目的でデリバティブ取引を行っています。</p> <p>(4)ヘッジの有効性評価の方法 ヘッジ対象の相場変動の累計又はキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段の相場変動の累計又はキャッシュ・フロー変動の累計を比較し、両者の変動額の比率を検証することにより、ヘッジの有効性を評価しています。 ただし、金利スワップの特例処理の要件を満たしているものについては、有効性の評価を省略しています。 〔LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い〕を適用しているヘッジ関係 上記のヘッジ関係のうち、〔LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い〕(実務対応報告第40号2022年3月17日)の適用範囲に含まれるヘッジ関係のすべてに、当該実務対応報告に定められる特例的な取扱いを適用しています。当該実務対応報告を適用しているヘッジ関係の内容は以下のとおりです。</p> <p>ヘッジ会計の方法 金利スワップの特例処理</p> <p>ヘッジ手段 金利スワップ取引</p> <p>ヘッジ対象 借入金金利</p> <p>ヘッジ取引の種類 キャッシュ・フローを固定するもの</p>
6. その他計算書類作成のための基本となる重要な事項	<p>(1)不動産等を信託財産とする信託受益権に関する会計処理方法 保有する不動産等を信託財産とする信託受益権については、信託財産内の全ての資産及び負債勘定並びに信託財産に生じた全ての収益及び費用勘定について、貸借対照表及び損益計算書の該当勘定科目に計上しています。 なお、該当勘定科目に計上した信託財産のうち重要性がある下記の科目については、貸借対照表において区分掲記しています。</p> <p>①信託現金及び信託預金 ②信託建物、信託構築物、信託機械及び装置、信託工具、器具及び備品、信託土地、信託建設仮勘定 ③信託借地権、信託その他無形固定資産 ④信託差入敷金及び保証金 ⑤信託前受金 ⑥信託預り金 ⑦信託預り敷金及び保証金</p> <p>(2)控除対象外消費税等の処理方法 固定資産等に係る控除対象外消費税は個々の資産の取得原価に算入しています。</p>	<p>(1)不動産等を信託財産とする信託受益権に関する会計処理方法 保有する不動産等を信託財産とする信託受益権については、信託財産内の全ての資産及び負債勘定並びに信託財産に生じた全ての収益及び費用勘定について、貸借対照表及び損益計算書の該当勘定科目に計上しています。 なお、該当勘定科目に計上した信託財産のうち重要性がある下記の科目については、貸借対照表において区分掲記しています。</p> <p>①信託現金及び信託預金 ②信託建物、信託構築物、信託機械及び装置、信託工具、器具及び備品、信託土地、信託建設仮勘定 ③信託借地権、信託その他無形固定資産 ④信託差入敷金及び保証金 ⑤信託前受金 ⑥信託預り金 ⑦信託預り敷金及び保証金</p> <p>(2)控除対象外消費税等の処理方法 固定資産等に係る控除対象外消費税は個々の資産の取得原価に算入しています。</p>

## (重要な会計上の見積りに関する注記)

前期(ご参考)(2023年5月31日)

固定資産の減損

### 1. 当期の財務諸表に計上した金額

	金額(千円)
減損損失	—
有形固定資産	649,306,691
無形固定資産	9,428,316

## 2. 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

本投資法人は、固定資産の減損に係る会計基準に従い、収益性の低下により投資額の回収が見込めなくなった場合、固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額する会計処理を適用しています。

会計処理の適用にあたっては、本投資法人が保有する各物件を一つの資産グループとし、営業損益又はキャッシュ・フローが継続してマイナス、使用範囲又は方法について回収可能価額を著しく低下させる変化、経営環境の著しい悪化及び市場価格の著しい下落等によって減損の兆候があると認められる場合に減損損失の認識の要否を判定します。

減損損失を認識するかどうかの検討には将来キャッシュ・フローの見積金額を用い、減損損失の認識が必要と判断された場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上します。

将来キャッシュ・フローの見積りにあたっては、その前提となる賃料、賃貸事業費用、割引率等について、不動産鑑定評価において設定されている数値等の外部専門家の情報を参考に、市場の動向、類似不動産の取引事例等を総合的に勘案の上決定します。

各物件の業績や市場価格は、不動産賃貸市場や不動産売買市場の動向の影響を受ける可能性があります。そのため、見積りの前提に変更が生じた場合には、翌期の本投資法人の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。

当期(2023年11月30日)

固定資産の減損

### 1. 当期の財務諸表に計上した金額

	金額(千円)
減損損失	—
有形固定資産	651,457,991
無形固定資産	9,430,092

## 2. 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

本投資法人は、固定資産の減損に係る会計基準に従い、収益性の低下により投資額の回収が見込めなくなった場合、固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額する会計処理を適用しています。

会計処理の適用にあたっては、本投資法人が保有する各物件を一つの資産グループとし、営業損益又はキャッシュ・フローが継続してマイナス、使用範囲又は方法について回収可能価額を著しく低下させる変化、経営環境の著しい悪化及び市場価格の著しい下落等によって減損の兆候があると認められる場合に減損損失の認識の要否を判定します。

減損損失を認識するかどうかの検討には将来キャッシュ・フローの見積金額を用い、減損損失の認識が必要と判断された場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上します。

将来キャッシュ・フローの見積りにあたっては、その前提となる賃料、賃貸事業費用、割引率等について、不動産鑑定評価において設定されている数値等の外部専門家の情報を参考に、市場の動向、類似不動産の取引事例等を総合的に勘案の上決定します。

各物件の業績や市場価格は、不動産賃貸市場や不動産売買市場の動向の影響を受ける可能性があります。そのため、見積りの前提に変更が生じた場合には、翌期の本投資法人の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に影響を及ぼす可能性があります。

## (貸借対照表に関する注記)

### ※1. 担保に供している資産及び担保を付している債務

担保に供している資産は以下のとおりです。

(単位:千円)

	前期(ご参考) 2023年5月31日	当期 2023年11月30日
建物	1,233,968	1,193,634
構築物	5,606	5,404
土地	2,089,982	2,089,982
合計	3,329,557	3,289,021

# V 注記表

担保を付している債務は以下のとおりです。(単位:千円)

	前期(ご参考) 2023年5月31日	当期 2023年11月30日
預り敷金及び保証金	408,171	408,171
合計	408,171	408,171

## 2. コミットメントライン契約

本投資法人は、取引銀行とコミットメントライン契約を締結しています。(単位:千円)

	前期(ご参考) 2023年5月31日	当期 2023年11月30日
コミットメントライン契約の総額	36,000,000	36,000,000
借入残高	—	—
差引	36,000,000	36,000,000

## ※3. 国庫補助金により取得した有形固定資産の圧縮記帳額 (単位:千円)

	前期(ご参考) 2023年5月31日	当期 2023年11月30日
信託建物	39,608	39,608

## ※4. 自己投資口の消却の状況

	前期(ご参考) 2023年5月31日	当期 2023年11月30日
総消却口数	19,746口	19,746口
消却総額	2,999,918千円	2,999,918千円

(注)当期中の自己投資口の消却はありません。

## ※5. 一時差異等調整積立金の積立て及び取崩しの処理に関する事項

前期(ご参考)(2023年5月31日) (単位:千円)

	当初発生額	当期首残高	当期積立額	当期取崩額	当期末残高	積立て、取崩しの発生事由
負ののれん発生益(注1)	7,546,388	6,716,285	—	75,463	6,640,821	分配金に充当
減価償却費等による利益超過税会不一致の一部(注2)	66,949	61,593	—	669	60,923	分配金に充当
	76,099	70,772	—	760	70,011	
	63,132	59,344	—	631	58,713	

(注1) 過年度に計上した負ののれん発生益に細分された金額の残額であり、2017年5月期以降、当初発生額の50年均等額にあたる1%相当以上の金額を毎期取り崩す予定です。  
(注2) 減価償却費等による利益超過税会不一致の一部であり、積立てを行った期の翌期以降、当初発生額の50年均等額にあたる1%相当以上の金額を毎期取り崩す予定です。

当期(2023年11月30日) (単位:千円)

	当初発生額	当期首残高	当期積立額	当期取崩額	当期末残高	積立て、取崩しの発生事由
負ののれん発生益(注1)	7,546,388	6,640,821	—	75,463	6,565,357	分配金に充当
減価償却費等による利益超過税会不一致の一部(注2)	66,949	60,923	—	669	60,254	分配金に充当
	76,099	70,011	—	760	69,250	
	63,132	58,713	—	631	58,081	

(注1) 過年度に計上した負ののれん発生益に細分された金額の残額であり、2017年5月期以降、当初発生額の50年均等額にあたる1%相当以上の金額を毎期取り崩す予定です。  
(注2) 減価償却費等による利益超過税会不一致の一部であり、積立てを行った期の翌期以降、当初発生額の50年均等額にあたる1%相当以上の金額を毎期取り崩す予定です。

## ※6. 投資信託及び投資法人に関する法律第67条第4項に定める最低純資産額 (単位:千円)

	前期(ご参考) 2023年5月31日	当期 2023年11月30日
	50,000	50,000

## (損益計算書に関する注記)

### ※1. 不動産事業損益の内訳 (単位:千円)

	前期(ご参考) 自2022年12月1日 至2023年5月31日	当期 自2023年6月1日 至2023年11月30日
<b>A. 不動産賃貸事業収益</b>		
賃貸事業収入		
賃料収入	20,493,491	20,806,415
共益費収入	1,388,156	1,381,887
駐車場収入	770,051	773,907
その他賃貸収入(注1)	166,870	170,335
その他賃貸事業収入		
附加使用料(注2)	1,605,287	1,696,640
賃貸事業一時収入	532,405	117,269
その他雑収入	96,254	96,098
不動産賃貸事業収益合計	25,052,518	25,042,544
<b>B. 不動産賃貸事業費用</b>		
賃貸事業費用		
公租公課	2,126,537	2,235,386
外注委託費	1,834,831	1,855,044
水道光熱費	1,919,501	1,788,984
損害保険料	37,814	38,273
修繕費(注3)	1,322,963	1,063,644
減価償却費	4,067,539	4,069,018
その他賃貸事業費用	469,189	456,765
不動産賃貸事業費用合計	11,778,376	11,507,116
<b>C. 不動産賃貸事業損益(A-B)</b>	<b>13,274,141</b>	<b>13,535,438</b>

(注1) 賃料収入、共益費収入及び駐車場収入以外の定額の収益を記載しています。

(注2) 使用料に応じてテナントから受け取る水道光熱費等を記載しています。

(注3) 修繕費及び修繕積立金を記載しています。

### ※2. 不動産等売却益の内訳

前期(ご参考)(自2022年12月1日 至 2023年5月31日)

該当事項はありません。

当期(自2023年6月1日 至 2023年11月30日)

グランルージュ栄	(単位:千円)
不動産等売却収入	1,450,000
不動産等売却原価	1,121,429
その他売却費用	14,341
不動産等売却益	314,229

# V 注記表

## (投資主資本等変動計算書に関する注記)

※. 発行可能投資口総口数及び発行済投資口の総口数

	前期(ご参考) 自 2022年12月1日 至 2023年5月31日	当期 自 2023年6月1日 至 2023年11月30日
発行可能投資口総口数	10,000,000口	10,000,000口
発行済投資口の総口数	3,098,591口	3,098,591口

## (税効果会計に関する注記)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳 (単位:千円)

	前期(ご参考) 2023年5月31日	当期 2023年11月30日
繰延税金資産		
税務上の収益認識差額	23,980	37,416
合併時受入評価差額	15,563,658	15,543,976
貸倒引当金繰入超過額	1,970	282
減損損失	328,442	328,442
その他	236	226
小計	15,918,288	15,910,345
評価性引当額	△15,918,288	△15,910,345
合計	—	—
繰延税金資産の純額	—	—

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前期(ご参考) 2023年5月31日	当期 2023年11月30日
法定実効税率 (調整)	31.46%	31.46%
支払分配金の損金算入額	△31.23%	△31.38%
評価性引当額の増減	△0.23%	△0.08%
その他	0.01%	0.01%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	0.01%	0.01%

## (金融商品に関する注記)

前期(ご参考)(自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

本投資法人は、資産の取得、修繕又は有利子負債の返済等に充当する資金を、主として金融機関からの借入、投資法人債の発行、又は新投資口の発行により調達しています。

有利子負債の調達においては、堅固な財務体質を構築するとの方針から、原則として長期・固定での資金調達を行い、また返済期限の分散化や、コミットメントラインの活用等を通じた財務の安定性・流動性確保を目指すなど、保守的な財務戦略を基本方針としています。

また、一時的な余剰資金の効率的な運用に資するため、各種の預金等で運用することがあります。

さらに、デリバティブ取引は借入金等の金利変動リスクをヘッジすることを目的としたものに限って行うことがあります。

(2)金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

借入金及び投資法人債については、主として不動産等及び不動産対応証券等の取得及び有利子負債の返済を目的とした資金調達です。借入金及び投資法人債は、弁済期日・償還日において流動性リスクに晒されますが、本投資法人ではLTVを適正と考えられる範囲でコントロールして増資による資本市場からの資金調達力の維持・強化に努めること、国内複数の有力金融機関との間でコミットメントライン契約を締結し手元流動性を確保することなどにより当該リスクを管理しています。

また、変動金利による借入金は、金利の変動リスクに晒されていますが、借入額全体に占める変動金利による借入金残高の比率を金融環境等に応じて調整すること及び、支払利息の固定化を図るために、デリバティブ取引(金利キャップ取引及び金利スワップ取引)をヘッジ手段として利用、検討することなどにより当該リスクを管理しています。なお、デリバティブ取引に係るリスク管理については、資産運用会社の運用管理手続に定めています。

本投資法人の余資を大口定期等で運用する預金については、預入先金融機関の破綻などの信用リスクが存在しますが、預入先金融機関を分散することなどにより当該リスクを管理しています。

預り敷金及び保証金並びに信託預り敷金及び保証金は、テナントからの預り金であり、契約満了前の退去による流動性リスクに晒されています。当該リスクに関しては、返還に支障がない範囲の金額を留保することや、コミットメントライン契約を締結し手元流動性を確保することなどにより当該リスクを管理しています。

(3)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等を用いた場合、当該価額が異なる場合もあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、「現金及び預金」、「信託現金及び信託預金」、「短期借入金」は現金及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、注記を省略しています。また、「預り敷金及び保証金」、「信託預り敷金及び保証金」は重要性が乏しいため、注記を省略しています。

(単位:千円)

	貸借対照表計上額	時 価(注1)	差 額
(1)1年内償還予定の投資法人債	10,000,000	9,993,000	△7,000
(2)1年内返済予定の長期借入金	31,600,000	31,637,627	37,627
(3)投資法人債	24,500,000	24,228,050	△271,950
(4)長期借入金	253,303,000	252,586,104	△716,895
負債合計	319,403,000	318,444,782	△958,217
(5)デリバティブ取引(※)	51,843	51,843	—
デリバティブ取引合計	51,843	51,843	—

※デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計での正味の債務となる項目については、( )で表示しています。

(注1)金融商品の時価の算定方法

(1)1年内償還予定の投資法人債、(3)投資法人債

これらの時価については、金融機関等による売買取引等の参考気配値に基づき算定しています。

(2)1年内返済予定の長期借入金、(4)長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を残存期間に対応した新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によります。なお、金利スワップの特例処理の対象とされた変動金利による長期借入金(下記[(5)デリバティブ取引]をご参照ください。)は、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、残存期間に対応した同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によります。

(5)デリバティブ取引

①ヘッジ会計が適用されていないもの

該当事項はありません。

## ②ヘッジ会計が適用されているもの

ヘッジ会計の方法ごとの決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額等は、次のとおりです。  
(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等		時 価	当該時価の算定方法
			うち1年超			
原則的処理方法	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	11,500,000	10,500,000	51,843	(※2)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	3,300,000	1,000,000	(※1)	—
合 計			14,800,000	11,500,000	51,843	

(※1) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しています(上記「(2)1年内返済予定の長期借入金、(4)長期借入金」をご参照ください)。また、「LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い」(実務対応報告第40号 2022年3月17日)の適用範囲に含まれるものについては、当該実務対応報告に定められる特例的な取扱いを適用しています。

(※2) 当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価しています。

## (注2) 投資法人債及び借入金の決算日後の返済予定額 (単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
投資法人債	10,000,000	2,000,000	18,000,000	—	—	4,500,000
長期借入金	31,600,000	33,450,000	29,800,000	44,400,000	41,200,000	104,453,000
合 計	41,600,000	35,450,000	47,800,000	44,400,000	41,200,000	108,953,000

当期(自 2023年 6月 1日 至 2023年11月30日)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

### (1) 金融商品に対する取組方針

本投資法人は、資産の取得、修繕又は有利子負債の返済等に充当する資金を、主として金融機関からの借入、投資法人債の発行、又は新投資口の発行により調達しています。

有利子負債の調達においては、堅固な財務体質を構築するとの方針から、原則として長期・固定での資金調達を行い、また返済期限の分散化や、コミットメントラインの活用等を通じた財務の安定性・流動性確保を目指すなど、保守的な財務戦略を基本方針としています。

また、一時的な余剰資金の効率的な運用に資するため、各種の預金等で運用することがあります。

さらに、デリバティブ取引は借入金等の金利変動リスクをヘッジすることを目的としたものに限って行うことがあります。

### (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

借入金及び投資法人債については、主として不動産等及び不動産対応証券等の取得及び有利子負債の返済を目的とした資金調達です。借入金及び投資法人債は、弁済期日・償還日において流動性リスクに晒されますが、本投資法人ではLTVを適正と考えられる範囲でコントロールして増資による資本市場からの資金調達力の維持・強化に努めること、国内複数の有力金融機関との間でコミットメントライン契約を締結し手元流動性を確保することなどにより当該リスクを管理しています。

また、変動金利による借入金は、金利の変動リスクに晒されていますが、借入額全体に占める変動金利による借入金残高の比率を金融環境等に応じて調整すること及び、支払利息の固定化を図るために、デリバティブ取引(金利キャップ取引及び金利スワップ取引)をヘッジ手段として利用、検討することなどにより当該リスクを管理しています。なお、デリバティブ取引に係るリスク管理については、資産運用会社の運用管理手続に定めています。

本投資法人の余資を大口定期等で運用する預金については、預入先金融機関の破綻などの信用リスクが存在しますが、預入先金融機関を分散することなどにより当該リスクを管理しています。

預り敷金及び保証金並びに信託預り敷金及び保証金は、テナントからの預り金であり、契約満了前の退去による流動性リスクに晒されています。当該リスクに関しては、返還に支障がない範囲の金額を留保することや、コミットメントライン契約を締結し手元流動性を確保することなどにより当該リスクを管理しています。

### (3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等を用いた場合、当該価額が異なる場合もあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりです。なお、「現金及び預金」、「信託現金及び信託預金」、「短期借入金」は現金及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、注記を省略しています。また、「預り敷金及び保証金」、「信託預り敷金及び保証金」は重要性が乏しいため、注記を省略しています。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時 価(注1)	差 額
(1)1年内償還予定の投資法人債	—	—	—
(2)1年内返済予定の長期借入金	28,050,000	28,091,810	41,810
(3)投資法人債	31,500,000	31,135,050	△364,950
(4)長期借入金	260,303,000	258,404,899	△1,898,100
負債合計	319,853,000	317,631,760	△2,221,239
(5)デリバティブ取引(※)	7,383	7,383	—
デリバティブ取引合計	7,383	7,383	—

※デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計での正味の債務となる項目については、( )で表示しています。

## (注1) 金融商品の時価の算定方法

### (1) 1年内償還予定の投資法人債、(3)投資法人債

これらの時価については、金融機関等による売買取引等の参考気配値に基づき算定しています。

### (2) 1年内返済予定の長期借入金、(4)長期借入金

これらの時価については、元利金の合計額を残存期間に対応した新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっています。なお、金利スワップの特例処理の対象とされた変動金利による長期借入金(下記「(5)デリバティブ取引」をご参照ください。)は、当該金利スワップと一体として処理された元利金の合計額を、残存期間に対応した同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっています。

### (5) デリバティブ取引

#### ①ヘッジ会計が適用されていないもの

該当事項はありません。

#### ②ヘッジ会計が適用されているもの

ヘッジ会計の方法ごとの決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額等は、次のとおりです。

(単位：千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等		時 価	当該時価の算定方法
			うち1年超			
原則的処理方法	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	21,500,000	20,500,000	7,383	(※2)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 変動受取・固定支払	長期借入金	2,000,000	—	(※1)	—
合 計			23,500,000	20,500,000	7,383	

(※1) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しています(上記「(2)1年内返済予定の長期借入金、(4)長期借入金」をご参照ください)。また、「LIBORを参照する金融商品に関するヘッジ会計の取扱い」(実務対応報告第40号 2022年3月17日)の適用範囲に含まれるものについては、当該実務対応報告に定められる特例的な取扱いを適用しています。

(※2) 当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価しています。

## (注2) 投資法人債及び借入金の決算日後の返済予定額 (単位：千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
投資法人債	—	10,000,000	17,000,000	—	—	4,500,000
長期借入金	28,050,000	29,600,000	37,300,000	51,600,000	29,850,000	111,953,000
合 計	28,050,000	39,600,000	54,300,000	51,600,000	29,850,000	116,453,000

# V 注記表

## (賃貸等不動産に関する注記)

本投資法人は、首都圏並びに政令指定都市をはじめとする日本全国の主要都市及びそれぞれの周辺部において、賃貸用の不動産等を保有しています。これら賃貸等不動産に係る貸借対照表計上額、期中増減額及び期末時価は以下のとおりです。

(単位:千円)

用途		前期(ご参考) 自 2022年12月1日 至 2023年5月31日	当期 自 2023年6月1日 至 2023年11月30日
商業施設	貸借対照表計上額		
	期首残高	187,796,463	187,895,408
	期中増減額	98,945	1,987,554
	期末残高	187,895,408	189,882,963
	期末時価	217,099,000	219,339,000
オフィスビル	貸借対照表計上額		
	期首残高	192,530,086	194,559,093
	期中増減額	2,029,006	△727,095
	期末残高	194,559,093	193,831,997
	期末時価	260,380,000	248,374,000
ホテル	貸借対照表計上額		
	期首残高	158,961,094	158,879,474
	期中増減額	△81,619	2,031,900
	期末残高	158,879,474	160,911,374
	期末時価	184,046,000	188,417,000
住居	貸借対照表計上額		
	期首残高	46,121,214	47,686,906
	期中増減額	1,565,692	△1,347,941
	期末残高	47,686,906	46,338,965
	期末時価	69,260,000	68,121,000
その他	貸借対照表計上額		
	期首残高	67,431,683	69,606,515
	期中増減額	2,174,832	206,882
	期末残高	69,606,515	69,813,398
	期末時価	94,680,000	95,290,000
合計	貸借対照表計上額		
	期首残高	652,840,542	658,627,399
	期中増減額	5,786,856	2,151,300
	期末残高	658,627,399	660,778,699
	期末時価	825,465,000	819,541,000

(注1) 貸借対照表計上額は、取得原価(取得に伴う付帯費用を含みます。)から減価償却累計額を控除した金額です。  
(注2) 期中増減額のうち、前期の主な増加額は新規3物件の取得(合計5,897百万円)、既保有物件の建物部分の追加取得(1,244百万円)及び資本的支出(2,443百万円)によるものであり、主な減少額は減価償却費(4,059百万円)によるものです。当期の主な増加額は新規2物件の取得(合計4,648百万円)及び資本的支出(3,233百万円)によるものであり、主な減少額は1物件の譲渡(1,121百万円)及び減価償却費(4,061百万円)によるものです。  
(注3) 期末時価は、本投資法人の規約に定める資産評価の方法及び基準並びに一般社団法人投資信託協会の定める規則に基づき、不動産鑑定士による鑑定評価額又は調査価額を記載しています。

なお、賃貸等不動産に関する損益については、(損益計算書に関する注記)をご参照ください。

## (関連当事者との取引に関する注記)

前期(ご参考)(自 2022年12月1日 至 2023年5月31日)

### 1. 資産運用会社及び利害関係人等

属性	会社等の名称	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有割合 (%)	役員の 兼任等	取引の内容	取引金額 (千円) (注2)	科目	期末残高 (千円) (注2)
利害関係人等	みずほ丸紅リース株式会社	リース業	—	なし	不動産信託受益権の購入(注4)	2,932,000	—	—

(注1) 開示対象となる関連当事者との取引のうち、重要な取引を含む関連当事者との取引を開示しています。  
(注2) 取引金額には消費税額は含まれていませんが、期末残高には含まれています。  
(注3) 取引条件の決定方法等:市場の実勢に基づいて決定しています。  
(注4) 不動産信託受益権の購入は、「グランルージュ城東」及び「札幌米里物流センター」に係るもので、取引金額には取得に要した諸費用(仲介手数料、公租公課等)を含まない金額(売買契約書等に記載された価額)を記載しています。

### 2. 資産保管会社

属性	取引先名称	事業の内容 又は職業	投資口の 所有口数 割合(%)	取引の内容	取引金額 (千円) (注2)	科目	期末残高 (千円) (注2)
資産保管会社	三井住友信託銀行株式会社	信託銀行業	—	短期借入金の借入	1,000,000	短期借入金	1,000,000
				長期借入金の借入	13,400,000	長期借入金	57,183,000
				1年内返済予定の長期借入金の返済	13,400,000	1年内返済予定の長期借入金	12,500,000
				支払利息	169,569	未払費用	58,527
				融資関連費用	66,389	前払費用	5,439
						長期前払費用	570,183
						未払費用	2,328

(注1) 開示対象となる関連当事者との取引のうち、重要な取引を含む関連当事者との取引を開示しています。  
(注2) 取引金額には消費税額は含まれていませんが、期末残高には含まれています。  
(注3) 取引条件の決定方法等:市場の実勢に基づいて決定しています。

その他該当する事項はありません。

当期(自 2023年6月1日 至 2023年11月30日)

### 1. 資産運用会社及び利害関係人等

該当事項はありません。

### 2. 資産保管会社

属性	取引先名称	事業の内容 又は職業	投資口の 所有口数 割合(%)	取引の内容	取引金額 (千円) (注2)	科目	期末残高 (千円) (注2)
資産保管会社	三井住友信託銀行株式会社	信託銀行業	—	短期借入金の借入	3,000,000	短期借入金	4,000,000
				長期借入金の借入	10,000,000	長期借入金	65,483,000
				1年内返済予定の長期借入金の返済	10,000,000	1年内返済予定の長期借入金	4,200,000
				支払利息	169,077	未払費用	61,170
				融資関連費用	66,506	前払費用	12,699
						長期前払費用	585,147
						未払費用	2,294

(注1) 開示対象となる関連当事者との取引のうち、重要な取引を含む関連当事者との取引を開示しています。  
(注2) 取引金額には消費税額は含まれていませんが、期末残高には含まれています。  
(注3) 取引条件の決定方法等:市場の実勢に基づいて決定しています。

その他該当する事項はありません。

# V 注記表

## (1口当たり情報に関する注記)

	前期(ご参考) 自 2022年12月 1 日 至 2023年 5 月31 日	当期 自 2023年 6 月 1 日 至 2023年11月30日
1口当たり純資産額	116,336円	116,440円
1口当たり当期純利益	3,204円	3,346円

(注1) 1口当たり当期純利益は、当期純利益を日数加重平均口数で除することにより算出しています。なお、潜在投資口調整後1口当たり当期純利益については、潜在投資口がないため記載していません。

(注2) 1口当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前期(ご参考) 自 2022年12月 1 日 至 2023年 5 月31 日	当期 自 2023年 6 月 1 日 至 2023年11月30日
当期純利益	(千円) 9,929,741	10,369,952
普通投資主に帰属しない金額	(千円) —	—
普通投資口に係る当期純利益	(千円) 9,929,741	10,369,952
期中平均投資口数	(口) 3,098,591	3,098,591

## (収益認識に関する注記)

前期(ご参考)(自 2022年12月 1 日 至 2023年 5 月31日)

### 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位:千円)

	顧客との契約から生じる収益(注1)	外部顧客への売上高
不動産等売却収入	—	—
水道光熱費収入(注3)	1,605,287	1,605,287
その他	—	23,447,230
合 計	1,605,287	25,052,518

(注1) 企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の対象となる賃貸事業収入等及び日本公認会計士協会会計制度委員会報告第15号「特別目的会社を活用した不動産の流動化に係る譲渡人の会計処理に関する実務指針」の対象となる不動産等の譲渡は収益認識会計基準の適用外となるため、上記金額には含めていません。なお、主な顧客との契約から生じる収益は不動産等売却収入及び水道光熱費収入です。

(注2) 不動産等売却収入については、損益計算書において不動産等売却損益(不動産等売却収入より不動産等売却原価及びその他売却費用を控除した額)として計上します。本投資法人においては、不動産等売却益を営業収益に、不動産等売却損を営業費用に計上しているため、上表には不動産等売却益の額のみを記載しています。

(注3) 水道光熱費収入については、不動産等の賃貸借契約及び付随する合意内容に基づき、顧客である賃借人に対する電気、水道等の供給に応じて収益計上した額を記載しています。

### 2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載のとおりです。

### 3. 当該営業期間及び翌営業期間以降の収益の金額を理解するための情報

#### (1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位:千円)

顧客との契約から生じた債権(期首残高)	317,711
顧客との契約から生じた債権(期末残高)	315,789
契約資産(期首残高)	—
契約資産(期末残高)	—
契約負債(期首残高)	—
契約負債(期末残高)	—

#### (2) 残存履行義務に配分した取引価格

該当事項はありません。

なお、水道光熱費収入については、期末までに履行が完了した部分に対する顧客である賃借人にとっての価値に直接対応する対価の額を顧客から受け取る権利を有していることから、収益認識に関する会計基準の適用指針第19項に従って、請求する権利を有している金額で収益を認識しています。従って、収益認識に関する会計基準第80-22項(2)の定めを適用し残存履行義務に配分した取引価格の注記には含めていません。

当期(自 2023年 6 月 1 日 至 2023年11月30日)

### 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位:千円)

	顧客との契約から生じる収益(注1)	外部顧客への売上高
不動産等売却収入	1,450,000	314,229 (注2)
水道光熱費収入(注3)	1,696,640	1,696,640
その他	—	23,345,914
合 計	3,146,640	25,356,784

(注1) 企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」の対象となる賃貸事業収入等及び日本公認会計士協会会計制度委員会報告第15号「特別目的会社を活用した不動産の流動化に係る譲渡人の会計処理に関する実務指針」の対象となる不動産等の譲渡は収益認識会計基準の適用外となるため、上記金額には含めていません。なお、主な顧客との契約から生じる収益は不動産等売却収入及び水道光熱費収入です。

(注2) 不動産等売却収入については、損益計算書において不動産等売却損益(不動産等売却収入より不動産等売却原価及びその他売却費用を控除した額)として計上します。本投資法人においては、不動産等売却益を営業収益に、不動産等売却損を営業費用に計上しているため、上表には不動産等売却益の額のみを記載しています。

(注3) 水道光熱費収入については、不動産等の賃貸借契約及び付随する合意内容に基づき、顧客である賃借人に対する電気、水道等の供給に応じて収益計上した額を記載しています。

### 2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載のとおりです。

### 3. 当該営業期間及び翌営業期間以降の収益の金額を理解するための情報

#### (1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位:千円)

顧客との契約から生じた債権(期首残高)	315,789
顧客との契約から生じた債権(期末残高)	302,340
契約資産(期首残高)	—
契約資産(期末残高)	—
契約負債(期首残高)	—
契約負債(期末残高)	—

#### (2) 残存履行義務に配分した取引価格

該当事項はありません。

なお、水道光熱費収入については、期末までに履行が完了した部分に対する顧客である賃借人にとっての価値に直接対応する対価の額を顧客から受け取る権利を有していることから、収益認識に関する会計基準の適用指針第19項に従って、請求する権利を有している金額で収益を認識しています。従って、収益認識に関する会計基準第80-22項(2)の定めを適用し残存履行義務に配分した取引価格の注記には含めていません。

## (重要な後発事象に関する注記)

前期(ご参考)(自 2022年12月 1 日 至 2023年 5 月31日)

該当事項はありません。

当期(自 2023年 6 月 1 日 至 2023年11月30日)

該当事項はありません。

## VI 金銭の分配に係る計算書

	前期(ご参考) 自 2022年12月1日 至 2023年5月31日	当期 自 2023年6月1日 至 2023年11月30日
I. 当期末処分利益	9,929,741,912円	10,369,952,351円
II. 任意積立金取崩額		
一時差異等調整積立金取崩額	※ 77,525,695円	※ 77,525,695円
III. 分配金の額	10,005,350,339円	10,445,350,261円
(投資口1口当たりの分配金の額)	(3,229円)	(3,371円)
IV. 任意積立金		
配当準備積立金繰入額	1,917,268円	2,127,785円
V. 次期繰越利益	—円	—円
分配金の額の算出方法	<p>本投資法人の規約第35条(1)に定める分配方針に基づき、分配金の額は利益の金額を限度とし、かつ、租税特別措置法第67条の15に規定されている「配当可能利益の額」の90%に相当する金額を超えるものとしています。</p> <p>かかる方針により、当期末処分利益9,929,741,912円に一時差異等調整積立金取崩額77,525,695円を加算したうえで、投資口1口当たりの分配金が1円未満となる端数部分1,917,268円を配当準備積立金として留保した後の残額である10,005,350,339円を利益分配金として分配することとしました。</p> <p>なお、本投資法人規約第35条(2)に定める利益を超えた金銭の分配は行いません。</p>	<p>本投資法人の規約第35条(1)に定める分配方針に基づき、分配金の額は利益の金額を限度とし、かつ、租税特別措置法第67条の15に規定されている「配当可能利益の額」の90%に相当する金額を超えるものとしています。</p> <p>かかる方針により、当期末処分利益10,369,952,351円に一時差異等調整積立金取崩額77,525,695円を加算したうえで、投資口1口当たりの分配金が1円未満となる端数部分2,127,785円を配当準備積立金として留保した後の残額である10,445,350,261円を利益分配金として分配することとしました。</p> <p>なお、本投資法人規約第35条(2)に定める利益を超えた金銭の分配は行いません。</p>

### (金銭の分配に係る計算書に関する注記)

※.一時差異等調整積立金

前期(ご参考)(2023年5月31日)

本投資法人の、一時差異等調整積立金に係る内容は以下のとおりです。

積立て、取崩しの発生事由等	積立額、取崩額	取崩の具体的な方法
2016年11月期の金銭の分配に係る計算書において、過年度に計上した負ののれん発生益に細分された金額の残額である配当積立金を一時差異等調整積立金へ積立てており、制度上必要とされる額を取崩しました。	(当初積立額:7,546,388,071円) 当期取崩額: 75,463,881円	積立てを行った期の翌期である2017年5月期以降、当初積立額の50年均等額にあたる1%相当以上の金額(75,463,881円以上)を当該積立金が残存する限り、毎期取崩し、分配金に充当します。
金銭の分配に係る計算書において、減価償却費等による利益超過税会不一致の一部を一時差異等調整積立金へ積立てており、制度上必要とされる額を取崩しました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2018年5月期 (当初積立額:66,949,209円) 当期取崩額: 669,493円</li> <li>• 2018年11月期 (当初積立額:76,099,699円) 当期取崩額: 760,997円</li> <li>• 2019年5月期 (当初積立額:63,132,400円) 当期取崩額: 631,324円</li> </ul>	積立てを行った期の翌期以降、それぞれの当初積立額の50年均等額にあたる1%相当以上の金額を当該積立金が残存する限り、毎期取崩し、分配金に充当します。

当期(2023年11月30日)

本投資法人の、一時差異等調整積立金に係る内容は以下のとおりです。

積立て、取崩しの発生事由等	積立額、取崩額	取崩の具体的な方法
2016年11月期の金銭の分配に係る計算書において、過年度に計上した負ののれん発生益に細分された金額の残額である配当積立金を一時差異等調整積立金へ積立てており、制度上必要とされる額を取崩しました。	(当初積立額:7,546,388,071円) 当期取崩額: 75,463,881円	積立てを行った期の翌期である2017年5月期以降、当初積立額の50年均等額にあたる1%相当以上の金額(75,463,881円以上)を当該積立金が残存する限り、毎期取崩し、分配金に充当します。
金銭の分配に係る計算書において、減価償却費等による利益超過税会不一致の一部を一時差異等調整積立金へ積立てており、制度上必要とされる額を取崩しました。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2018年5月期 (当初積立額:66,949,209円) 当期取崩額: 669,493円</li> <li>• 2018年11月期 (当初積立額:76,099,699円) 当期取崩額: 760,997円</li> <li>• 2019年5月期 (当初積立額:63,132,400円) 当期取崩額: 631,324円</li> </ul>	積立てを行った期の翌期以降、それぞれの当初積立額の50年均等額にあたる1%相当以上の金額を当該積立金が残存する限り、毎期取崩し、分配金に充当します。

## 独立監査人の監査報告書

2024年1月19日

ユナイテッド・アーバン投資法人  
役員会 御中

### EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 竹之内 和 徳  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 石 田 勝 也  
業務執行社員

#### <計算書類等監査>

##### 監査意見

当監査法人は、投資信託及び投資法人に関する法律第130条の規定に基づき、ユナイテッド・アーバン投資法人の2023年6月1日から2023年11月30日までの第40期営業期間の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、投資主資本等変動計算書及び注記表、資産運用報告及び金銭の分配に係る計算書並びにその附属明細書（資産運用報告及びその附属明細書については、会計に関する部分に限る。以下同じ。）（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。なお、資産運用報告及びその附属明細書について監査意見の対象とした会計に関する部分は、資産運用報告及びその附属明細書に記載されている事項のうち会計帳簿の記録に基づく記載部分である。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

##### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、投資法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

##### その他の記載内容

その他の記載内容は、資産運用報告及びその附属明細書に含まれる情報のうち、監査意見の対象とした会計に関する部分以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監督役員の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における執行役員の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

##### 計算書類等に対する経営者及び監督役員の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監督役員の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における執行役員の職務の執行を監視することにある。

##### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、投資法人は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、執行役員に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、執行役員に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

##### <報酬関連情報>

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、投資法人の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、資産運用報告の「投資法人の概況」に含まれる(3) 役員等に関する事項に記載されている。

##### 利害関係

投資法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上



## Ⅷ キャッシュ・フロー計算書(参考情報)

(単位:千円)

	前期 自 2022年12月1日 至 2023年5月31日	当期 自 2023年6月1日 至 2023年11月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	9,930,346	10,370,557
減価償却費	4,067,539	4,069,018
不動産等売却益	—	△314,229
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△5,364	△5,364
受取利息及び有価証券利息	△111	△109
支払利息及び投資法人債利息	960,311	1,012,650
投資法人債発行費償却	6,322	7,736
不動産等除却損	9,022	78,688
営業未収入金の増減額(△は増加)	65,635	△13,996
前払費用の増減額(△は増加)	△633,834	617,499
長期前払費用の増減額(△は増加)	34,214	38,552
営業未払金の増減額(△は減少)	286,494	△450,344
未払費用の増減額(△は減少)	27,782	26,226
未払消費税等の増減額(△は減少)	△89,663	66,407
前受金の増減額(△は減少)	18,816	4,935
信託前受金の増減額(△は減少)	111,435	133
預り金の増減額(△は減少)	161	△35
信託預り金の増減額(△は減少)	△6,195	50,277
預り敷金及び保証金償却額	△27,005	△3,070
信託預り敷金及び保証金償却額	△383,202	△47,152
その他	△7,717	△25,305
小計	14,364,988	15,483,074
利息の受取額	111	109
利息の支払額	△1,136,727	△968,596
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△605	△604
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,227,768	14,513,982
投資活動によるキャッシュ・フロー		
信託有形固定資産の売却による収入	—	1,429,321
有形固定資産の取得による支出	△1,154,583	△2,639,110
信託有形固定資産の取得による支出	△8,413,827	△4,418,437
信託無形固定資産の取得による支出	—	△9,177
預り敷金及び保証金の受入による収入	79,652	48,297
預り敷金及び保証金の返還による支出	△61,506	△19,207
信託預り敷金及び保証金の受入による収入	1,104,960	813,729
信託預り敷金及び保証金の返還による支出	△211,240	△603,568
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,656,544	△5,398,154
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,000,000	3,000,000
長期借入れによる収入	28,900,000	23,550,000
長期借入金の返済による支出	△20,900,000	△20,100,000
投資法人債の発行による収入	—	6,966,400
投資法人債の償還による支出	△2,000,000	△10,000,000
分配金の支払額	△9,739,682	△10,003,275
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,739,682	△6,586,874
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,831,541	2,528,953
現金及び現金同等物の期首残高	58,906,455	60,737,996
現金及び現金同等物の期末残高	※ 60,737,996	※ 63,266,949

(重要な会計方針に関する注記)(参考情報)

	前期 自 2022年12月1日 至 2023年5月31日	当期 自 2023年6月1日 至 2023年11月30日
キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金及び信託現金、随時引き出し可能な預金及び信託預金並びに容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっています。	キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金及び信託現金、随時引き出し可能な預金及び信託預金並びに容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっています。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)(参考情報)

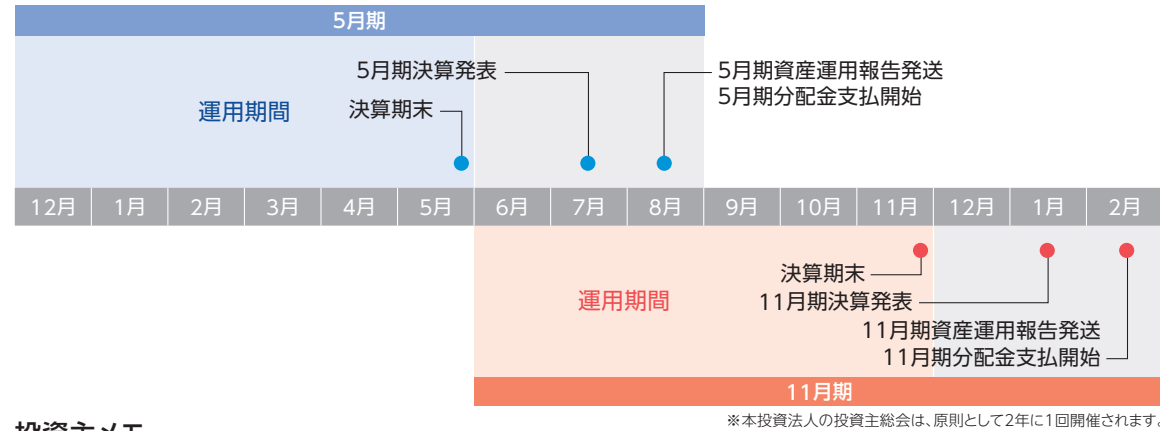
※.現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

(単位:千円)

	前期 自 2022年12月1日 至 2023年5月31日	当期 自 2023年6月1日 至 2023年11月30日
現金及び預金	34,265,446	36,006,995
信託現金及び信託預金	26,472,549	27,259,953
現金及び現金同等物	60,737,996	63,266,949

## 年間スケジュール

本投資法人の決算日は、毎年5月末日と11月末日の年2回です。



※本投資法人の投資主総会は、原則として2年に1回開催されます。

## 投資主メモ

決算期日	毎年5月末日、11月末日
投資主総会	原則として2年に1回開催
同議決権行使投資主確定日	本投資法人規約に定める日
分配金支払確定基準日	毎年5月末日、11月末日(分配金は支払確定基準日より3か月以内にお支払いします。)
上場金融商品取引所	東京証券取引所(銘柄コード:8960)
公告掲載新聞	日本経済新聞
投資主名簿等管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 [郵送/電話照会先] 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 0120-782-031(フリーダイヤル)
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 [郵送/電話照会先] 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 0120-782-031(フリーダイヤル) (旧日本コマーシャル投資法人の投資主の方はこちら) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 [郵送/電話照会先] 〒137-8081 東京都府中市日鋼町1番地1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-232-711(フリーダイヤル)

### 住所等の変更手続きについて

住所、氏名等の変更は、投資主様の口座のあるお取引証券会社等にお申し出ください。お取引証券会社等がないため特別口座が開設された投資主の方は、上記の「特別口座の口座管理機関」(三井住友信託銀行株式会社証券代行部(旧日本コマーシャル投資法人の投資主の方は三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部))へご連絡ください。

### 分配金の受け取りについて

「分配金」は「分配金領収証」をお近くのゆうちょ銀行・郵便局にお持ちいただくことでお受け取りいただけます。受取期間を過ぎた場合は、「分配金領収証」裏面に受取方法を指定し、上記の「投資主名簿等管理人」(三井住友信託銀行株式会社証券代行部)へご郵送いただくか、同銀行の本支店窓口にてお受け取りください。また、今後の分配金に関して、銀行振込のご指定の手続きをご希望の方は、お取引証券会社等へご連絡ください。

### 分配金の支払いに関する通知書について

分配金支払いの際に送付しています「分配金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねています。なお、分配金領収証にて分配金をお受け取りの投資主様につきましても、「分配金計算書」を同封させていただきます。確定申告をなされる投資主様は大切に保管ください。ただし、株式数比例配分方式をご指定いただいております投資主様におかれましては、お取引の証券会社等へご確認ください。

## ▶ 投資口に関する「マイナンバー制度」のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、投資口の税務関係のお手続きが必要となります。このため、投資主様から、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

### 投資口関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には投資主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

支払調書 \* 配当金に関する支払調書

### マイナンバーのお届出に関する問い合わせ先

証券口座にて投資口を管理されている投資主様  
 ・お取引の証券会社までお問い合わせください。  
 証券会社とのお取引がない投資主様  
 ・下記フリーダイヤルまでお問い合わせください。  
**三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 0120-782-031(フリーダイヤル)**  
 旧日本コマーシャル投資法人の投資主の方はこちら  
**三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-232-711(フリーダイヤル)**

## ホームページについて

ユナイテッド・アーバン投資法人のホームページでは、投資方針や基本的な仕組みなどのほかに、

- ポートフォリオ一覧
- 個別物件情報
- プレスリリース
- IR情報  
決算短信、決算説明資料、有価証券報告書

などのコンテンツをご提供しております。

スマートフォン、タブレットでも本投資法人のホームページをご覧いただけます。

下記のQRコードからアクセスいただくのが便利です。



ホームページアドレス <https://www.united-reit.co.jp/> ユナイテッド・アーバン 検索

### トップページ



### ポートフォリオ一覧



### 個別物件情報



### 個人投資家の皆様へ



### プレスリリース

